

に國民經濟の建設を終つたのが最も肝要な原因で、近來の獨逸の商工業上の進歩は保護政策の結果だと云ふ人があるが是れは間違つて居る。曾て或有名な經濟行政當局者が歐羅巴へ商業政策の觀察に行つて、獨逸の進歩を見て驚いた。保護政策の結果だから自分の國も保護政策を敷かなくちやならぬと言ふ議論を吐いた。成程皮相的に一見するとさうかも知れぬ。さう言ふ人は其の人ばかりでは無い、日本あたりの新聞雜誌にも見受けるやうである。ちよいと考えて見ると其の様だが實際さうでは無い。獨逸帝國の起る迄は國內に幾十の關稅區域があつて極めて入込んだ保護税を澤山課して居た。處が普魯西國あたりではスタイン、ハルデンベルヒの政策で千八百十二年から以來段々と之れを廢した。千八百七十年代になつて輸入税は殆んど總て廢されやうとした。然るに茲に千八百七十九年に反動が起つて保護税を置いた。それから段々と勢が増して、今日は保護に確定した。それは何故さうなつたかといふと、七十年に普佛戰爭があつた、丁度日本が支那と戰爭したあとのやうで、獨逸の經濟狀態は物價が騰貴し、勞働の賃銀が高くなり、同時に資本の利子が下がつたから無暗に新らしい工業が出来た。あつちにも會社、こつ

ちにも銀行或は製造所といふので續々出來た。所がこれは長く續くべきもので無いから、日本でもあつた様に恐慌があつて、皆潰れかゝつたから潰しては大變かどうか保護しなければならぬといふ譯で保護法が始まつた。所が人間は成るべく懷手して暮して居られ、ば其の方がよいから、政府が保護して、外國の競争を杜絶すれば其の人々は續けて保護を要求することになる。更に此頃ビュローといふ人の内閣になつてから、前のカプリヰキの取つた緩和政策を變じ様として居る。先づ世界の商業經濟政策の大勢は一寸見ると如何にも保護政策であるかの如く見える。又英吉利の帝國主義の商業政策も恰も保護政策の如く見える。又他方には世界の商權を占めて居る亞米利加合衆國が矢張り亂暴な保護政策を執るといふが、是が果して長く續くものかどうかといふことは、今まで述べ來つた歴史で凡そ類推は附く。即何れも新案でない、何れも皆眞似をして居る。其の眞似が果して上手であるか、又は下手に眞似て居るかが、其國の商權の消長を支配するといふことでもあります。

右一文三十四年十月東京商業學校に於ける講演の筆記にして言辭不備見るに堪へずと雖



も姑く鵞肋を惜みて茲に収録す。蓋し予が公けの集會に於て試みたる第一の發言として、  
商政史の概要を述べたるものなり。

（以下は極く淡く、ほとんど不可読な程度にぼやけた文字が並ぶ。内容は商業政策と商權の消長に関する歴史的考察と思われる。）

# 八 丁稚の過去現在將來

(改定經濟學研究 第二篇十)



## 丁稚の過去・現在・將來

諸君、私は丁稚の過去・現在・將來と云ふ事に就てお話を致します。先づ丁稚の定義を下します。丁稚と云ふのは諸君が御承知の通り商家に使はれて居て、商業上の色々の雑務に當たる多くは年のいかない雇人でさうして皆男であります。女の丁稚と云ふのはまだあつたとはない。この丁稚と云ふ者は何の爲めに商家に使はれて居るか、と云ふと、金銭上の賃銀を貰ふ爲めに使はれて居るのではない、其の目的とする處は他にある。其の目的とは何であるか、商賣を覺える、商賣を覺えてどうするか、と云ふと、其の得た所の知識を以て他日自分が獨立して主人と同じやうな商賣に従事する、是が丁稚の理想であり、目的であり、將來の運命である。而して其する所の仕事は何であるかと云ふと、何でもする、主人に使はれて居るから商賣上の事をするのは當然であるけれども、それのみではない、凡そ



主人の命ずる所のことは何事に限らず必らず之をする。或は臺所の手傳をすることもありませうし、お嬢さんのお供をして琴のお師匠さんに通ふこともある、或は坊ちゃんのお迎ひに學校に行くこともあるだらうし、凡そ人間のする仕事なら何でもやらない事はない、否時としては人間のする仕事以外の事もやらなければならぬ、丁稚と云ふ者は之に對して何等の異議を申立てる権利を有つて居らない。而して之に對する所の報酬は何であるかと云ふと、前申した通りに商賣上の仕込をして貰ふのが原則であつて、年に二回或は土地に依つてもつと多くも少い處もありますが、普通年二回宿入りと云ふことを許される、其の時幾らかの小使錢を貰ふ、又盆暮或は時候の變り目には仕着を貰ふ、さうして一番重なることは主人の家に寝泊りをして食事を給はると云ふことである。今此の状態に一番近い状態は何か外にないかと云つて廣く探して見ますが、なか／＼目付かり難い、辛じて目付かつた、コレナラ先づ一番近い状態にあると認められるのが、即ち諸君が歴史上の過去の事實として知つて居られる所の奴隸と云ふものである。もう一つ之に似寄つたものは今日の世の中に現にありますが、それは外形が似て居ると云ふだけ

であつて、内容に至つては違つて居る、即ち外形の最も似て居るものは何であるか、監獄の囚徒——赤い着物を着て居る懲役人と云ふものが似寄つて居る。是が即ち丁稚と云ふものゝ定義である。これは獨り商賣上に限られて居るか、と云ふと、今日では先づそうと普通考られるでありませう、所が實はさうではない。商賣上の丁稚と少しも違はないものが一ツある、それは工業と云ふ名は付けられないが手工業、即ちハンヂクラフトの中にある。即ち年期野郎、弟子、大工とか左官とか云ふやうな所謂職人の中の弟子と云ふものは是れである。無論其のする仕事は大變遠つて居る、一方は前垂をかけて長松／＼と呼び立てられて店と土藏の間を馳摺り廻る人間である、處が職人の弟子と云ふものは辨當を擔いで行つて、仕事場で手傳をする。さう云ふ違つた仕事をして居るけれども、其の内容から云つて見ると二ツはまるで同じものである。而して此の丁稚竝に年期野郎と云ふものは、今日現在日本の何れへ云つても存在して居るのである。日本の商業は丁稚なくして一日も存在せぬと云つても或は間違はなからう。扱て何故今茲に此丁稚なる憐れなる一種の人々を捉へ來つて、今日の講話の問題と致したかと云ふに、日本の商業と云ふ



ものは、此の丁稚と云ふものがなければ成立たない者になつて居る。今日商人となつて立派な地位を占めて居る所の人々は、皆一度は丁稚と云ふ時代を経過して来た人々である。又是等の人自分が自分に商賣を營んで行くには、丁稚なる階級の人間をこき使はなければ、商賣を經營して行くことが出来ないと言ふことになつて居る。是が果して昔から其通りであつたものであるか、現在の状態に少しも違はないものであつたのか、將又今日の實際に於て此丁稚と云ふものが果して必ず缺くべからざる所の階級の人々であるか、并に此制度が將來何時までも永續すべきものであるか否か、即ち丁稚の現在、過去、并に將來と云ふことは日本の商業經營上に中々重大な問題である。所が近來頻りに商業を發達させなければならぬ、商賣の經營法を改良しなければならぬと云ふ論が識者間に稱へられて居る、併しながら商賣の經營を改良する商賣の組織を進歩せしむると云ふは單に仕組の改良丈けで出來上るものではない、商賣といふものも人間がして居る事であつて、神様がして居る事でも鬼がして居る事でもない。然らば此の商賣を經營して居る所の一部分である、此の丁稚の制度竝に丁稚の制度に基いて出來上つて居る所の今日の商

店の仕組と云ふ者は、果して十分に今日の商賣上の必要に應ずる者であるかないかと云ふ事は、先第一に研究しなければならぬ問題である。つい此の頃の事でありますが、現大藏大臣が確か大臣に成りたての事であつた、一席の演説を試みて言はれるには、戦後の日本を經營して行くには、どうしても商業を發達させなければならぬ、商賣に依つて富の増殖を圖らなければならぬ、併しながら今日の此の苦しい財政を負擔して、之に必要な租税を充分に徴收して行くやうな利益のある商業をしやうと云ふのには、今までのやり方では困る、どうかして之を改良することを考へなければならぬ、改良するには如何にするかと云ふに、所謂システム組織の改良である。どうも日本では誠に無闇に人を餘計使つて無駄なことをして居る、大藏大臣は芝居の例を引いて言はれたが、芝居を觀に行つても色々な頭の禿げた男だの禿げない男だの、尻を端折つた男だの、端折らない男だの、是等の者が色々來てさうして御辭儀を澤山して色々な世話をする、それがために却つて用が辨じないのみならず費用が大變嵩む、それであるから一寸芝居を觀に行くのも甚だ臆劫になる。是は一つの例だが、丁度さう云ふ風に日本では未だ繁文褥禮をやつて居つ



て、システムの立て方が悪い。然らば如何にして此商賣上のシステムを改良するか、モウ少し規律のある経済的なるものにする事を研究しなければならぬと云ふ趣意でありました。是は非常な名論であつて、今迄の國務大臣の口からは斯くの如き名論を聞いたことはないが、しかしながら此システムの改良と云ふことを少しく考へて見る必要があらう。システムとは抑も誰が拵へる、無論人間である。さればシステムを改良する前に人間を改良する必要がある。人間其のものを改良すると云ふことは到底一朝一夕のことではないが、併ながら人間は今日の儘の人間で差支ない。別に目を三つに改良する必要もなし、足を三本に改良する必要もない、唯其の人間お互ひの間の色々な組織を作り關係を立て、其上に今日の社會を築き上げて居る。此關係をモウ少し切變へることが出来たらば、システムと云ふものは自然に改良することが出来る譯である。さう論じて來ますると諸君は必ず言はれるでありませう、改良をしやうと思ふから商業學校に行て學ぶ、商業教育を受けて將來の商人たるに必要な學問と經驗との調和した立派な素養を作らうとして居るのだと、是は勿論の話であります。然ながら此商業教育と云ふものは――

――商人を養成する教育と云ふものは決して新らしいものではない、非常に古いものである。商業學校と名の付たもの、出來たのは、日本は明治七八年頃であります、近頃故人になられた矢野二郎と云ふ人が森有禮と云ふ人と相談して建たのが、今日の高等商業學校の始めである。併ながら是は唯商業學校なるものが出來たと云ふだけであつて、日本にも商業教育と云ふものはすつと昔からある。商業學校と雖も極く新しいものである、比較的極く新しいものである。併ながら商人の教育商業教育と云ふものは非常に古いものである。其れは何であるかと申すと、商人を仕込む所謂商業教育と云ふものは、即ち今茲に私が問題として提出した丁稚の制度と云ふのが、昔から非常に古くから傳はり來つて居る所の商業教育で、今日と雖も學校で授ける所の商業教育より遙かに範圍が廣い、遙かに大勢の人を育つて居る所の制度である。即ち丁稚の制度と云ふものは、一方に於て商業を經營して行く上に就てなくてはならない仕組であると共に、商人を養成する商業教育の大なる一の仕組であります。

一體この丁稚の制度が斯の如くに商業教育、商人養成を掌るやうになつたと云ふのは



何時のことであるか、即ち丁稚の過去は如何なるものであつたかといふに、是は封建時代に發生したものである。然ながら日本の封建時代に日本の丁稚の制度が出来たばかりでなくして、凡そ何れの國でも、順當な發達を遂げて來た國にあつては、必ず或る時期に於て此丁稚の制度なるものを存して居つた。即ち丁稚の制度といふものは、名こそ違ふけれども世界何れの國にも存在して居つたのである。今日世界の商業競争場裡で一番進んで居る國と云はれる英吉利若くは之に續いて居る所の獨逸佛蘭西或は奧太利其外歐羅巴諸國は——亞米利加は別ですが歐羅巴諸國は、今日現在と雖も此丁稚の制度を存して居る。それは外觀に於ては日本の丁稚年季野郎とは大變違つて居るものであるけれども、其の内容に於ては少しも違はない所の制度を現に有つて居る。而して此現に有つて居る所の丁稚年季制度は、非常に識者の頭を痛める所の問題になつて居る。英語では、アツプレレンチスシップ、商賣上の「アツプレレンチス」もあれば工業上の「アツプレレンチス」もある。日本でも商工業には丁稚若くは年季野郎の制度がある。併し何れの國でも農業には斯の如き制度は少しもない。是は何故であるか、此間に答へれば、何故に丁稚若くは年季制

度と云ふのが發生し、如何にして發達して來たものであるかと云ふことを知ることが出来るのであります。

先づ商工業を營むやうになつたのはどう云ふ風にして始まつたかと云ふと、都會には初から工業商業と云ふものはなかつたのである。其の時分には都會の住民は大抵百姓であつたか、或は武士であつたかで、兎に角この商人若くは職人といふやうな特別な階級の人間は居なかつた。商業とか工業とかいふことは皆百姓が片手間にやつて居つたのであるが、それが段々發達して來て遂に獨立の業になつたのである。それが即ち都會に起つたのである。田舎では工業若くは商業と云ふものは、今日と雖も十分に獨立したものである。諸君が自分の田舎に就て御覽になつても直ぐ分かる。で商工業を以て専門として居る人間は都會で出來た。併ながら都會といふものは商工業があつたから出來たのではない。商工業よりは都會の方が先である。是は普通言ふ所の歴史の説明は大抵あべこべであつて、商工業が都會を發達せしめたといふが其は間違つて居て、初は百姓が都會を拵へたのである。所が一つ處に大勢の人間が寄ると云ふと、狭い處の土地に多くの人間



が居るからして百姓だけでは食つて行けない。そこで百姓以外に所謂副業——日本で農商務省が頻りに訓令などを發してやかましく言はれる所の副業——この副業といふものを營まなければならぬ。この副業が工業の初である。この工業が段々發達して來ると、自分達の造るだけの物を以て満足して居ないことになつて、自分で造ることの出來ない物或は造らざる物を他から買ふと云ふことが起つて來た。そこで商業といふものが都會を中心として發生するやうになつて、さうして都會は重に商人並に職人の住ぶ處と云ふ現象を生じたのである。所がこの商人若くは職人といふものは、決して今日のやうに銘々が獨立して、個人が自由の權利を以て働いて居つたものではない。百姓と雖も嚴重な制裁の下に皆共同に農業に従事して居つた如くに、商人若くは職人もそれ〴〵團體を形づくつて居つた。英吉利の言葉でいふと、ギルドといふのは即ち此團體の事である。日本には此ギルドに當るものがないかと云ふと、或は組合、或は仲間といふやうなもの、日本の歴史の上に散見して居る、餘程ギルドに似たものである。このギルドといふものゝ目的は何であるかと云ふと、同じ業をして居る者が一致團結して、其の業に従事

し、他國人と付き合ふにも團體として付き合ふと云ふのが主義であつた。故に此組合の部員となるには面倒な條件があつて、見ず知らずの者は容易に部員になれない、之が段々組織が固くなつて來て、もう新しい所の人間はどうしても此の「ギルド」の仲間に入ることが出來ない、必ず親代々「ギルド」に入つて居る仲間でなければ、「ギルド」に入つて獨立した一つの業を營むことが出來ないと云ふやうになつた。所が商工業の發達は決して停止して居らないから、さう云ふ狭い制度は商工業の進歩發達に伴はない。此に於てか新たなる人を組合の部員とする方法を拵へなければならぬ。それには外からの人を取ることが出來ず、又さう云ふ人を得ようとしても得られない。故に自分等の子弟若くは同じ都會に住んで居る人の子弟で、他日其の業其の職に従事しやうと云ふ者を教へ込むといふ仕組が出來た、之が即ち「アップレンチスツプ」の制度の起りであります。初は自分達の職務を營む手助けをするよりは、寧ろ其の子弟を教へてやらう、業を傳へてやらうと云ふことであつた。所が段々工業の進歩、商業の進歩と共に、人の數が益々餘計に要る、自分の仕事だけでは間に合はないといふにつれて、仕込むべき爲に託されて居る所の人



の子供も矢張り自分の用に使ふ使はうと思へば一ぱし役に立つ者が其の中から出來て來るといふ様になつた。一方には自分達の仲間へ入つて來る人の數を成可く制限して得られる所の利益を壟斷して仕舞ひたいと云ふ、何れの世にあつても、中世の時代には皆手前勝手な偏屈な偏狹な利己心を持つてやつて居たから、他の競争を成可く杜絶したいと云ふことに汲々として居つた。而して此の弟子たちは相當の年限を仕込めば、それだけの業を覺へて獨立した商人となり、親方となる。トコロが是がさうなられては困るか、成可く其の親方となり得ることを困難ならしめるやうにした、其の第一は年季を大變長くする、元來この年季といふものは一番初は二年三年、或は長くつて五年位であつたのである、之を七年或は十年といふやうに長くしたと云ふのは、それは業を覺へることが段々むづかしくなつたと云ふことも少しは這入つて居る、工業の進歩につれて技術が込入つて來るから、簡単に覺へられないと云ふこともあるが、それよりは寧ろ獨立して自分たちと競争するやうになつてはお客が減る、さう云ふ者を杜絶しやうと云ふ所から來たのである。而して其の上に又この年季を勤めても直ちに之を獨立の人間と看做し、獨立の

職人の親方と認むることをしないで、所謂「旅稼ぎ」と云ふ義務を負はしてある。是は英國には此の旅稼ぎと云ふ字がない、なぜかと云へば英國には此の制度がなかつたので、其の代り英國は年季が長い。多くは十年或は十年以上の年季が普通である。歐羅巴大陸に於ては大抵五年或は七年で、其の代り此の年季を終へた後には旅稼ぎをさせる、是は獨逸の語で「ヴァンダーヤール」と云ひます。即ち方々彷徨して一定の時期を経なければならぬ。丁度今日大學を卒業しても、是はまだ雛鳥だといつて金を遣つて獨逸にでも留學をさせる、歸つて來ると立派な學者になつたと、斯う見てしまふと同じことである。旅稼ぎをするには、各都會が皆共通して居つて夫れく約束を結んで居る、丁度日本の昔伊勢參宮や善光寺參と同じで、別に金を持つて出るのではない。只自分の腕と脛を持つて旅に出掛けるのである。さうして到る處の都市に夫れくの組合があるから、それに投じて自分が氣に向き、向ふでも置いてやらうと言へば、其の處に居つて技術を覺へる、是は自分の志望によつて或る都市は或る業に有望である、彼の都市は彼の業が發達して居ると云へば、さう云ふ處にわざく行くと云ふ自由はある。この旅稼ぎの年限を終へると、今度



は工業上に就て言へば卒業製作といふものを拵へなければならぬ。此の事は英吉利にもある。英吉利では嚴重に行はれて居ります。即ち諸君が御承知の通り今日でも「マスターピース」と云ふ語があるが、今日では傑作といふ意味に用ゐて居るが、是は假に用ゐた言葉であつて元來傑作といふ言葉ではない。「マスター」即ち親方になるに必要な「ピース」(製作品)の事で、何か是だけの仕事が出来るといふ自分の腕一ぱいの製作品を拵へて、そうして其の拵へたものを仲間で認められて、是なら差支ないと云ふ段になつて初めて親方になる。親方になるにも、唯其の卒業製作が好かつたからと云つて直に親方になる譯には往かない。大變な金を使つて仲間に入れて貰ふ爲めに盛んな御馳走をすると云やうな譯で、時も要れば金も要る。大變面倒な仕組であります。今日でも英吉利で代言人バリストールになるには先づ有名な代言人を親方として内弟子に這入り、或る年限を経ると代言人になるが、それには盛んな御馳走をやること云ふ奇妙な習慣のあるのは、此の代言人も商工業と同じく丁稚制度・年季制度で成立つて居た時分の遺物である。又英吉利あたりには「マスター・オブ・アーツ」と云ふ學位見たいなものがある。コレハ學問上の年季を勉め上

げた親方、即ちリベラル・アーツの親方と云ふ意味で、工業のは唯のアーツのマスターであるのです。又商業に就ては是は二つに別つて言はなければなりません。海外貿易と國內の商賣とは趣が聊か違ふ。海外貿易の方では是は多く所謂年季にやるには外國にやる、外國貿易に従事させる、外國の自分の取引先に遣るのと、或は特別にさう云ふ目的の爲に出來て居る處もある。其中で有名なるのは倫敦にある、今日でもまだ遺跡のある「スチールヤード」といふ、是が最も有名な者である。是は當時英吉利の商賣を殆ど自分の手に壘斷して居つた獨逸のハンザ商人が形づくつて居つた居留地である。獨逸の商人は此處へ多く子弟を遣つて、さうして英吉利と獨逸との商賣の取引に關する知識を得せしめた。もう一つ大きいのは伊太利でヴェニスが盛である。此處に獨逸人の一つの固まりが拵へてあつたが、是は獨逸人ばかりでなく、埃太利人も瑞西人も行つてさうして伊太利の商賣の事を覺へて來た。其は今日でも同じく遺蹟が残つて居ます。即ち「フォンダ・ゴ・ディ・マスキ」と申します譯して獨逸會館とでも云ふ可きものである。是は獨逸の例であります。他の國も皆さう云ふ風にやつて居ります。併し一番其の仕組の發達して居つたのは獨



逸です。此時分は英吉利の外國貿易は悉く獨逸人の手中にあつた。英吉利人は唯倫敦のハンザ商人の處まで持つて行つて賣つて居つた。丁度日本人の外國貿易は外國貿易でなく、其實は横濱貿易であつたと同じで、英吉利人は倫敦貿易をやつて居つた。英吉利人が商賣人になつたのは新らしいものである。決して生れ付きの商賣人ではない。次に内國の商賣に就いてはどうかと云ふと、是れは大した知識が要らない、外國語の知識も要らなければ、廣く旅をすると云ふ必要もないから、銘々が自分の取引をして居る仲間の中に自分の子弟を年季にやる、或は向ふの家と息子の取換へをすると云ふやうな規定もある。或は都市と他の都市との間に兩方の息子を交換する、息子交換條約といふものが結ばれて居つた處もあつた。斯の如くするのはつまり自分と同じ商賣か、若くは他日關係すべき商賣を教へる爲めにやつたので、さうして斯ういふ子弟を受取る所の主人も、只コキ使ふ爲に受取つたのでなくして、之れを天晴れ商人に仕込んで歸してやるといふ積りで受取つたのである。是れが即ち丁稚の制度に特色を與へた所以である。といふものは雇人として、今日の言葉でいへば労働者として使ふ目的でなく、仕込んでやると云ふ目的

であるから、多くは家族の一員として取扱つた。無論主人の家に寝泊りをするし、飲食もする、主人の家を離るゝと云ふことは年に何回といふやうに定めてある、其の外は出られないと云ふやうな風で、極く縛り込んである。其代り決して酷く使ふことはない、自分の息子同様に恤はつて遣つたものである。即ち此の丁稚といふものゝ制度は家族的パトリアルの仕組になつて居る。所が十四世紀以後になつて、歐羅巴の經濟上の形勢が非常に變動した。どこの國も悉く其の變動の波に卷込まれた。殊に工業上に在つては新たに工業の遣り方が出來た。今までは皆職人の親方といふものが、自分の弟子或は弟子から上がった所謂年季上がりといふ者を使つて、各々自分の家若くは自分の格式を以て業に従事して居る所謂「ハンヂクラフト」といふものが唯一の工業をやる制度であつたのが新たに「マニユファクチュア」が起つた。「マニユファクチュア」とは今日では製造工業といふ意味であるが、この「マニユ」といふのは手で「ファクチュア」といふのは造ると云ふ意味で、即ち手で造る機械を使ふ所の工業の正反對のものを稱して「マニユファクチュア」といふのが此言葉の起りであつたのである。是はギルドの仲間



を外れた所の職人の間に出来て来た一つの仕組であつて、それは一つの資本主或は商賣人があつて、自分の方から資本を下ろして、各職人に銘々一部分の仕事をやらせ、之を纏めるのは最早親方の仕事でなくして、工業に關係のない商賣人即ち、キアピタリスト資本主のやることであると云ふやうな仕組で、是は今日から見れば當然であるが、當時の「ハンヂクラフト」の時代には新しい仕組であつた、此方が非常に利益である、此方が澤山なものが出来て生産費も廉いと云ふのであるから、仲間を造つて外の者は入れないと云ふやうな偏屈なる閥を造つて居る人達が競争することは到底出来ないからして、どうか自分の地位を維持する爲めには下の者に益々壓迫を加へ、外の者を益々排斥して内に入れないやうにする。此時代には最早この仲間と云ふことが株になつて仕舞つて、この株を持つて居ない者はどうしても一個獨立の職人になれない、さうして其の株といふものは賣買をする、大變高いものである、故に滅多な者は買ふことが出来ない、又それを買ふ位な金のある人は、そんな株を買はずに外の仕事が出来ると云ふやうになる、で多くは代々職人の仲間である所の子弟がなる、是れは容易くなれる。もう一つは、若し親方の家に子弟がなけ

れば娘に入婿をするのである。入婿といふことは日本ばかりのやうに思つて居るが、當時の歐羅巴には是れが盛んにあつた、入婿をすれば自然に閥閥で以つて、黙つて居つても仲間に入ることが出来る、此の如く極く嚴重なる閥を拵へて居つた。此年季に入つて居る所の子僧は、自分の親が組合の仲間であつて獨立の親方であれば、無論自分も獨立の親方にもなれる見込があるが、さうでない限りは何時まで雇人の状態に甘んじなければならぬ、さうして其の數は段々殖えて行く。段々人が餘計要るから餘計人を雇入れる、其大勢の者に到底獨立の資格を與へることは出来ない、又與へまいとするからして、どうしてもさう云ふ終生雇人に甘んぜねばならぬ種類の人間が澤山出来る。併し只働かすと云ふことは出来ないから、働かす爲には賃錢と云ふものを遣る。獨立の親方になり他日門戸を張ると云ふ見込はないが、日常して居る仕事に對しては賃錢をやる、と云ふことになつて、さうして今日の所謂賃錢を貰ふ労働者階級が出来て来たのである。

商賣上で言へば工業上と少し違つて居る、と云ふのは、商人と云ふ者は今日でもまだ年季に遣入ると云ふことは獨立した業を得たいと云ふ爲めであつて、また獨立して業を營



む見込がある。何故かと云ふと、主人と同じ業をしないでも、商賣の事といふものはそんなにむづかしい技術はない、商賣上の知識は大抵どれにも共通するから、少し才智のある者は何の業にでも移つて行ける。又他の業に移らうと云ふにも、小賣の商賣といふものが今日でも澤山ある。故に今まで卸賣の大きな問屋に居た者が、小賣店を開くと云ふことになればそれで既に獨立した人間である。乃ち商賣上の年季野郎即ち丁稚といふものは、工業上の年季野郎に比較すれば獨立の地位に達し得る見込が遙かに多い、多いから、即ち現在の問題に移るので、今日でも商賣上に於ては丁稚の制度といふものが何時までも存在して居る。又之によつて獨立の地位を得やうと云ふ目的を初から立て、此年季に入る者が澤山ある。工業上に於ては最早さう云ふ望みは絶へて仕舞つて居る。殊に十六世紀以後新たに工業の仕組を立つてから以來と云ふものは、ハンヂクラフトは段々範圍が狭くなつて仕舞つて、工業は主として、マニユファクチャー然らざれば一歩進んだ、ファクトリー・システムになつた。銘々が親方でござると言つて他の者を入れないでやかましい年季をやらなければならぬと制限をした所が駄目だ。根柢から仕組が變つ

て仕舞つて居る。所が商賣上では、さう云ふ様に根柢から覆ると云ふことは未だない。縦令有るとしても、それは外國貿易をする所謂大規模の商業人の仕組のものだけで、小賣商業と云ふものは保守的なものであつて、大きなものはない。歐羅巴でもなかつた、日本でも見えない。是れ今日、アップレンチスシップといへば主にも商賣上のことのやうになつて仕舞つた所以である。工業上にも、アップレンチスシップといふ語は使ふけれども、夫は昔の「アップレンチスシップ」ではない、所謂徒弟で年季野郎ではない。然るに商賣上には「アップレンチスシップ」の制度がまだ廣く行はれて居る、殊に日本では、誰でも商賣をしようと思ふ者は、一度はこの丁稚といふ状態を過ぎなければ商人になれないと、普通はなつて居るものである。所が現在の状態に於ては甚だ困ることが出来て來た。なぜ困ることが出来たかと云ふと、この丁稚といふ者が修業を終へた後に獨立した商人になり得る見込が段々狭められて來た。先づ大きな經營でやると云ふことが利益であるから、之に對しては小さい資本を有し小さい經營でやつて居る仕組と云ふものが追々倒れて仕舞つた。所が大きな規模でやる人間と云ふものは事實上澤山は出來ない、故に年季



を幾年勤め上げても、自分がそれだけの資本を有する力もなければ、大經營の商賣を切盛りして行く力のない人間は終身獨立して行けない、いつまでも雇人、いつまでも丁稚の年季上りとして居らなければならぬと云ふやうな事になつた。それからそれより比較的小規模でやることの出来る所の内國の商業の方はどうであるかと云ふと、之も段々人間の生活の程度が進んで來れば、餘計な人間を無駄に使つて置くことが出来ない、成可く人を減じて其代りに一人前の給金を餘計にして、さうして餘計に働かすと云ふことが經濟上の利益である。故に此「アップレンチス」を使ふと云ふことは、本當の經濟的の商賣をやる人には歓迎されないことである。大變に遅れた商賣の經濟法である、舊式の商賣法である。而してさう云ふ舊式の商賣には見込がない。でこの丁稚の始末と云ふものは英吉利でも、獨逸でも、佛蘭西でも、奧太利でも、瑞西でも、どこに行つても甚だむづかしい問題である、極く新しいことで此に一つ、尙此困難を一層甚だしからしめる出來事が起つた。それは何であるかと云ふと、今までは大商業といへば卸賣、小商業といへば小賣といふことと同じに解釋されて居つた所、此新しい一つの變遷が出来た爲めに

さう云ふ定義はまるで覆へされてしまつて、却つて卸賣よりも小賣の方に大商業のものが續々起つた。即ち英吉利亞米利加で云ふ所の「デパートメント・ストア」佛蘭西でいふ所の「グラン・マガザン」と云ふものが發生した。是は何であるかと云ふと非常に大きい規模を以て、總ての日用品は殆ど一處に集めて大きな店で賣るといふ先づ手近い所、いへば三越呉服店、あれのスーツ大きいものであつて、そこに行けば總ての用が辨する、當に其土地の人にばかり供給するのでなくして、小包郵便の制度が開けて以來、其小包郵便を利用して、郵送營業といふものを盛にやるやうになつて來て、詳しい説明書を配る、是れを見て第何號の何を送つて呉れと云つて葉書をやれば、直に其の品が小包郵便になつて來る、田舎の小さい店で買ふよりも遙に安く買へる、故に當に都會の地に於て小さい商人がドンドン倒れるのみならず、田舎の小賣商人が、小都會で郵送營業をやつて居る大店と到底競争する事は出来ない。今まで丁稚といふものが稍々存在し得たのは、大商業には従事出来ないが小商業には従事することが出来る、問屋にはなれないが小賣商にはなれると云ふ途が開けて居つたから行止りではない、段々後からして後詰の人間が商業社會に



入つて丁稚といふ状態から始めると云ふことに大して差支はなかつたからである。然るに斯う云ふ變遷が起つて來ると最早先が差支へて居る。此に於てこの丁稚の爲すべきことは二つしかない。一つは到底獨立の人になることが出來ないから見込を棄て、終世労働者になる、即ち商業的労働者になると云ふことを以つて甘んずるかソウするとセ、トルスガール女の賣子と競争せねばならぬ。然らざれば初から丁稚にならない、丁稚以外の他の仕組を以て商業教育を受ける。此の二つの中のどつちかを取らなければならぬことになる。日本はまださう云ふような仕組がないから盛に丁稚を使つて居る。商業學校などが幾らもあるけれども、それに收容して居る所の人間の數は、之れを日本商業社會の諸般の労働者の數に比ぶれば甚だ少ない、大部分は皆丁稚である。未來の大商人は、割合から言へば商業學校の卒業生よりは、矢張り丁稚から餘計起るべき仕組になつて居る。

所で前に申した日本の將來の商業の發達は、システムの改善にあると云ふ、阪谷大藏大臣の演説を種々商賣社會に當籤めて見ると、どうなるかと云ふと、日本の商業社會の發達を妨げる所の一番根本の病弊は資本の足りないことと云ふことでもなければ、交通機關の完全して居ないことでもなければ、政府が無暗に干渉していけないことと云ふことでもなければ、外交が振はないと云ふことでもなくして、此の丁稚の制度にある。長松が日本の商賣進歩の大敵である。この長松を薙ぎ倒して仕舞ふにあらざれば日本の商賣の改良と云ふことは望まれない。此の長松式の商賣は、斯う云ふ人間を使はなければならぬ。即ち少くも頭の中央にチョン鬚を附けた人でなければ之を使へない。この丁稚が少し生意氣なことを言へば、チョン鬚の人は到底之を支配して行くことが出來ない、故に生意氣なことでも言ひさうな人——商業學校を卒業した人などは這入つて來ない。丁稚のやつて居る所の人間はまだ新らしい仕組で商業を經營して行くと云ふ所の域には到らない、教育が足らない、思想が高尙でない、いろ／＼非難があるから、新らしい商業經營の方式たる銀行とか會社とかでは丁稚の制度を殆んど採用して居らないと云ふのが一番の證據である。商賣上この丁稚制が一番宜いものならば銀行業でも會社の業でも何でも此の丁稚の制度で宜かりさうなものであるが、所がそれを採用しない、即ち長松が存在して行く



のはそれを使ふチヨン鬻商人があるからである。今この丁稚がなくなつて仕舞へば自然チヨン鬻商人はなくなつてしまふ。幾らチヨン鬻を振立つて矢筈敷い事を言つても言ふことを聞く者が一人も居ないといふことになる。何故長松が日本の商業の改良進歩の一番の敵であるかと言ふと抑も人間の働きと云ふ者は唯手足の働きばかりではない、手足の働きと云ふ者は抑も末である。頭が働かうと云ふ氣にならなければ、幾ら鞭つても苛責しても到底働くものでない、悦んで働くこと云ふ氣を興へなければならぬ。是は商業上ばかりでない、工業上に於てもさうである。所が此丁稚と云ふものは幾ら働らいても獨立の身分になると云ふ見込が段々減つて来る。而して自分の今働いて居る仕事に對しては報酬はないのに、是れに向つて本當の働きをすると云ふことは出来ない。所が丁稚の制度は別に給金をやるに當らない、之に給金をやると云ふやうな愚をすると云ふことはない。併し是は間違つた儉約主義である。只が一番廉いと思ふが實は只ほど高いものはない。月給が少なければ少ない程それだけ高く付く。日本の丁稚ばかりでない、一體の労働者が大變少ない賃錢を以て働いて居る、之を目して日本は資本が甚だ乏しい

けれども、此廉い労働を以て歐羅巴と競争すれば、まだ競争の餘地は幾分かある。だからして労働の上がると云ふことをどうかして防がなければならぬ、殊に日露戦争以後労働の騰貴する憂があるから、之を抑へるやうにしなければならぬと云ふことを大に唱へる人がある。吾に所謂普通の人間ばかりでなくして、立派な學者と稱する人の中にもソナがある。愚論を遠慮なく公表するものがある。若し日本の労働が商業上にあれ、或は工業上にあれ、必ず斯くの如き廉いものであるならば、是は大に考ふ可きである。日本の労働の賃錢と云ふものは之を西洋に比ぶれば殆ど數ふるに足らぬ。然らばそれだけ生産費が廉く付いて居るべき譯である。所が物を比べて御覽なさい、日本の生産費は西洋の生産費よりも高い。それは機械工業の物は、日本の労働者が機械工業に馴れて居らぬから、技術が下手であるから高く付くのだと云ふ辯護はあらう。それはそうであらうと思ふが、機械を使はないで、只手先の仕事でやる者でも、日本の方が高いものがイクラもある。是は或は當る例であるか、當らぬ例であるか知らぬが、獨逸の或人が日本は大變に労働が廉いと云ふ、また機械を使はぬ方の即ち手でやる方が大變に發達してゐる、殊に日本人は器用で



あるから廉いであらう、試みに獨逸では本の脊中に貼る金箔といふもの、あれが非常に使はれて居る殊に獨逸では澤山に本を拵へる、随つて金箔が大變に要る、其の他到る處に金看板が掛けてある、此等は獨逸では機械でやつて居るのではない、矢張り手先で叩いて居る、故に之をば日本で以てやらしなければ金といふものは世界中の値段が違はない、どうして勞銀は安い運賃といつた所があんな軽い物であつて幾らもかゝらない、是は日本から取寄せた方が廉いだらうと云ふことを考へ付いた。で或る人が、兩方の金箔の値段を比べた所が、日本と西洋とは殆んど違はない、少しも違はない。是れは例にはならないかも知れぬが、他の物に就いて見ても、常に手先の仕事ばかりでも總てのものに於て日本の方が生産費が廉く付くと云ふことは主張出來ぬ。是は何故かと云ふと、日本の勞働者は勞銀は大變に廉い、廉い代りに仕事は粗末である。農商務省あたり或は之に關係のある人は頻りに日本では工業品を粗製濫造していけないと言ふ。工業品の粗製濫造といふことは、自然需要供給の上に於て取り去られる。人を欺しては綿の中へ石を入れたり、罐詰の中に薪ざつぼうを入れたり、そんなことをすれば長く續かない、是は寧ろ取締る必要

はない。自然の需要供給の關係で淘汰せられない粗製濫造なら、訓令や規則で禁止するのは愚である。品質の精巧なるもの許りが人間の欲望を充すものではない、悪くともそれ文けなければ矢張存在の理由を有して居る。英國人は頑迷で此の理を悟らないから近頃どしどし獨逸人にやられるのである。所が日本の困る事は人間の粗製濫造を無暗にやられることである、コレは甚だいけない。日本では甚だ値打の少ない、擬造贋造の人間が澤山ある。他の社會では少ないかも知れぬが、經濟社會に於いては澤山ある。何んでも速成かんでも成功と云つて、人間に最も大切な修養も何も滅茶苦茶にする、是は甚だ害を爲して居る、この粗製濫造の人間の生産力は甚だ乏しい。此の頃も亞米利加の農務省で米作のことを調べた、即ち他の米作國のいろ／＼な状態を調べた所が、亞米利加の百姓一人でやる所の仕事は他の國の人の十七人前に當つて居る。日本は這入つて居ないかも知れぬが、そう云ふ調査があると云ふことを昨夜或る農學士の演説で聞きました。是は亞米利加では大變に機械を用ゐる、機械を用ゐるから澤山出来るが、併ながら米國で各種の産業に機械をなぜ用ゐるやうになつたかと云へば、それは幾ら農事改良とか農具



改良とか言つて勧めた所が、勞銀の廉い間は到底機械を用ゐることが出来ない、と云ふものは勞銀が廉いから機械を用ゐる必要がない、勞銀が高くなつてはどうしても其の勞銀に拂ふ方を節約しなければならぬ。それには機械を用ゐる、機械を用ゐる日には、機械と人間の力を結び付けた生産力が上がつて来る、人一人前の生産力も又高い賃銀を受け乍ら生産費は安く付く、廉い賃銀を拂つて勞働者を節約する必要に迫られないのは却てこの廉い勞銀が進歩の敵である疑ふ可からざる證據ではないか。假りに此の點は除けても、尙亞米利加人或は英吉利人或は佛蘭西人獨逸人の一人前の働きは、日本人の三人四人前の働きに突合ふかも知れない。そうすると一人の賃銀が半分若くは四分の一であつても、人を五六人も使はなければならぬと云ふことになる、賃銀から言つても高く付けば又餘計な人間を使へば廣い場處も使はなければならぬ、雜費に無駄ばかり澤山出る、一般の營業費と云ふものが餘計に掛かる。工業上に就いてはさうであるが、商業上はどうかであるかと云ふと尙ほ更らさうである。一體商業に於ては、人間を使ふと云ふことが極く少く済む。所で日本では非常に多く人を使ふ、なぜ餘計に使つて居るか、と云ふと、

丁稚の制度と云ふものがあつて人の子を只使ふことが出来る。此く大變便利なさうして其の實は甚だ害のある制度が存して居つて、其の爲めに役にも何にも立たない澤山の人間を只使ふ。一日の間に大した仕事はない、多くは居睡をして居る、番頭は帳場に座つて煙草をふかして居て、反物一反でも小僧に命じて藏から出して來させる。其の間にはお客も無駄な時間を費すし、又出したり仕舞つたりするから品物も痛む甚だ馬鹿な仕組をやつて居る。商店の仕組殊に店の構造などと云ふとに至るまで、この丁稚と云ふものがあつては邪魔になつて到底改良は出来ない。また働く時間に於ても、日本では常にだらしなく夜も遅くまで店を開けて居る。それが爲めに随分無駄な入費を使つて居る、お客の方もだらしなく來るのであるが、店が閉まつてしまふと云ふことになれば、仕方がないから店の開いて居る内に買ひに來る、之も賃銀を拂つて居る所の高い勞働者を使つて居れば、自然さう無駄な仕組をしない。どうしても人間を節約する、又營業時間を短くする、其の代りに營業時間内に於ては非常な勢を以て活動する。所が丁稚の制度には勞働時間の制限は無論ない、工業上に於てはどんな小さい子供を使つても、兎も角賃銀を拂ふ



からして、其の賃錢といふ方の必要から迫られて、さう馬鹿な無駄をしない、力を無駄にしない。無論道徳上社會上の弊害といふ方はまだ改良は出来ないが、併ながら工業上に於ては、人力を無駄に使ふといふことは自然の必要上雇主の方では大に慎んでやる所が商業上に於ては丁稚といふものがある爲めに外のいろ／＼な無駄に附加へて、人力、ヒューマン・パワーといふものを非常に無駄に使ふ。或人が日本の地勢を見ると到る所に山があり川がある、之を利用して水力電氣を應用して工業を起したならば非常に進歩をすべからう、勿體ないと言つたといふが、この「ウォーター・パワー」を無駄にするよりも「ヒューマン・パワー」を無駄にする方が非常に多いのである。如何しても此無駄を省くことをしなければならぬ。戦後の經濟策として或は外資を輸入しなければならぬとか、或は外國から借りた所が安く貸して呉れない、仕方がないから國內で造るには勤儉貯蓄をしなければならぬと云ふのは、是れは一面の議論である。が資本の勤儉貯蓄よりも先づ第一に人間の勤儉貯蓄をやつて呉れなくては困る。工業上に於ては技術が中々複雑であるから、工場法案を出さうが何をしやうが改良と云ふことは中々一朝一夕にはむづかしいか

も知れぬが、商業上に於ては困難は餘程あるけれども其困難は技術上でなくして人間の上にある困難である、人間の頭さへ變へれば宜いのである。チョン髷頭を持つて居る人は到底この丁稚制度と大福帳を廢めては商業が出来ないと云ふことを主張するであらうが、是は頭の新しい人が商業に直ぐに當るやうになれば、言はずして自然に大福帳と丁稚は廢められる可き譯である。而して丁稚を廢めると云つた所で當今流行の法律で禁止をする、大臣が訓令を出す等と云ふことでは到底駄目だ、是は自然の必要に迫られて來なければならぬ。決して無暗に人爲で搔き廻はすと云ふことはいけない。自然の勢といふものがどうしてもさう云ふ風に迫つてくると云ふことにならなければならぬ。それには新しい近世的商業教育を受けた所の人、即ち諸君の様に商業學校を卒業した人が澤山出て行つてドシ／＼商業社會に突貫して、チョン髷頭や大福帳の本城を突き破つてしまふと云ふことになれば、どうしたつて自然に丁稚制度は倒れざるを得ない、其の外に改良の途はない。商業研究會といふからには、隨つて商業の經營法の研究と云ふものも這入つて居らう、是は商賣の發達と云ふことに非常に必要な研究である。無論商業經



營の問題は常に丁稚ばかりでない。帳簿の改良、カード式を用ゐると云ふ様な事も大變な進歩である。商店の構造を改めるとか、執務法を替へるとか其外いろく「システム」の改良問題がある。併ながら此等凡てに先だつ根本の問題として、私は丁稚の問題を商店に於ける労働問題の第一着手として諸君に十分に研究して戴きたいと思ひます。而して更らに進んでは他の問題に及び、恰かも工場内の労働に對して工場法の存するが如く、商店内の労働に對して保護の制度が確立し、之れによつて商業的労働の能率の増進に貢献する様になりたいと思ふのであります。此れやがて商業研究會の使命を實現する所以であると私は信ずるものであります。

右は三十九年六月三田商業研究會に於て講演したるものにして、其筆記は三田商業界二卷七號に掲載したり。

## 九 勞農露國認承の意義

(大正十二年六月「改造」掲載)



## 勞農露國承認の意義

—

勞農露國を承認せよとは、勞農主義、ボルシエヴキズムを承認せよと云ふのとは同意義でないことは、私が茲に論ずるまでもない所である。其の反對に、其は舊露國の承認ではなく、新勞農露國の承認であることも亦た多言を須たさる處と思ふ。今日となりては、勞農露國を承認したからとて、我邦に於て勞農主義、ボルシエヴキズムが流行することとならないことは、今や大多數の識者の認むる所であらう。若し我邦にボルシエヴキズムが流行す可きものであるならば、其れは勞農露國を承認しないからとて流行る可きものは流行るであらう如く、承認したからとて、流行る可きでないものは決して流行ることとはな



い。私は常に『國本は斷じて動かす』と信じて居るものである。我邦と露西亞とは國の成立を同ふして居ない。元より國家も社會も共に絶へず進化發展するものであり、其進化の道程としては、勞農主義の主張中にも取つて参考とす可きものはある。併し勞農主義其ものが我邦に俄かに流行る可しと言ふ人あらば、其は幾千年の歴史を全く無視したる論である。歴史を無視すると云ふことは、甚だ危険なことであつて、勞農主義が今俄かに日本に流行するに、危険を意味すると言ふ重要な理由の一つは、確かに其様の事は幾千年の歴史を無視するも亦甚しいものであると云ふことに存する。其邦の歴史的進路が勞農主義を正當付ける國に於て、勞農主義の流行ると云ふことは、決して危険を意味するものでなく、其は主としてエキスペヂエンシーの問題である。世界の各國夫々に歴史あり、歴史の發展に基く特殊の國情がある。然るを其凡てに向つて、何々は必ず危険であり、何々は決して危険ならずなどと一様に斷定することは不可能である。我が人の如からざるを憂ふるを要せざると共に、人が我が如くならずとて怒るには當らないことである。我々は日本人として、其歴史の正當付ける正しい道を踏んでさへ行けば宜しい。外

の國が我邦の如く萬世一系の皇統を奉戴する國柄でないとして之を蔑む可きでないことは、他の共和國民が日本が共和國でないことを以て之を劣等視するを許さないのと其理は全く同一である。勞農露國民は其勞農國たることを誇ること、或は我々日本人が君主國たることを誇ると同じであらう、其は決して不都合なことではない。其の代り勞農國民は、勞農國たらざるを以て、我々日本人を蔑視したり、敵視したりす可きではない。我々は我邦が君主國たることをイクラ誇つても宜からう、唯だ外の君主國ならざるものを、其君主國たらざる所以を以て蔑む可きではない。勞農國を勞農國たる所以を以て特に劣等扱す可き所以は斷じて存せぬのである。

## 二

此く云へば、言下に云ふものがあらう。日本は決して其君主主義の爲めに特にプロバガンダなどを行はず、自他平等として互に敬重す可きものとして居る。然るに勞農露國では、特に外國へのプロバガンダに力を用ゐて、其のボルシェヴィズムを宣傳するに勉



めて居り、又た資本主義軍國主義帝國主義の排撃に日も維れ足らざるの状を呈して居るではないか。現に英國が露國と通商關係を絶つと云つて居る理由の第一として、露國が其宣傳をしないと云ふ約束を破つたことをあげて居るではないかと。然り此點非は確かに勞農露國にある。但し其宣傳を止めないと云ふのは、決して英本國に於けるの謂でなく、アフガニスタン、印度又は他の英國の屬領地に於ける其れである（英本國宣傳用として送金したとか何とかあるが、其は或は反對宣傳ではあるまいか）。此等の地方に於ける宣傳も一切之を廢すとは、勞農露國は一九二一年三月十六日調印の英露通商條約に於いて慥かに約束した。其文言は左の通り

『兩當事者の各一方は他方に反對する行爲又は企て、及び英帝國若くは露勞農共和國の施設に對し直接又は間接に對抗する一切の公的宣傳を、自己領域外に於て行ふことを避く可く、而して殊に露勞農政府は亞細亞の諸民族、就中印度又は獨立國アフガニスタンに於て、英國の利益又は英帝國に反する敵對行動に出でしむ可く獎勵す可き一切の軍事的、外交的若くは其外の行動又は宣傳に顯はるゝ企てを避く可きこと、

英政府も亦た舊露帝國に屬し今は獨立せる諸國に關しては右と同様の特殊義務を負ふことを互に誓約す』

然るに今勞農露國が若し右の誓約を破つた事實があるならば、其罪確に露國に在る。故に我國が露國を承認するに方つては、此くの如き違約のない様に十分配慮す可きである。殊に朝鮮人又は臺灣人の間に反日本的思想を宣傳するが如きとない様にせねばならぬ。然し其は今の處露人に對してよりも寧ろ其外の國人に對して、日本が感じて居る一の必要であるのではないか。朝鮮に於て滿洲に於て、就中支那に於て排日思想を煽動しつゝある露人は、今の處殆んどなく却つて其は米國人其他の國人の間に若干あることが事實ではないか。然し乍ら排日思想の宣傳をするものが若干人でもあれば、其國との國交を斷絶せよとは、無法な主張である。尤も米國には山東省の土匪事件に就て、米國は支那の承認を取消す可しなどとの暴言を吐いて居る人もあるソウである。併しイタラ米國だとして、其んな氣狂染みた人の言によつて國交を左右せられるとはあるまい。土匪が出來て來て汽車の乗客を人質に取るのは甚亂暴千萬な事には相違ないが、然し米國には、金匪



財匪が澤山居て、人質ドロコか、全國民の懐をかすめ取る不都合なことをして居るではないか（此頃の砂糖騒動を考へて見よ）。之に比べれば支那の土匪の方が國民並に在留外人の全體から云へば悪性は薄いのである。其土匪が一度出て来たから、支那の承認を取消すと云ふなら、財匪の澤山横行して居る故を以つて、米國を一の獨立國と認めず、横暴なキアピタル・マグネーツを征伐することが出来ないのは、米國の政府が國を治める力なき所以を立證するものだと言ふことも亦出来る可き筈ではないか。世豈に此くの如き無法のことあらんや。勞農露國が他國の屬領に於いて排本國的宣傳をやることは、無論曲事ではあるが、其れを以て直ちに勞農露國を國として認む可からざる理由とする事は出来ない。違約があつたら、其は飽まで責任を問ふ可きであるが、其を以つて通商斷絶など脅すのは、決して英國の名譽ではない。保守黨政治家の世界の大義を解せざる所以である。其んな眞似を日本がせなくてはならぬ理由は一も存しない。英國が露國との通商條約を無効とするのは、其れは英國だけのことであつて、日本は其ために毫も其爲す可きことを左右せらるべき理由とはならないのである。ボルシエヴキズムの宣傳に對

しては、之れを防ぐ可き方法は十分に取るが善い。其れと共に勞農露國が承認す可きものであるならば、其の願慮の爲めに、承認を躊躇す可き理由は些しも見出し得ないのである。而して假りに宣傳其ものが全滅し得ないとしても、承認が宣傳を奨励することにならない丈けのことは、必ず出来るものと、私共は確信して居る。更らに一步を進めて云へば、私は露國ボルシエヴキキの徒が如何に巧妙に宣傳——而も我國內に於て——したとて、我國本は大磐石の如く決して微動だもしないことを確信して渝らざるものである。私は我國體は所謂赤化に對しては全くプルーフであると斷言して憚らないものである。

## 三

勞農露國の承認は勞農露國の承認であつて、決して舊露國ツァー露國の承認ではない。斯く云ふと答へるものがあらう。舊露國の延長としての勞農露國を承認するのでなければ意味を成さない。何となれば、勞農露國なるものは舊露國の權利を變則的ではあるが、兎に角承繼したからこそ領土大權を有つて居るのである。其れでなければ勞農露國



とは唯だ机上の空名に止り、一も實在のないものである。既に舊露國の權利を承繼した其の延長である以上は舊露國の義務に屬する其の債務を承認しないと主張するのは、如何にも誠意を缺く話であつて、此一事丈けで承認は到底不可能である。勞農露國は舊露國の一切の義務を承繼すること、其權利を承繼したのと同様であるならば、承認必ずしも不可でもなく又不可能でもないが、權利のみを承繼して義務を承繼しないなどと虫の善いことを主張する限りは、到底相手とす可きではないと。成程此論は一應尤に聞へる。然し勞農露國の承認は、現在勞農國民から成立して居る其の勞農露國の承認であつて、之を承認する者は其承認の相手の權利が現勞農露國にあることを認めると云ふ丈けで、其成立に就て何の責任を負ふわけではない、何等のアツサムプシヨンを要する次第ではない。既に何十ヶ月か露國の領土大權を保持して居る者を有るが儘に承認する丈けの事である。現在に於いて勞農露國を形成して居る其人民が、現に政府として承認して居るものを、我々外國が同様に承認するに過ぎない。其外其以上の何物もあるのではない。其を舊露國の權利を其儘に承繼したものと見る可きか、其れとも舊露國は一切滅んで仕

舞つて、茲に一の新しい勞農露國が出て來つて、何等かの方法で現在の領土大權を確保したものと見る可きか、其は人々の解釋に任せる外はあるまい。國際法學者には國際法學上の意見があらう、國法學者には國法上の意見があらう、又社會學者には社會學上の意見があらう、經濟財政學者には經濟財政上の意見があらう。我々は今其等一々の學說を検討せんとするものではない。我々が専門學者としての説は如何あらうとも、勞農露國の承認と云ふことを一國民、一市民として（或は一プロレタリアとして、或は一ブルジョアとして）考ふるとき——私は今此問題を唯だ此くの如くにのみ考へて居るのである——に於ては、其等の特殊な學說に拘泥する必要は寸毫もない。我々は一國民、一市民としては、日本國が儼として存するが如く、英國の國家の儼として存する如く、勞農露國なるもの——少くとも現在に於ては——儼として存するものなるを認めざるを得ざるものである。其は一切の學說や主義やを超越する現成端的の一活事實であつて、學說や主義は此活事實を抹消する力は有して居らぬものである。舊露國の延長として此勞農露國を見ると云ふのは、無論左様見る人の見識であつて、我々は之を非なりとす可き權能は有し



て居らぬ。其れと共に、此く見る人々が、此く見てのみの勞農露國の承認なるもののみがあり得るので、其以外の意味に於ての勞農露國の承認なるものは有り得ないと強制すべき権能をも有して居らぬのは明かである。デアルカラ、舊露國の債務を負はない以上は、現勞農露國は、何等の権利をも有して居らぬものであると主張するのは、唯自家一流の見解を提げて、露國幾億の人が現に承認して居る勞農露國を否認せんとするもので、其は甚だ大膽な机上的學究論と云はねばならぬのである。現に勞農露國なるものが儼として存在して居ると云ふ事實は、如何に強く主張せらるゝ學說を以てしても、其一學說の爲めには微動だも爲し得る次第のものではない。

## 四

舊露國債務の承認と尼港事件の責任問題とは混同す可き性質のものではない。尼港事件は現露國政府になつてから起つたことで、タトへ其れは白軍が多少有力であつた時代の出來事で、又た日本が白軍を助けた事と關連して居るとするも、兎に角勞農政府治下

の露國領土内に起つたことであるから、對等の一國として承認せられんとする以上、右事件に就て負ふ可き責任あらば飽迄十分に之を負ふことを明言す可き義務は、勞農露國にある。但し其負ふべき責任は必ずしも從來傳へられて居る通りであるべきか否かは、我々には分らない、或は勞農當局者にも分るまい、此れは双方から委員をあげて、十分に調査討議すべきである。日本軍がなし崩しのシベリア各地方で暴虐な眞似をしたと云ふ風説も聞く、其眞偽は十分に調査して、勞農露國は其負ふべき責任を負ふと同時に、日本軍に萬一非違があつたとしたならば、日本は男らしく其責任を負ふべきである。誠意を露國に責めるものは、自ら先づ一切のウソを放擲しなければならぬのである。而して日本の官憲なり軍隊なり又は間諜——若しあらば、其を人民中に算入して呉れては困る——なりによる何等非違の事實なき場合には、——私は其然かあらんことを切望する——尼港事件の責任は、現勞農露國が十分に之を負はねばならぬ。此點は斷じて糊塗曖昧を許さない。山東土匪事件に就て支那政府が責任を免れずとする以上、尼港事件の責任をゴマカスことは斷じて許し能はぬ。乍去其れと同時に我々は篤と手を胸に置いて考へて



見ることを要する。現勞農政府に反抗し之を顛覆すべく驟起した何將軍とか彼將軍とかの所謂白軍と我日本と其軍隊との關係は如何であつたかと。我々日本國民は、シベリア出兵を欲したのではない、其或もの——私も其一人——は出兵の噂を聞いた其日から極力其不可なるを痛論してそれに反対したのである。然るに、日本の政府は愚にもシベリアへ出兵した。初めはチエツク・スロバク救援とか何とか兎に角口實を製造してあつたが暫くしてから、何の口實もなしに、ノンベンクラリと駐兵して最近にまで及び其間には汽車すり替へ事件の如き大失態をさへ醸すに至つた。我々は尼港事件の遠因若くは近因中其最重要の一つを、此の無名の師を動かしたことに歸さねばならぬと信じて居るものである。人を責めんと欲するものは、同時に己れを責めることを忘れてはならぬ。尼港事件は不都合千萬たること言ふまでもないが無名の大軍を露國の領土内に動かしたことも、疑もなく不都合千萬である。而して現勞農露國に反抗した白軍を助けたとは、露國當事者から見れば、又甚だ憤慨に堪へざる事に相違ない。此等の事情と全く切離して、尼港事件だけを見るのは、我田引水の甚だしいものである。然るに、此問題解決せざれば

ば北樺太から撤兵せぬと言ふは、實に馬鹿げたことで、日本自國本位にのみ考へても、此位不利益なことはない。我々は我々の子弟、我々の納むる租税を、此くも愚かな間違つたことに浪費されて居るを甚だ迷惑に感じて居るものである。従つて露國の請求の有無に拘らず、北樺太の撤兵は即時に斷行して貰ひたいと主張するものである。兎に角現在では、未だ慥かに露國の領土たる北樺太に兵を駐めて居る日本が、露國に誠意がないなどとは、非難して居るのは片腹痛いことである。イキナリ人の腕をねじ上げて置いて、其れで其人の言ふことが友誼的でないの誠意がないのと云ふものあらば、其人間は無法律者と呼ばれるの外はなからう。我邦は露國に誠意を求むるなら、少くとも其の片腕をねじ上げて居ることを即時に廢す可きである。——浦鹽で日本のスパイをやつた嫌疑ありとか傳へられる日本の官吏が、監禁せられたとて憤慨するには、同時に其人に何等のスパイ的行爲のなかつたことを立證することを勉めなければならぬ。スパイ的行爲がないものを監禁したら其監禁者を十分責めるが宜しい。日本の官吏だから、必ずスパイ的行爲がないと初めから斷言することは無法である。要するに、人に誠意を求めんとするには、己れ先



づ誠意を披瀝す可き道徳的義務を有する。尼港事件は此の意味にて、十分露國の責任を問ふ可きである。唯むやみに賠償呼はりをしたとて、相手方が無造作に之れに應ずることとは望まれないことである。

## 五

私は此の尼港事件と舊露國債務承認問題とは其性質同一でないと云つた。舊露國に對する日本の債權なるものは、大別すれば二箇の項目から成り立つて居る。第一は、日本政府が聯合國の一員として、其の他の一員たる舊露國へ軍事關係費に充つ可く貸付けた金額、其第二は日本商人の露國政府商人等に對する貸金又は賣掛代金であつて、日本政府が代辨して、今日日本政府の貸金の形式となつて居るもの、是れである。其第一項に就て先づ考ふ可きことは、其れは敵國よりの戰爭賠償金とは全く異なる性質のものであること、是れである。今や世界改造の大問題は、嘗て敵たりし獨逸の償金を輕減（又は全免）するの急要なることを示して居る。敵國の債務——而して其れは舊獨逸帝國の債務を承繼し



たものではなく、新獨逸共和國が明かにヴェルサイユ條約に於て義務者として調印した所のものである——でさへも、之を滅又は免せねばならぬことが少なくとも世界の識者の間に認めらるゝに至つた今日、敵でなく味方の一員であり、共に同一の側に戦つた露國が、其戦争の爲めに被つた債務は其義務者たる舊露國が依然として存立して居るとするも、經濟上、財政上其義務を果たすことが出来ないか、果たすことが非常の苦痛を露國へ與へるものである場合には、我日本は人道の上から、國際道徳の上から、殊には君子國を以て自ら任ずる上から、又た經濟上のエキスペチエンシーの考慮からも、其の滅又は免を他の諸聯合國に先つて斷行して範を示し、他の愆深き聯合國をして、日本の例に恥ぢて其要求を捨て又は輕減せしむ可く、日本先づイニシエーチヴを取ることには、甚だ希はしいことである。日本は聯合國の一員たるの故を以て、三國干涉の恨をさへ忘れ、否過去幾十年絶へず日本を北方から強壓して居た其の屈辱をさへ忘れて舊露國を助けたではないか。三國干涉に何等の責任なく、而して少くとも今後稍永い將來に取つて軍事上少しも日本を脅す危険のない勞農露國に對しては、タトへそれが舊露國の債務を當然承繼したものと



しても其財政上の負擔を減又は免じてやることは當然の事ではないか。舊露國に對して減免してやる場合には聯合國の一員として戦つたと云ふことが重きを爲すが、現勞農國其ものに對しては其理由はない。乍去國家の負擔は其國家が新舊入れ代つたとて、結局露國の人民がそれに任ずるの外はない。其人民は聯合國の一員として其子弟を亡ひ、其財産を捨て、戦争に従事した其露國人である。其人々の將來の財政上の負擔を減じてやることは、勞農政府を認める認めないに拘らず、人道上正さに爲す可き所ではないか。人民に對して減免してやることを、勞農政府に減免してやると云ふ形にしたとて、何の不都合が之れある。

## 六

日本の債權の第二項は、卒直に云へば、日本商人の淺見、慾張りの結果が其の或部分を占めて居ることを考へなくてはならぬ。私は戦争の眞最中、大阪市役所主催の商工講演會に於いて、粗次の如く言つたことがある。「諸君は日本の輸出が今激増したとて喜ぶ、殊に

大阪に於いては對露貿易の好況に夢中になつて居る。シカシ、諸君若し茲に人あり、古道具、古建築材料が値が善く賣れるとて、一切の家具家財を賣り放ち、終には自家の屋根までもはがして、之を古材木商に高き値にて——而かも其代金の回收確實ならざる——賣飛す人ありとせば、諸君は之を何と評する。今日本の輸出好況に乗じて何んでも彼んでも賣れる丈け賣りはたけとする人々は、此の屋根を賣る愚人を笑ふ資格ありや否や。私は斷言する、對露輸出好況なりと喜ぶ諸君は、餘り遠からざる將來に於いて、其れは結局唯取られになつたものなるを發見することを。露國は決して今買入れつゝあるものゝ代金を全部支拂ふこと不可能なるは火を睹るよりも明なる事實であるから』云々と。日本商人の賣かけ代金の貸賣りは、其或ものは屋根をはがして賣つた愚人同様のものであつて、其れが結局貸倒れとなるのは、言はゞ自業自得なのである。政府が肩代りをしたことは他の忠實なる納税者に取つては、迷惑千萬なことである。然し既に肩代りをして仕舞つた以上は致方ない。日本政府は適當の方法によつて成る可く其部分の債權を回收して國庫の損失を少からしめて、一般納税者の迷惑を減ずることを勉む可きである。私は



此れ丈の要求には、勞農露國は應ずるものと思ふ。何となれば其れは結局日本の人民の迷惑を軽減する所以であつて、其性質は國家と國家との間の軍事關係費の貸借とは必ずしも同一でないから。通商を恢復し外資の輸入を待たんとする勞農國の新經濟政策の立場から見ても、此項に當る債務の承認は、當然爲す可きであらう。唯其支拂の方法なり時期なりは理解ある寛大を以て取扱はる可きは勿論である。國際道徳の通義は暫く問題外とするとしても、勞農露國自らの將來に涉る利益の上からも、此の承認はエキस्पエヂエンシーの問題として必要である。然らざれば通商の恢復、外資の招致が圓滿に行はるゝことは望み難いのである。

## 七

勞農露國を承認せずして、唯だ通商關係の恢復丈を爲さんと云ふことは、甚だ可笑しな話である。無い國と通商條約を結んだり、商務官を交換したりすることは出来るわけではない。條約を結び代表官吏を交換する以上は、相手方を互に承認したことを意味する。

残る所は唯形式の問題である。即ち非承認論者が非なりとする所は、唯に形式の上の事のみである。英國は一度此愚を敢てした。但し其れは未だ今日ほど世界の形勢が進んで居らなかつた一昨一九二一年のことである。今日とは大分違つて居る、併し英國は形式的承認をせずして露國と通商條約を締結した、而して二年後の今日になつて之を破棄せんとして居る。若しも英國が形式的にも露國を承認し、其れに基いて一切の關係をモツヤちやんと確定して置いたなら、恐らく今日の様な破目には陥らなかつたであらう。責任は主として露國の側にあることと思ふが、英國の姑息も亦多少累する處あつたに相違ない。少くとも今日となつて我日本は其愚を再演す可きではない。若しも通商條約を結ぶのなら必ず形式上にも勞農露國を認め、一切の關係を明確詳細に規定してかゝる可きである。而して今日世界の行詰りを救済する道は、一方獨逸に對する聯合國の態度を根本的に改め、殊に償金支拂の諸條件を思切つて緩和する他方に、勞農露國を承認しこれと通商關係を恢復し、依つて以て露國の經濟的開國を斷行することを外にして到底望む可からざることは、今や心ある者の否定し能はざる儼然たる事實である——對獨問題



に就ては前段所收『經濟危機と經濟恢復』對露の問題に就ては、『ボルシェヴィズム研究』五集所收に其の卑見を詳述して置いた参照を乞ふ——。聯合軍は何れも其實行に躊躇して居る否佛國は其形勢を更らにより悪くす可き色々な愚舉暴行を敢てして居る。かくて今世界の平和を最も擾亂しつゝある者は唯自國の利益の外何物をも眼中に置かざらんとする此の佛國であつて、英米國は何故か此れに對して抗議せぬ。支那の土匪事件で強いことを言つて居る米國が佛國のルール占領に一言も抗議を申立てぬ否日本の北樺太撤兵を主張して、日本大使館へ示威運動に押しかけたと云ふ英國の勞働運動者も佛國のルール占領のことは棚にあげて居る姿である。即ち今の歐米世界は政治家も勞働者も多くは極端な錯覺に陥つて居るのである。かくて世界の行詰りは彌々深みへ深みへと陥つて行く。然し幸なことは茲に我日本がある若干の誤謬と過失とを除いては、世界の平和を攪亂した事實を少しも持たぬ日本がある。歐洲各國が共に甚しい泥棒行爲を擅にした過去三百年間、一回も外國を侵略したことのない光榮の過去を有する日本がある。其日本は、勞農露國を承認しそれと通商關係を恢復するにあらゆる機會、便宜、利益

をこそ有すれ、之を非とす可き理由を一つも有して居らないのである。私は此の我日本が聯合國中第一者として先づ勞農露國を承認することは、其れが獨り日露兩國の利益を進むる所以たるのみならず、他の聯合國をして承認通商を辭する能はざらしむる機運を促進することになり、其結果世界を其行詰りから救ひ出すに、日本が重大な役目を演ずる所以となる可きを深く信じて疑はざるものである。(一九一三・五・十三)

||大正十二年六月『改造』掲載||



# 十 混沌たる農村問題

(大正十三年十一月「改造」掲載)



## 混沌たる農村問題

|| 殊に那須、河田兩教授の農村問題論を讀みて ||

—

農村問題を適當に解釋し、解決し、窮迫の極に在りと謂はるゝ農民と農村とを其の窮状より救ひ出すに就いて、先づ第一に爲されねばならぬことは、農村問題の本體を徹底的に見究めること是れであらねばならぬ。然るに我邦現在の農村問題なるものは、私が見る所では、未だ其の本體の所在が十分に見究められて居らぬ頗る混沌たるものである。従つて我々は農民と農村との救ひ出しを考ふるに先つて、農村問題其のものゝ救ひ出しを考へなければならぬ。何をか農村問題の救ひ出しと云ふ。第一事實上農村問題の本體を圍繞する所の混沌状態から、此問題を救ひ出すこと之れである。第二思想上農村問題



の所在を晦澁ならしめる混沌たる農村問題論者の手から此問題を救ひ出すと之れである。那須教授の『農村問題の歸趨』、『改造』八月號、河田博士の『農民心理と時代思潮』、『改造』十月號并に博士の論文集『農村問題と對策』とは何れも、此の救ひ出しの企てとして甚だ有力なものであつて、五里霧中に彷徨する我々と農村問題とに取りて、暗夜の燈火たる可きものである。唯私は不幸にして、以上三論策を逐一精讀した結果、未だ本質上并に思想上の混沌状態から救ひ出され得ないものであつて、従つて、三論策によりて農村問題其ものが五里霧中から解脱して、白日を見るに至つたと考ふること能はざるものである。此論文に於いて、私の爲さんと欲する所は、私自ら農村問題の本體を見究めたことを示さんとするのではない。否、反對に私はまだ其本體を見究めること能はざる混沌状態にあるものなることを示さんと欲するものである。私は最善の注意を以て精讀した此等三論策に依つて、殆んど何等の光明をも與へられなかつたことを、卒直に茲に告白して、農村問題の混沌状態からの救ひ出しの甚だ急務なることを訴へんと欲するに過ぎないのである。但し私は此論文に於いて煩鎖なる學究的の言葉争ひなどをしようといふ

所存は少しも有たない、畏敬する専門學者の博議廣論に對して忌憚なく所感を陳述して、少しでも多く農村問題の眞正の理解を得るようにならばと念ずるのみである。

## 二

河田博士は言はれる。農民たるが故に、他の部類の人々とは、多少趣を異にせる心理状態の認む可きものがある。心理状態と云ふことが不適當であるならば農民共通の思想又たは思想の傾向の認む可きものがある。(中略) 試に之を謂つて見ようならば、先づ農民は一般的に甚だ個人主義的である、又た甚だ傳統主義的である。別の言葉でいへば保守主義である。次に又農民は一般的に宿命觀に捕はれ一種の宿命論者である。同時に又其の生活を處する上に於て甚だ節儉主義者である。そして此等の性狀や思想の傾向が農民一般に共通なるは、主として、實にその與はれる農業といふ業務の性質と、その行ふ農村生活と云ふ生活様式とより生じ來れるものなることも、嗜易き所に屬する、居は心に移すといふが、先祖代々農業といふ單一の業務に従事し、獨り農村の天地に生れるから死



ぬるまで住んで居るのだから其所に一種の共通なる農民心理の陶冶されるは當然である。その陶冶されたる共通の心理は、農業といふ業務と農村生活との續く限り萬事流轉の今日に於いても依然として持續されて行くのである。(中略)

所が右等多くの特色は、その何れを見ても、現代思潮一般とは、とかく十分に反りの合ひ兼ねるものばかりである。中には全く背馳するものもあり、中には傾向としては、稍々同一方向に向ひ乍ら然かもよく十分に合致し併行し難きものがある。そして其事は、農民と農村生活とに取つては、現代に處する上に於て甚だ都合よからぬことである。之が爲めに、農民は農業を捨て、都門に走り、農村は荒廢して、今日の所謂農村問題の心理的原因と爲す所となる。(中略)

要するに、農民心理の一大特徴としての個人主義は、同じく個人主義ながら現代一般の個人主義思潮とは、稍々其の立場を異にし、とかく十分に反りの合ひ兼ねるものたるを謂ふとが出来る。そして、其の意味の個人主義心理に捕はれたる農民は、それが爲めに益々現代思潮と現代生活とに於て、其の地位を危くせられ、段々影の薄いものとなりつゝある

を否み難い、農民にして早くこの心理の轉換を圖り、個人主義に立つにしても、人格主義的にして、然かも奮闘的な、同時に又生活と業務との上に於ては、共同一致の力を養ふて以て新なる團體主義を迎ふることを爲さざるに於ては、農業の衰微と農村生活の没落とは、所詮免れ難き所たらざるを得ないであらう。農民の抱懷する個人主義甚だ呪ふべきである。排斥す可きである。撲滅す可きである。農民にして飽迄之を固持する限り、時代は之を粉碎せなければ止まぬのであらう。

次に又農民心理の特徴たるその傳統崇拜心や宿命觀的態度やに就いて見るも、何れも今の世には不向なものばかりである。即ち極端な傳統崇拜の如きは、進歩と改良を容るゝ餘地なきものである。農民の有する傳統主義は、それほど極端なものではないにしても、時勢と共に移り行くを妨ぐる點に於て、それは農業々務と農村生活とをして、段々時勢後れのものたらしめると。以上が農民心理と農村の運命とに關する博士の考への筋道である。



## 三

此れによつて見ると、博士は現代の『農民心理』なるものを徹頭徹尾否認し、農民離村、農村荒廢の最大原因を、此の『時代思潮と反りの合ひ兼ねる農民心理』に歸して居られるのである。他の語を以つて云へば、今日の農村問題發生の最大責任者は、此の時代後れなる『心理』てふものを所有する農民其人であると云はれるのである。私は博士の此の考察の仕方には、實に耐へ難いほどの混沌と不透徹性とが含まれて居るものと感ずる。今少しく順序を立て、少し私の解し得た所を述べて見よう。

第一に、博士が日本の農民を以て個人主義心理に捕はれて居るとの斷案を下されたのに對し、私は喫驚を禁じ得ないものである。私共の見るところでは、日本の農民位非個人主義的なものは類例少いと云はなければならぬ。日本農民の間には個人と云ふ思想は極めて弱いものであり、其の個人性の發達は非常に遅れて居るものと思ふ。然るに依つて又た社會と云ふ觀念、社會思想は極めて幼稚なのである。言ふまでもなく、社會と云ふ觀



念の發達は個人と云ふ觀念の發達と其の度合を同くするものである。構成要素たる個人性の覺醒するにあらざれば構成體たる社會性の自覺は起り得ないのである。若しも博士の言はるゝ所の意味が、日本農民間に社會觀念幼稚なりと云ふにあらば其は誠によく正鵠を得たものである。然し若し博士にして其事を言表すに個人主義的てふ言葉を以てせらるゝものならば其は問題の紛糾否顛倒と云はなければならぬ。博士も此點に考慮せられたか否か後段に於いて農民の個人主義と一般の（即ち正しく言ひ表はされたる）個人主義と決して同じからざることを繰返し言つて居られる。乍去、是れは自殺的論證ではあるまいか。正しく解せられた個人主義觀と日本の農民の『心理』又は思想的基調とは全然反對なものである。然るを博士は兩者を以て共に個人主義の細目なりとして居られる。是れは單に言表はし方の問題ではない、抑も『心理』なるものに關する根本的見方の相違の問題であると信ずる。

#### 四



博士は或は Bäuerliche Pöffigkeit (百姓の頑固性) Bäuerlicher Egoismus (百姓の利己心) のことを個人主義てふ全く異なる内容を有する語にて言表はして居られるものではないか。若し萬一然るならば、其れは驚く可き概念の錯誤に陥られたものと云はねばならぬ。頑固性とか利己心とか云ふ性状の傾向と、個人主義と云ふ一の人世觀とは如何なる場合にも決して混同す可きものではないのである。然し私は日本の農民を以て特に頑固性や利己心に富めるものと考ふることを得ないものである。否、日本の農民は農民として頑固性や利己心に富まざることとは、之を歐州大陸の農民に對比して、甚だ顯著なりと觀察しつゝあるものである。而して其れがやがて日本に於いて早く農民解放運動の起らず、小作爭議の起らず、日本の農民は永く『死なず、生きざる様に』壓へつけられて其運命に默從して居た最大の原因であると思ふものである。博士は、又此の現象を解して、日本の農民は宿命論者なりとせられる。此れも亦私が理解することを難んずる點である。日本の農民が、堪へ難き壓迫に永く堪へ忍んで居たのは、彼等が一種の宿命觀に囚はれた宿命論者であつた爲めと見るのは、同情に缺け理解に缺けること大なる見方ではあるまいか。

彼等は西洋の農民の如き Pöffigkeit を有せず、素直な人間であつたが爲めに、堪へ難きを堪へ忍んで、百姓一揆を起すこと極めて稀(西洋に比すれば殆んど皆無と云つても差支ないほどに)であつたので、彼等は決して宿命論の人世觀に立つて、此の宿命を甘受して居たものとは思はれないのである。博士の云はるゝ節儉主義者たりして、ふ事も亦同様であらうと思ふ。日本農民は別に節儉主義などと云ふ倫理觀上の一主義を奉じて居たものとは思はれない。彼等が節儉なりしは、然するより外に生く可き道が存しなかつたからである。『死なず生きざる様に』と仕向けられたる彼等としては、極端なる節儉によつて死せず、さりとて大いに生きもせず、辛ふじて其露の命をつなぐの外はなかつたのである。此等の『心理』なるものが、農民に累したのは、寧ろ昔しにある。此『心理』あるが爲めに、日本農民は永く解放し得られなかつたのである。而も其れは、彼等が責に任ず可き惡癖でなく、却つて、彼等の人間としての尊さを示すものである。其尊さを利用し、それに附け込んで、彼等を永く壓迫した江戸幕府時代の武士諸侯こそ憎みても猶餘りあるものなのである。然るに河田博士は、日本農民の此の『心理』なるものを以て、農村荒廢、農民離



村の責任者として、之を非難す可く彼の一文を公にせられた。博士は果して日本農民の眞の理解者を以て目せらる可きであらうか、私は多少の疑を抱くことを禁じ得ないのである。

## 五

然らば、過去に於いては、其人間性の尊さを成して居つた此の柔順性は、今日の時勢に於いて、農村問題を惹き起した原因と見る可きであらうか。換言すれば、河田博士の見方は、過去に就ては妥當ならずとするも、現在に於いては轉じて妥當性を生じ來つたものと見る可きであらうかと云ふに、私は斷じて左様ではあるまい、否、寧ろ其反對の見方こそ妥當性をより多く有するものであらうと思ふ。言葉を換へて言へば、今日農村問題の叫び聲の喧しくなつたのは、博士が日本農民の心理若くは思想傾向として指摘せられたもの、存在するより起つたのではなく、寧ろ其反對に、其の『心理』其の思想傾向が段々消滅し行くが爲めに、今日の農村問題は起つたものと見る方が當を得ては居らぬかと、私は觀察す

るものである。博士の言を藉りて云へば、一般の現代心理、思想傾向と兎角『反りが合はない』が爲めに、農村問題が発生したるにあらす、却つて其反對に、農村の民も漸次に現代の心理、一般の思潮と『反りが合ふ』ようになり始めたが爲めに、農村問題は発生したのであつて、博士の見方は、冠履顛倒、トプシーターヴェキと云はなければならぬようである。従つて若し、農村荒廢、農民離村の責任が、農民の側にありとするなれば——私は之を否認するものである——其れは、博士指摘の『心理』の存在の上でなく、却つて其の漸次的消滅の上にこそ求めらる可き責任であるのである。而して此の心理の消滅を促したものは、農民自身でなく、農民以外、農村以外の所謂現代——即ち資本主義營利經濟の現代——であることは、誰人も疑を容れない所であらうから、消滅の責任を彼等農民に歸しようとするのは、飛んでもない履き違ひとなる。責任者ありとすれば、其れは農民以外、農村以外の天地に尋ねられなければならぬ。即ち言葉を換へて云へば、私は農村問題發生の原因を農村の中に求めようとする一切の農村問題論を以つて無理解の甚しいものと見る。農村問題發生原因の所在地は、遠く農村以外にあり、其責任者は、全然農民を離れたる以外



の社會にあると信ずるものである。河田博士が農民に早く此の心理の轉換を圖れと命ぜられる其事は博士の命令を待つまでもなく既に已に起りつゝあるのである。其れが起りつゝあればこそ農村問題は喧しく叫ばれるに到つたのである。博士が農村問題消滅の適藥として處方を盛れた所のは實は却つて其の勢を助長せしむ可き最有力の動力たるものであると云はなければならぬ。

## 六

讀者は以上の言によつて私が農村問題を見る見方は其態度に於いてのみならず根本的立場に於いて河田博士の其れとは相反せるものなるを諒とせられたことと思ふ。即ち私は農村問題の發生を一の忌はしいこと悲しむ可きこと希はしからざることゝ見るような立場に立つて居らないのである。元より其様な問題の起る餘地が全く存在せず日本の農民が生活の安定を得人としての生存を十分に樂しみつゝあるものならば其れが理想的状態と云ふ可きは勿論である。それに反して生活の安定なく人としての生存

の脅かされて居ることが事實なる以上は、一日も早く而して一聲と雖も多く農村問題の起り叫ばれることは其れが發生せず其れが叫ばれざる昔よりは遙かに勝つた現象なりと私は信ずるものである。病なく痛も亦なきは最上である。然し病あるに痛なくして病者其病に心付かざるは危険此の上ないことである。私は日本農民の現状にして持續する限り農村問題の彌々益々高く叫ばれることを歓迎する外なしとするものである。而して問題の發生が博士の指摘せられた農民心理なるものが漸次消滅し行く處より起つたものとするならば其の消滅こそ寧ろ喜ばる可き現象と云はねばならぬ。神戸正雄博士は嘗て日本農民は可成自足經濟に甘ぜざる可からず即ち其食ふ所の醤油を自ら作り下駄を自ら作るようにし都會の産物たる毛布や洋傘を購ふことを罷めねばならぬと主張された。私は博士に反問した何故農民のみ自足的でなければならぬか農民が下駄や醤油を自ら作らねばならず反對に大學教授は舶來のソールや靴を三越でドシ／＼買入れて差支ないとは抑も如何なる經濟理論によりて要求せらる可き處なるかと。河田博士の論神戸博士の論共に兄たり難く弟たり難き農民差別特殊觀の見地を示めすもの



ではあるまいかと思ふ。更らに又た河田博士は、農民離村を以て大なる疲弊として居られる。他方に、日本今日の農村の疲弊を農村人口の過多に歸しブラジル移民を主張せらるゝ論者は那須教授である。離村することなくして、遠く南米ブラジルに移住し得る妙案は、私は考へ及ぶこと能はざるものである。農村人口が過多なることが農村疲弊の原因なりと聲高く叫ぶ論者よりも、黙々として自ら離村して幾分にも過多なる人口の緩和を實行しつゝある農民こそ、より、忠實なる農村問題解決の實行者であるのではないか（但し私は流行の移民論を一の謬見なりと信ずること後段述ぶるが如くである）。今の農村論の晦澁混沌を示めず好適例として、私は此一事を指摘して置かなければならぬと思ふ。而して此の混沌はやがて現時の農村論を最もよく特徴付けて居るものゝように思ふ。

## 七

那須教授は其論文の始めに於て、『農村問題の特異性』として『農村問題の内容の斯く

複雑豊富なることが、偶々人をして農村問題の本體何處にありやと惑を抱かしむる所以となるのである』と言つて居られる。此事は那須教授も引例せられた如く、先年の社會政策學會大會に於て、私は高野博士と共に横井時敬博士に對して繰返し指摘した處であるが、爾來數年農村問題に關する論議甚だ盛となつた今日に至り、更らに新人たる那須教授の該博なる論を得ても、一向緩和せられて居ることを見出さないのは遺憾極りなき事である。農村問題の内容が複雑なることは事實である。否定す可からざる事實である。故に他の多くの問題に勝りて農村問題こそは、理路井然たる透徹した考察を最も急要とするのである。單純なる問題に向ふには、左迄の用意を須むず素朴なる常識論を以てしても差支あるまいが、問題が複雑なればなるほど、十分に用意せられ、訓練せられ、研ぎすまされたる鋭き觀察を以てすることが必要である。今日の農村問題の混沌たる原因の大半は問題其ものゝ複雑なるにあることは疑を容れない處であるけれども、他の一半は其の觀察者の混沌、其の立論の不透徹に存するものではあるまいかと思ふ。而して那須教授の農村問題複雑性論は問題の複雑性を示めずのみならず、其の觀察の複雑性を最も有



力に示唆するものゝように思ふ。

那須教授は云ふ、農村問題に於ては、一國全體又は都會に就きて論じたる時に別々となる問題を往々一括して相聯絡せるものとして論ずるが爲めに其れは複雑となるのである。然らば左様に一括して論ずるは何故であるか其れには下の如き理由ありと思ふとして六箇條をあげて居られる。

- 一、農村住民の大多數は略同一なる環境の下に同一なる職業に従事して居ること
- 二、其の結果として、農民は其の心理に於て共通點多く、經濟的社會的、文明的生活及要求に於いて、略同一なること
- 三、農業は尙生業の域を全然脱して居らぬために、多くの市民にありては營利生活と家庭生活とを判然區別し得るに反し、農業者にありては、其の經濟的活動と家庭的、社交的生活とが不可分の關係に存すること
- 四、農村に於ては、文明生活の各要素間の有機的結合著しきが故に、一の要素に就きて、改良を圖る爲めには、同時に他の要素に對しても變更を加ふる必要があること

五、農村に於ては、人間及び職業の移動事情の變遷が都會地に於ける如く急激ならざるが故に、各種要素間の相關關係を研究するに便宜多きこと

六、農村の對外的問題例へば都鄙公租負擔の配分、農産物保護關稅、農産物價格調節、國民食糧自治等の問題と、農村の對内的問題例へば農業組織の變革、農家經濟改善等の問題とは之を切り離して考ふるを得ざること

## 八

教授は云ふ、『以上の如き事情存する爲めに、農村問題は自ら複雑なる内容を有するに至るのである。(中略)斯くの如き經營上の問題は工業及商業にも均しく存することではあるが、農業に於ては、其の作業の種類が商工に比して遙かに複雑であるから、研究すべき事項も頗る多端となるのである。これ農業經營學なるものが學的存在を要求する基礎である』と。私は此一節を読んで殆んど私の眼を疑はざるを得なかつた。何となれば、農業の經營が商工業の經營に比して遙かに複雑なりと云ふことを自明の事理の如く



博士は我々に黙認を命ぜられ而して更らに内容が複雑だから農業經營學が學的存在を要求する基礎があるてふ學問方法論上前代未聞の哲理を我々に強制せらるゝからである。考察す可き事項が頗る多端だから學的存在要求に基礎ありとして農業經營學が主張せられるなら其れは學としては自殺的主張と云ふの外はない。何となれば其様なる理由を以て其の存在を要求するといふ事其事が學的存在を自ら否認する最も有力の根本となるは疑ないことであるから。博士は農業にのみ經營學の存在を主張し商工業にも經營學あることを毫も知らざるにや、考究事項の多端なりてふことが存在の理由ならば、商工經營學は農業經營學よりも更らに遙かに多く存在の理由を有つであらう。其は兎に角、農業が商工業より作業の種類が複雑なりとは、餘りに現代離れのし過ぎた觀察ではあるまいか。博士は農業經營學に精通せらるゝ他方に商工業の實狀に就ては嘗て一顧をもせられたことなしと見へる。何となれば然るにあらざれば、此くの如き暴言は到底發し得らる可きではないからである。否暴言と云ふは寧ろ當らず、私は直下に其を謬論と呼んで決して不遜の罪を冒すものでないと信ずるものである。教授が農業經營を

以て商工業の比し得可からざる複雑なるものなりとして列舉せられた七ヶ條の何れを取りて見るも、其れ以上若くは少くとも、其れと同程度の複雑な内容は、商業經營にも工業經營にも存するのである。即ち一耕地一帯の面積狭少且不规则なるが爲めに耕地整理の必要があると云ふことに對しては、工業には經營範圍の問題があり、又た『シユタンドオルト』の問題がある（從つて『シユタンドオルトレーレ』と云ふ一科の構成を主張する學者がある）二轉業又は移住の問題は、工業労働者に取りての大問題である 三組合の問題、工業にも商業にも同様の問題がある 四既肥不足の問題、此くの如きものを數へ上ぐるとなれば、工業上には僕を更ふも盡きぬほどある。商業も亦然り。五勞力過不足の問題、之れは農業の問題としてよりも工業の問題として重大なることは誰人も皆知る。六農業信用の問題、商業信用の問題はそれより數倍重要の問題である 七農業者の機械的知識、工業労働者に要せらるゝ其れと執れが重きか等、教授の列舉は、却つて農業の經營は、商工業の經營に於けるよりも問題の内容單純なることをこそ示せ、其の複雑なることを立證する力は些も之を有たぬように考へられる。



## 九

更らに遡つて教授の前段の六ヶ條を見るに其の大多數は現今の農村問題に特有なものではない、何れも幾百年の昔から我邦の農村に存して居たものである。即ち 一我農民は遠い昔から同一の仕事に従事して居た 二其の經濟的、社會的、文明的地位及要求に於いて略同一であつた、否今日よりも更らにより多く同一であつた 三經濟的活動と家庭的、社交的生活とが不可分の關係にあつた 四文明生活間の各要素間の有機的結合が著しかつた 五人間及職業の移動事情の變遷が都會に於ける如く急激ならず、各要素間の相關關係は密接であつた。而して其密接さは今日よりも遙かに大であつたのである。然るにも拘らず、農村問題といふものは毫も存在して居なかつたではないか？！

農村問題の複雑なることを、右等の事情が存するのを以て説明しようとするのは、歴史を全然無視し、社會發展の行程を全く度外に措くものでなくて何であらう。

## 十

教授の指摘せられた所は、農村問題其ものゝ複雑性ではない。現今に於ける所謂農村問題論者の取扱方の複雑性である。右列擧の諸事項を別々に引離して考究すること、都市に於ける諸々の問題に於ける如くするならば、此の複雑性なるものは雲散霧消するであらう。取扱者の頭腦錯綜して理義の明晰を缺くが爲めに、其取扱方が支離滅裂となり、従つて右の如き複雑性が起つたのである。此事は横井時敬博士に對する抗議に於いて私は縷説して置いたことは、那須教授今猶記憶せられるであらう。問題が混沌たるにあらず、問題者の腦裡が混沌紛糾して居るのである。問題若し靈あらば、必ず其不遇を慨歎するであらう、殊に勞働問題の好遇を健羨に堪へないであらう。教授の列擧せられた一ニ項は問題其ものから見れば、複雑性の證據たらず却つて其の單純性の左券とならざるを得ないのである。農民の大多數が略同一の環境の下に同一なる職業を營んで居ることとは、問題の共通性と其單一性を條件付こそすれ、決して其の複雑性を示めすものではな



い。又農民の心理に共通の點多く、經濟的、社會的、文明的、生活及要求に於いて略同一なることは、同じく其間に起る問題をして單一性を帯びること甚大ならしめるもので、決して之を複雑ならしめるものではない。教授或は答へて云はれるであらう、然り汝の言の如し然れども予は六ヶ條の一々を以て農村問題の複雑性を證明せんとするにあらず、六ヶ條集積して一の農村問題を成すが故に複雑性を生ずと證明せんとするものである。果して然れば其れは全然取扱方の事項である。如何に單純な問題たりとも、一定の方針なく、一貫の理路に依らず、唯だ思ひ付いた儘ゴタ／＼と並で立つるときは、複雑なるものとなることは勿論のことである。農村問題の本質が左様なるゴタ／＼的取扱を要求するとせば、其の問題の複雑性を裏書することならう。本質が之を要求するに非ず、唯だ問題取扱者が精神的怠惰性の常習者にして、其々の性質に従つて問題の分類と其特殊の取扱を爲すことを怠つて、雜然と思ひ浮ぶる儘に問題を混淆する物臭太郎たるが爲に、此の複雑性が生じたのではあるまいか。然れば農村問題を解決せんとするの善意ありて、却つて其の紛糾を助長するものと云はなければならぬ。都市に起る凡百の問題を若しも

右と同様なる物臭的取扱を爲すとせよ、其の複雑性は到底今日の農村問題の其れと同一の談でないに相違ない。唯都市諸問題の取扱者は幸にして物臭太郎にあらず、即興的常識論者に非ず、各般の問題に對して一々特殊的に適當なる取扱と處理とを爲せばこそ、農村問題を今日累しつゝある複雑性を免れ得て居るのである。責は農村問題其ものには毫末も存せぬ、唯其の怠惰なる取扱者にのみあるのである。

## 十一

論じて茲に來り、私は批評の筆を姑く休めて、私自らの複雑性理由觀を一言して置く必要があると思ふ。農村問題は複雑である確かに複雑である。其取扱者を入れ換へて有爲有能なる人の手に任かすとも、其複雑性は容易に取去ることを得るものでない。其然る所以は、那須教授の指摘せられた取扱上にあるのではない、抑も問題の本質、其ものに存すると言はなければならぬと思ふ。

今日の經濟社會は資本主義組織を其基調とするものである。農村問題は、資本主義の



發達に促かされて起つた問題である。農村問題は農村から起つたのではない。社會から——資本主義の支配の下に立つ營利社會から——起つたのである。恰かも勞働問題は勞働其ものから起つたのでなく、資本主義社會から、殊に資本の側から、資本的企業者の側から醸し出された如くに。若しも經濟生活の資本主義化が全く起らず、又はよし起つても今日の如く顯著でないならば、那須教授の列擧せられ若くは未だ列擧するに及ばざりし幾多の事實が存するとも、所謂農村問題は決して起らないに相違ない——他の形で色々の問題は起るであらうが、其れは今日の所謂問題では決してない——故に我々は、農村問題の成立と其の本體其の本質とを農村に求める限り決して之を見究めることを得る望なきものである。此れを見究めんとするには、我々は其の醸出の本場に於いて探索せなければならぬ。農村問題が那須教授の言はれた様に一の特異性を有つことは確かなる事實である、現前の事實である。我々は此の特異性の解釋を農村の間に求めても到底之を得ることは出来ない。其は、其の適當の場所に就いて探求せられなければならぬ、適當の場所とは現代の資本主義經濟組織に立つ社會是である、我々は其の解釋を

此中に求めなければならぬのである。而して私は農村問題の特異性としての其の複雑性は、之れを資本主義社會に於ける一の消極的事實と見て始めて、其の本質を究めることが出来るものであると考へつゝあるものである。

## 十二

今日の資本主義社會は、其態様の複雑にして其行程の多趣多端なることは、到底農村に於けるの比ではない。然るに農村問題は却つて複雑性を其の特異性とする。是れは一見逆理であるかのやうに見えるが、實は逆理でないのみならず、却つて事理の當然を物語るものである。何故に然るか。

資本主義社會は實に形容し能はざる程複雑なものである。而して資本主義の擔荷體たる商業工業は其の本質に於いても、其經營に於いても非常に複雑なものであつて、到底農業の得て比し得可からざるものである。然るに其態様は如何に複雑に、其經營上の問題は如何に多岐に亘るとも、其等は資本主義てふ一の經濟主義によつて一貫的に又た徹



底的に支配せられてゐるものである。資本主義は從來人間の經濟社會を支配した何れの主義よりも遙に勝りて有力強大な主義である。其支配は絶對的とも云ふべき程徹底したものである。其作用は如何なる専制君主も企て及ばざる底の強大なものである。殊に資本主義の獨壇場たる市場と云ふものゝ發達すればする程其支配は全排他的獨占的となる。營利經濟の主體は云ふ迄もなく營利圏外に在る經濟主體たりとも今日の社會に於いて生を營むには必ず此の市場に藉らなければならぬ、一切の工業の生産は市場生産である。一切の商取引は市場取引である。一切の勞働は市場勞働である。否少くとも都會住民の消費は市場消費たるの色を濃くしつゝあるのである。藝術も政治も法律も漸次市場藝術、市場政治たらんとしつゝある。かくて我々の生活の大部分は市場に關はらずしては維持せられないようになった。市場は暴君である、單なる接觸を許さない、一度茲に出入し一指たりともこれに觸るゝものはこれを對等關係に置くことを許さざない、市場は其觸るゝ一切のもの其接する凡べての物に對して支配者、命令者となるにあらざれば罷まないものである。即ち我々は市場に依係する限り、其の被支配者、其の命

令執行者となるの外はないのである。市場の被支配者は即ち資本主義の被支配者である。而して然る限り、我々は極めて徹底的にして一貫的なる一の原則によつて支配せられ、之れに依りて我々の複雑多趣なる生活態様を整然と統一化せられるのである。資本主義の特徴は營利主義である。餘剩價値の追求と其集積とを最高命令者の祭壇に祀るものである。此の營利主義此の餘剩價値追求は更らに極めて嚴格なる合則性 *Geetz-*  
*mässigkeit* 合理性 *Rationalität* を其基調とするものである。従つて營利主義に支配せらるる限り、餘剩價値追求に依係する限りの人間の經濟的社會的存在と其の行爲とは、嚴格に一貫せる此の合則性、合理性の下に立ち此れに依りて其の生活態様の複雑其の生活運營の多趣性を一律化せられ統一化せられるものである。此の認識なくしては、現代の資本主義經濟生活の眞相は之を捕捉することは出來ない。殊に我々の經濟生活の基調を理解することは全く不可能である。

然るに今日の所謂農村生活は、此の資本主義の支配を受くること餘り無きか、若しくは輕微のものである。殊に我邦農民の大多數は市場への接觸から 未だ甚だ遠い地位に



在るものである。従つて營利主義の一貫的合則性、合理性の支配を受くること全くないか、あつても極めて微弱たるに過ぎないのである。従つて農村と農民の生活態様と其經濟行爲とは有るが儘にの素朴に任かされてあつて、營利主義によりて其態度を整理單一化せられ、生活行動を統一化せられること殆んど若くは全く之れなきものである。此の農村に、此の農民の間に起る問題たる農村問題は、従つて合則的に、合理的に單一化せられ統一化せられ、一の嚮導的主義の下に整理せられることなき素朴其の儘のものである。今日現在の農村問題の複雑性は此事情から起つて來て居るのである。問題其ものの複雑性が他の問題より大なるので、ない問題の依つて起る農民農村生活其ものが未だ資本主義の洗禮を受け合理化合則化の聖別を受けざる生れながらのものであるからなのである。

## 十三

資本主義營利主義が之れを支配する經濟生活の態様に統一性を與へ、之を合則化し合

理化する道は唯一つしかない、其れは今日の流通市場の支配是れである。流通市場は無差別の法則（又は一物一價の法則 Law of indifference）の行はるゝ舞臺である。市場に入し、其の支配の下に立つ需要者と供給者は、非常に複雑な差別的法則の下に立つて居るものである（之を Law of varying costs; Law of varying utilities 差別的費用の法則、差別的利用の法則と名けて置く。詳しくは、近刊拙著『流通經濟講話』を見られたし）。然るに彼等が一度市場の魔術に懸ると其差別性は頓に消へ失せて、一樣に無差別の法則によつて支配せられることとなるのである。従つて市場に於ける、又並びに市場の支配を直接か間接かに被むつて居る諸々の取引は、皆マルクスの所謂『等價形式』（エクキヴァレント・フォーム）によつて劃一せられ、統一せられるのである。等價形式によつて劃一せられ、其れは非常に複雑な差別則の下に立つが故に、需要者も供給者も其れに異なる餘剰を收得するのである。限界需要者と限界供給者とは、限界的平均餘剰を收得するに止るけれども、兩餘の需要者と供給者とは、限界餘剰以上に其れに異なる割合に於ける需要者餘剰か供給者餘剰かを收得するもので、而して其の餘剰の收得と云ふことが、



今日の營利流通經濟の根本動力たり、又目的原因となつて居るのである。其れは市場が無差別の法則によつて、一切の市場取引に劃一性を與ふることによつて、之を普遍化し、又た合理化すると云ふことを前提として居るものであつて、此の前提なくば、餘剰收得の經濟生活即ち資本主義的營利經濟は成立し能はぬのである。故に今日現在の經濟生活に合則性を與へ合理性を與へて之を統一するものは市場を描いて外にないと斷言して差支ないのである。

## 十四

此の合理化は、あらゆる不合理的要素を淘汰し抽象し去るのである。詳しく云へば、經濟生活を支配し影響する他の諸々の要素は、此の絶大なる市場の合理化によつて、全く其の力を奪はれて仕舞ふのである。かくて經濟生活の普遍性が、他の何れの時代にも見ること能はざる程度に打ち建てられるのである。リツカートは其の『文化科學と自然科學』第二版に於て『文化科學の中經濟生活を研究の對象とするもの（即ち經濟學）に於て』第一七頁

ては普遍的概念は最も廣く用られるであらう。何となれば、文化生活の中特に經濟的運動の分別せられ得る限り何れも大數に關するものなる可く、従つて經濟學てふ文化科學の本體は最も多く比較的に普遍的なる概念の内容と一致す可きであるから。例へば一定の國、一定の時代に於ける農民又は工場労働者の歴史的性質は、凡て他の同種のものに共通のものである可く、従つて自然科学的に其概念を形成し得可きで、純個別的特性は顯はれず、一般的概念的事情の設定最も廣く行はれ得るであらう』と云つて居る。此一節に對しては、リツカート崇拜者の中にも異論はあるようである。私も亦農民と工場労働者とを一律に見ることに、斷じて與みし得ないものであり、又其の理由の説明にも服し難いのであるが、右の言を市場支配の下に於ける經濟主體殊に營利的餘剰收得行爲に限りて適用することには、全然賛同するものである。今日の營利行爲に、而して營利行爲の經濟學に其の普遍性（リツカートの語によれば自然科学的性質）を附與するものは、歴史的性質の共通よりも、寧ろ遙かに多く其の市場性であり、其の市場被支配性であるのである。



經濟主體殊に自然人經濟主體は決して單に經濟的動機によつてのみ活動するものではない。況んや營利的動機のみによつて活動するものではない。彼等は國家的政治的家族的宗教的その他幾多の動機によつて動かされるものである。然るにも拘らず彼等が一度市場のスペル(魔術)の下に立つや、此等の特殊的個別的にして甚だしく差別的なる諸々の事情は、全く淘汰し去られて、其處に残るものは、唯だ餘剩獲得の一動機のみとなるのである。従つて凡ての市場被支配者は、殆んど普遍的に、非個別的に統一せられ劃一せられるのである。此事は私が今更事珍らしく論ずるまでもなく、一度でもゾムバルトの諸書に目を通した人には、自明の理と云つて宜しい位になつて居るであらうし、殊にマルクスを若干知つて居る人には、釋迦に説法であらう。市場による此の劃一化がなくなるか、又は其れが微弱となるときは、商工業を影響する諸々の事情は七つを七倍したる悪鬼の如く押し寄せて來るのである。

## 十五

農村問題の複雑性は右の原則から消極的に説明せられるのである。今日の農村の經濟は七つを七倍したる悪鬼の纏綿する處なのである。農民の經濟はリツカートの言ふ所とは反對に之を普遍化し、非個別化す可き一貫の原則を有たぬものである。従つて統一的の經濟的動機のみによつて支配せられず、常に他の複雑なる諸事情の影響を被つて居るのである。其原因は唯一つ、即ち農村農民の經濟は市場の支配を受くること皆無なるか、若くは極めて稀薄なものであること是れである。

然るに、那須教授は云はれる、『かくの如く都會生活に於ては確認することの甚だ困難なる因果關係の糸が、農村生活に於ては明かに認識せられ、而して其糸は經濟、社交、教育家庭等の各部門を貫いて居る。農村問題の複雑化は此所に發生する』と。先づ私に言葉咎めと誤解されそうな一言を許されたい。教授は農村問題の複雑化と云はれる、乍去農村問題は決して複雑化したものではない、初めから複雑性を有して居るものである。複雑化と云へば複雑ならざりしものが、複雑になつたことを意味する。然るに農村問題は其起る當初から複雑なものであつて、決して後から複雑に化したるものではない。此れは



決して單なる言葉の問題ではない。農村問題の複雑性其ものに關する見方の根本的差違の問題である。教授は都會生活では確認することの甚だ困難な因果關係の糸が農村生活では明かに認識せられると云はれる。之を他の言葉に引直すと、教授は自家矛盾のことを言つて居られることになる。何故ならば、教授は前には農業の經營は商工業の共れよりも遙かに複雑であると斷言せられて居るのに、此一段では都會生活は因果關係の糸が確認されないほど複雑な事情を有するに反し、農村生活に於ては其れが明かに認識せられる、即ち其れ程單純だと斷定して居られるからである。私は教授の眞に言はんとせらるゝ處が那邊にあるかを知るに惑ふなきを得ないものである。

## 十六

若しも因果關係の糸が明かに確認せられ得るならば、其は複雑化又は複雑性を證明するよりも、寧ろ其の單純性を證明すると云つた方が理路は徹底する。乍去事實は其反對なるを如何せん。市場によつて統一化合則化せられざる農村の生活は、經濟以外の社交

教育、家庭其他の原因事情が、相錯綜して己がじじ其作用を逞しつゝあるから複雑なのであつて、其間の因果關係の糸は決して明かに確認せられ得ないのである。何となれば市場によつて、資本主義によつて、普遍化せられない他の諸々の事情なるものは、一貫的合則性を有せず、偶發的個別的、又はリツカートの所謂一回限りのものであつて、其作用は實に千差萬別なものである。因果關係の糸は明かに確認せられるどころか、其存在さへ殆んど之を認むることが出来ないのである。無いものは確認せられる見込は到底ないのである。殊に傳統、習慣、情性に基く事情は、極めて不合理的にして、又た非合則的なものである。而して其れは均しく農村と云つても、農村毎に決して同様なるものではない。殊に我邦の東北地方と西南地方、關東地方と關西地方とでは非常に徑庭のあるものである。市場の支配を受くる限り、商工業には其様な差別性はないのである。各地方の特殊なる商習慣は、段々資本主義の洗禮を受けて、今や全國劃一的に近きつゝあるのである。他方に於て小作爭議の起否、其の數、其激しさが、地方によつて甚だ異なるのを見て、此理は直ぐ理解せらる可きである。又他面に我邦農慣習の千差萬別なることは、小野武夫氏の續々



發表せられつゝある各地の慣行調査を見ても、明瞭一點の疑を容れざる所であらう。舊幕時代の各藩は、其れに甚だ異つた對農民政策を取つて居て、其れが今日まで影響を及ぼして居ることは、私の言ふを要せない所であらう。而して其れは獨り我邦に限られたことではなく、歐洲諸國何れも皆然りである。因果關係の糸の最も明かに認識せられ得るのは、農村に於てでない、却つて都會生活に於てである。何となれば、經濟生活を影響する諸般の事情は、都會生活に於ては、皆市場の大魔力に逢着し、其の爲めに悉く一貫永續の統一的のものに合則化せられ、普遍化せられ、制約せられるからである。

## 十七

尤も今日の農村農民が市場に出入する場合は、尠からずある。乍去、此場合でも、其の市場の支配を受くることは、寧ろ微弱である。其原因は種々あるが、重なるものは、近世の資本主義的生産の特徴たる集中化と大經營とは、農業に取つては、工業及商業に於けるとは、同様の作用を有するものでないからである。工業に於ては、集中化は其の生産能率を高

めることは疑のない處である。然るに農業に於ては、必ずしも然りと云ふことは出来ない。従つて集中化せざる農家經濟も、猶集中化した農家經濟と對等に競争し得る。否、集中化せざる農家は、市場に賣出すものを有すること、少く而して其少きものを賣することは、却つて多くのものを賣るよりも容易な場合が多い。工業に於ては、其反對に集中化すること、少き經營は、到底集中化の高度なる經營と對等に競争することは出来ない。早晩其の爲めに倒されることを覺悟しなくてはならぬ。かく集中化が工業生産の生命たり特徴たる所以は、工業の生産は集中化することによつて、收穫遞増の法則の恵みを受くることが出来る。其反對に集中化せざる工業は、其の恵みを受くること全く不可能なるか、若くは甚だ尠いからである。然るに農業に於ては、收穫遞減の法則は偉大なる力を以て支配しつゝあつて、集中化によつても之れを免るゝことは非常に困難であり、況んや遞増法則の恵みを受くることは甚だ六ヶ敷いからである。殊に工業に於ては、經營を大にするときは、遞増法則の恵みを受くること甚だ大であつて、従つて其の生産能率は集中化の度合よりも、更らにより、多く増進する場合が多いのである。農業に於ては、寧ろ其反



對に過小農を除いては、經營の小なるものと雖も、其生産能率は毫も經營の大なるものに譲らないものが甚だ多いのである。殊に自作農に於いて然ることは私の呷々を要せざることであらう。更らに、工業に於ては集中化は經營の大なるほど之を行ひ易いのであつて、此兩者は殆んど正比例を以て増進するのであるが、農業に於いては決して然らず、經營小にして集中化の度を高くすることも出来るし、經營大なるものにして甚だ粗放的に營まれて居るものもあるのである。此一事實だけでも農業經濟に複雑性を帯びしめる。何となれば、此等事情の相互作用は甚區々であつて、之を一貫的に因果的に説明することは殆んど不可能であるからである。商工業に於いては經營の大小は、集中化の多少と相伴ひ、而して又た收穫遞増、生産費遞減の法則の作用を一貫的に規則正しく被むるが故に、其の因果關係は、容易に且つ明かに認識せられ得るのである。那須教授の因果關係論は、全く冠履を顛倒した見方ではあるまいかと疑はざるを得ぬ。かくては複雑なる農村問題を、出来る丈け單純化して考察しようとすることを、全く斷念せしむるの外はないことになるであらう。農村問題は複雑である、乍去現今我邦現在の農村問題論は更らにより、

複雑なものであると云はねばならぬ。

## 十八

ロドベルトスは、一八六七年に『土地所有の現在の信用缺乏の説明と其救済』と題する有名の書に於いて、農耕地を資本として取扱ふことを極力攻撃したことは、人の知る所である。彼曰く今日の法制は、土地の所有を資本として取扱ふて根本的誤謬に陥つて居る。然れども土地は決して資本たる可きものではない。何となれば、資本とは一の産物の謂であつて、其の價值は其の生産に費された生産費に基いて計算せらるゝものである。土地は決して生産物ではない、従つて其價值は、決して生産費によつて計算せらる可きものではない。土地は唯一の収益源泉である、一の貸子基本である。故に土地を目的とする一切の法律行爲は、土地所有より生ずる収益率（貸子率）の賣買、又は抵當のみに關す可きである。然るに今日は左様はされて居ない。今日の法制は、土地所有に人爲的な資本資格を強制し、土地の生ずる純収益を現行利子率を以て還元し、かくして得られたる額を



土地所有の資本価値として取扱つて居るのである。此の資本価値なるものは、毫も事實に存せざる單なる擬制である。若し此れが眞正の価値であるならば、此の価値なるものは常に土地所有の収益に相當し、収益増せば増し、収益減すれば減す可き筈のものである。然るに實際は左様でなく、収益に些の増減なくとも、唯だ利子率の騰落に従つて増減するのである。否とよ、利率が下れば収益減する場合に於ても、却つて土地の資本価値は騰り、其の反對に収益は増しても、利率が上れば、地價は却つて下落するのである。土地所有の資本価値が、斯く變動することは國民全體に取つても、亦た其所有地を維持せんとする地主に取つても、何の利益をも齎らさないものである。是に依つて利益するものは、土地を賣放たんとする地主のみである。此種地主は、之によつて投機的利益を享くると、恰も取引所に於ける利益取得者と同様なのである。又父の遺産相続に際して、土地以外の遺産相続を受くる者も、同様な利益を得る、何となれば彼の相続分は利率下るときは、其価値を増すべきであるから。之に反し、其所有地なり相続地なりを、依然として所有して居やうと思ふ者は、資本負債を増すことを餘儀なくせられることとなる。かくして農業進歩す

る程、土地の資本価値は騰り、従つて地主の負債は増進する一方あるのみとなるのである。即ち知る今日の法制が土地を資本化することが土地負債増加の原因たることをと。

## 十九

ロドベルトスの此の論は、確かに一の誤解であり、速断であることは、今更論するまでもない所である。乍去、農業を一の資本的企業と見る可からずとする其の根本思想は、決して誤れるものではない、否甚だ妥當な見解である。土地を單なる一の資本と見る見方、其様の取扱方は、農業の特質を全然無視するものであつて、資本的企業ならざる農業を強て資本的企業の型に強制するてふ大矛盾に陥るものである（此點に於て私は、恩師ブレンタノ先生のロドベルトス評論に不遜ながら異存を表明せざるを得ないものである。ブ先生農政學一〇五頁以下）。那須教授も頃日『大阪毎日』に連掲せしめられつゝある其の『公正なる小作料』論に於て、『農地價格に對する或利率を、其儘地代として徴收する主義は、小作料其もの及びこれに従て農地價格其ものに變動を來しつゝある、又は來すこと



を必要なりとする場合に於ては、妥當なる小作料を決定すべき基準となり得ない』<sup>十一</sup> 月十一日其(四)に於てと云つて居られる。更らに又た教授は『斯く資本本位の見方も、労働本位の見方も、共に現實の問題として、小作料に關する爭議を解決する力を持たぬものとすれば、吾人は此處に或意味に於いて兩者の妥協たる第三の立場に立つて、此問題の解決を圖らねばならぬ』として、地主、小作人双方の農業經營に關する支出負擔を別々に計算し、これに按分比例して收穫を分配するといふ案の採用を提唱して居られるのである。これを平易なる日本語に翻譯して云へば、地主對小作人の關係は資本主對労働者の關係ではないと云ふ事にあるのであつて、其れは誠に正しい妥當にして穩健なる見方であるといふ外はない。地主も、小作人も共に農業經營に關しては、支出の負擔者であるのである。唯其の異なる所は、小作人の負擔する費用中には、自己并に家族の勞作てふ重要な課目が存すると云ふ一事である。然し其勞作は決して雇傭労働者としての勞務給付ではない。換言すれば商工業労働者の勞務給付とは、其經濟上并に法律上の性質を全く異にするものである。而して小作人は勞作の支出のみならず物的支出をも負擔するものであり、更らに又

た經營の危險をも負擔するものである。

## 二十

小作人は如何なる意味にても、工業労働者に就て立てられた概念に於ての労働者ではないと共に、又た普通受取られる意味に於いての企業者でもないのである。企業者對労働者てふ概念區別は、我邦多數の小作農には全然適用出来ないことであり、又た適用す可きでない。其故は即ち、我邦の農業は、市場支配の下に立つ一の營利經濟によつて營まれるものでないからである。此を企業者對労働者の對立の明白なる工業や商業と比較するときは、其事情は甚だ複雑なることは當然である。其複雑性は、企業者對労働者てふ辨別が立てられない一事に存するので、決して一人にして此の兩個の資格を兼備することから來るのではない。抑も其様な辨別を許す可きほどに、我邦の農業は合則化統一化規則化せられて居ないから、事情は複雑なのである。然るに那須教授は云ふ、『加ふるに農民自身の複雑なる立場は、農村問題の複雑化を更らに助長する。即ち我邦の如き農村に



於ては農民の大多數は企業者であると同時に労働者である。小作細農の如きは、何等企業の利潤を受くることなく（萬一其の生ずる場合には直ちに高められたる地代となりて吸収し去られる）其の得る所は極めて低廉なる労働報酬に過ぎざるが故に、本質的には之を労働者と目す可きであるが、併し法律的に觀察すれば、正さに企業者たるの形式を具へてゐる』と。企業者ならざるものが、企業利潤を受く可き理由は毛頭ない。又企業者といふことは法律上の形式でも何んでもない、經濟的の實質である。我邦の法律には企業者などと云ふ形式とかを、其何れの處にも規定はして居ない。此は如何なる意味にても法律上の問題ではないのである。抑も我邦の農民に就て、企業者對労働者の區別を施さうとする考へ方其ものが、根本的に間違つて居るものである。恰も我邦の政黨に就て、レバプリカンとデモクラットの區別分けをしようとするようなものであつて、其れは初から問題とはならないのである。我邦農民は普通受取られた意味に於ての企業者でもなければ、労働者でもない。従つて此兩資格を兼有することが農村問題の複雑化を助長するなどと云ふこと、元よりあり得可きことではない。農村問題の複雑性其もの、

中に、我邦農民が企業者とも労働者とも區別付け得られないと云ふことが、初から當然に含まれて居るのであつて、後から入り込み來つて、更らに複雑化を助長すると云ふのは、物の見方を誤つて居るものと信ずる。資本主義化せられない處其處には企業者對労働者の對立は存しない。其れが複雑性其もの、本質なのである。教授は社會主義を罵つて、彼等が農業問題を論ずるときは、水を泳ぐ魚に陸を走らせんとする錯誤に陥ると言つて居られるが、教授自らの陥られた錯誤は、更らに水を泳ぐ魚に空中を飛行せしめんとするが如きものではあるまいか。

## 二十一

複雑性の問題は、姑く右に止めて置くこととし、次に教授が農村問題の中心點とせられるものに就て一瞥を加へて見よう。

教授は云ふ、農村問題の内容の多岐に亘ること、又労働問題の如く簡單に行かぬことは、以上論述せる所に依り、略々明であらう。さり乍ら幾多の關聯せる問題中、時により、社會



により自ら中心となるべき若干の主要點を握み得ぬわけではない。かゝる中心點を握へないで居る事は、農村問題に對して、五里霧中の感をなさしむる所以であり、前掲社會政策學會に於ける如き質疑を發生せしむる所以である。然らば我が邦現下の農村問題を研究するに當りて此の中心點は何處に存するかと。此れは如何にも同感であつて社會政策學會に於ける質疑者の一人（最も大なる疑を懷いた一人）たりし私は、若干の主要點を握ましめて下さらうと云ふ教授の厚意に對して滿腔の感謝を捧げざるを得ない。ソコデ私は細密なる注意を以て、以下の文を熟讀した。然るに何事ぞ教授は『之を述ぶるに先つて、農村問題發生の經過に於て一瞥するを要する』と云はれ『農村問題の今昔』と云ふ一節を挿入して居られる。私は此一節を經過論として姑く措き、さて次の三節以下に向つたが、其處には、何が中心點であるかは一向示されて居ないのに失望せざるを得なかつた。教授の擧られて居るものは經營規模の擴大と農村の工業化、農村計劃と植民政策、農村教育の新理想の三項目であるが、其何れが中心點であるかは少しも示されてないのである。教授は『此の解決は之を如何にするか、之は單なる小作問題の解決や、生産經

營技術の改善位で片のつくものではない。經濟、法制、教育、社會生活等百般の方面より、統一的目的を追求して努力することによりて、始めて其の解決を期し得可きものである』と、再び其經過論の末尾に繰返して居られる。然らば其の追求す可き統一的目的とは何であるか、私共は切に之を知らんとするものである。其の統一的目的なるものが明示せられたなら、農村問題は其の混沌裡から救ひ出され得るに相違あるまいと思ふ。然るに教授は二度、三度繰返して之を與ふ可きことを示唆し置かれながら、終に何等之れを示すことなくして終られて居るのである。

## 二十二

經營規模の擴大は誠に結構なことである。私は社會政策學會に於てアーサー・ヤングの大農論を紹介して、我が邦農業の過小經營の弊を痛論し、主として横井博士の農村論に對立せしむることを勉めたのは、今より余程以前のことである。確か其同じ折に於て高岡博士も我が邦過小農の弊を極めて周密該博な統計的材料に基て詳論せられたと記憶して



居る。那須教授の論も其當時よりして引續き同様であることは私共の甚だ意を強くする所である。

農村の工業化に就ては、近頃大河内正敏博士の剴切な意見書の惠送を受け、甚多くの暗示を得た。農村計画と植民政策のことは、私は教授及多くの同論者と其見る所を異にする。農村教育のことは誠に結構千萬なことである。

斯く教授の擧げられた處は、大抵結構づくめの事柄を以て満されて居つて、其れが實行出来るなら此上ないことは疑を容れない。其れと共に其れは何も農村問題の喧しくなつた今に於て然るのでなく、久しい以前から結構千萬な事として普く知られて居り、而して可なり多數の人々によつて耳にタコの入る程論ぜられて居た事柄である。或は云ふ人あらん『眞理は平凡なりと雖も猶ほ眞理なり』と。私はそれに答へて言ひたい『平凡は眞理なりと雖も猶平凡なり』と。

教授は我國農村問題の解決、單なる小作問題の解決や、生産及經營技術の改善位で片のつくものでない、經濟、法制、教育、社會生活の百般の方面より統一的目的を追求して努

力することによりて、始めて其の解決を期し得可きものであると云はれ、而して余は我が國農村問題の解決の爲めに、一農業經營規模の擴張、二農村に工業を興すこと、三國內及海外移植民の三點を實行するを以て最も緊要事と認むるものである、而して之が前提としては各農村に於て、四農村計画を建つことが必要であると云つて居られる。然らば農村計画を立つることが、所謂統一的目的であるとせらるゝのか、又は、五國家が此間に善處して、都會偏重の弊を矯むることを以て、其れなりとせらるゝのか、教授の其後の所論中には教授の眞意を推定す可き便が一も與へられてないのである。

## 二十三

論じて茲に到り、私は端なく、レニンが其の『十九世紀末に於ける露國の農業問題』の終りに絶叫した次の一句を憶出さざるを得ない。曰く『之を要するに、農業問題と農業恐慌の本體は、農業の振興を妨害する一切の事柄を廢止すると云ふことには存しない。此等の妨害を如何にして廢止するかの方法、如何なる階級によつて、又た如何なる方法を用



ゐて此の廢止を實行するかに存する。國の生産力の發達を妨害する事情を廢止すると云ふことは之を辭し得ない。而して其れは主觀的意味のみでなく、客觀的意味に於て然るのである。換言すれば其の廢止は不可避的であつて、如何なる權力と雖も之を抑止することは出来ないのである』と。一九二〇刊 伯林版七五頁

私は教授に問ひ度い。教授の主張せられる一切の結構づくめの事柄は、如何なる階級の手によつて、而して其れは何の手段によつて、而して如何なる道行を経て實行せらるべきであるか、實行せらるべき見込があるのかと。私は之れが農村問題の中核であると信すること、レニンと全く同様である。此れが教へられるにあらざれば、我々の努力を嚮導す可き統一的目的なるものは與へられる見込はないと、私は確信して居るのである。

我邦農業經營の規模過小なることが、農業生産能率の増進を著しく妨害して居ることは萬人須知の一事實である。従つて規模の擴大化が能率、生産力引上げに多大の効ある可きことは、一切の討論を超越して居る。教授も私も此點に於ては全く同一見解を有つ

ものである。従つて其を希ふことに於て、私は決して教授の後に落つるものではない。唯だ問題は、如何にして其れが實行せられ得るか、如何なる方法手段によつて、而して誰が當面の實行者となつて其れを實行し得るか、一事に存する。唯希しいと云つただけでは、何の解決にもならない。如何して實行するかを示して初めて解決が望み得られるのである。然らざる限り、其は單なる願望露骨に云へば一片の机上の空論たるの外はありまい。農村の工業化にしても亦然りである。

## 二十四

那須教授は云ふ、余は農村問題の解決に關する卑見の概要を述べた。然かも此等の方策の實行は、畢竟するに農民自身の覺醒に俟たざるを得ない。人間の改良が凡の改良案の出發點にして又到着點なりと云ふ古くして、而も常に新らしい眞理に吾人は再び逢着する……此所に於てか農民の教化を高め、自覺を促す可き農村教育の問題は我等の最後に一考せざる可からざるものとなる。此れに依て見ると、教授は農民の自覺てふ一



事に一切の解決の鎖鑰を求め、而して其れは農村教育の振興によつて實現せらるゝとせらるゝが如くである。此れは *conclusion in which nothing is concluded* (何事 終結せざる 結論) である。恰かも今日 人間が根本的に改造せらるゝとき初めて社會問題は解決せらるゝと云ふと同じである。人間の教育は農村問題や社會問題を超越した重大事である。一部の問題の手段たる可きものではない。其れは姑く措くとして農村教育を施すこと何十年にして、而して其普及の程度が如何程になると、農村問題が解決せられるのであるか。此は空をつかむような話である。私は繰返して云ひたい『平凡は眞理なりと雖も猶平凡なり』と。

我邦農業經營、規模の小なること、農家副業の發達せざること、殊に牧畜の發達して居るざること、副業的工業の殆んど皆無なること、農村計劃のなかりしこと等は昔から我邦の農業の發達を妨げて居た原因である。農村問題の起つた今日忽如として起つて來た事柄ではない。其等の妨害事情の取り去らるゝことは、農村問題の起る起らざるに頓着なく、必ず希はなければならぬことである。而して農村問題の起つたには、此等の事情

の存することが最大の原因たることも亦一の疑を容れない。然し何故に此等の原因から農村問題が起つたのであるかに就ては、私は教授と全く其見方を異にするものである。何となれば、教授は此等の原因が一向取去られそうもないから農村問題が起つたと見て居られるやうであるが、私を以て見れば、農村問題の起つたのは此等の原因が多少なりとも取去られる見込が付いて來たから、而して其れを取去るに付ては、先づ農村問題を起すことが、其不可避的の道行であるから、農村問題が起つて來たと思ふのであるから。例を以て云へば、不消化物を喫して胃を害した人が終に下痢に悩むことゝなつた。須那教授曰く、下痢を止めることが必要である、其れには胃病を直さねばならぬと。私は曰く、胃病を直すことが肝要である、幸に下痢が起つたために胃病と云ふことが分つた、胃病さへ直せば、下痢は自然に直るであらうと。即ち私は前にも云つた、農村問題の起つたことは寧ろ幸なことであると。農村問題の勃興は、我邦の農業の根本的病弊治療上の一道行である、一手段である。其れが起らなかつたなら我々は今猶依然として根本病弊のあるに十分氣が付かなかつたであらう。



## 二十五

換言すれば、農村問題の起つたこと其事は病ではない、否却つて病の治療を促進する一手段である。而も今日の状態では其最も有力有効な手段である。我々は農村問題の勃興を見て、大いに望を興へられたのである。斯く問題の起るは、即ち根本病弊の除却に、一步は一步と我々をして近付かしめて呉れる所以である。根本的解決の鍵は、實に此農村問題の勃興其事を措いて外にない。教育の振興でもない、都會偏重の弊を矯むることでもない、況んや内外移殖民による農村人口の稀薄化でもない。農村問題の聲が愈々高り小作争議が愈々續發することは、恰かも胃病患者の下痢に於ける如く、苦痛には相違ないが、其れが結局根本の病を取去る可き唯一の道行である。我々が正さに解決せざる可からざること、は農村問題其ものではない。農村問題を産み出した我邦農業の根本的病弊是れである。徒らに下り止め薬を投ずるは眞に病を療す道ではない。唯當面の農村問題の處理に屈託するは、我邦農業と農民とを眞に救ひ出す所以ではないのである。農村

問題を根本的に解決するものは、獨り農村問題其れ自らである。農村問題が鎮壓し去らるゝとき、農村問題は却つて濃化するの外はないのである。我々は農村問題を鎮壓することなく、其れをして其行く所まで行かしめることによつてのみ、農村問題は眞に徹底的に解決し得られるのである。

此意味からしても、私は那須教授其他多くの農政論者の唱へらるゝ移殖民論殊に海外移殖民論に極力反對せざるを得ないものである。海外移殖民によつて農村人口を稀薄ならしめ得可しとするは、人口學上餘りに幼稚なる考へ方であることは、私は日米問題發生の當初から之を主張して居るが、其事は今論ぜずとして、假りに海外移殖民によつて、一時丈は農村人口を稀薄化し得るとしても、其れは決して問題の解決とはならない、唯問題の遷延となるのみである。前例を藉りれば、下痢状態を徒らに延長して、病者の苦しみと其病とを長引かしむるのみである。何となれば、農村人口の稀薄化は、決して教授等の望まれる通りの經營の擴大を直ちに喚起す力は寸毫も有つて居らぬものである。經營の擴張は其様な事では中々實現せられるものではない。況んや農村の工業化をや。



況んや農村計劃の樹立をや。其状は、イクラ移殖民を奨励しても、都會に於ける失業者の跡を絶ち得ないと同様であらう。移殖民は社會問題の解決に殆んど何の資する所なきが如く、否其れよりも更らにより、多く農村問題の解決に裨益する所ないものと私は確信する（此點は他日或は再論するであらう、今は簡単に卑見を陳ぶるに止めて置く）。

## 二十六

西洋殊に獨逸にあつては、農耕地の所有主の負債の過大なることが農業問題の最重要點である。我邦に於ては此點に關して精確なる調査あるを聞かぬが、高岡博士が嘗て社會政策學會に於て報告せられた處によると、我農民の負債額は獨逸に於ける如く過重なものではないようである（河田博士の『農業經濟學』は千頁に近い大著であるにも拘らず、此點に就ては別に詳しい調査の跡を發見することが出來ない。總じて河田博士の農業論は我邦の實狀に關する實證的調査を輕視して居られるようである。此點に於ては高岡博士の『農政研究』は綿密なる實情調査を滿載して居て、我々門外漢を益すること莫

大である）。兎に角我農政の最大問題の一は經營規模の過小、其れより來る生産能率の微小なること是れであらう。少くとも私は茲に最重大の禍根を認む可しと考へつゝあるものである。而して其擴張に付いては、色々な方法があらう、工夫せらる可き施設は千差萬別であらう。而も其の方法も其の施設も一つの大きな動機があつて、之を鞭撻するにあらざれば、十分に其功を奏せざる可きを思ふものである。而して其の大きな動機なるものこそ、總て一切の妨害を取去り、一切の希はしい改善を可能ならしめるものでなければならぬと私は思ふものである。

其大きな動機は、今や農村問題の勃興と云ふ形態に於いて段々と動き出して居るものと私は見る。是れ私が農村問題の勃興寧ろ喜ぶ可しと言ふ所以である。而して又私が農村問題の發祥地は之を農村に求む可からず、其以外の廣い天地に之を求めなければならぬと言ふ所以である。然らば其大きな動機とは何であるか。答へて曰く、資本主義營利經濟の擴張普及それである。



## 二十七

我邦農業經營の規模小であり、従つて其生産能率甚だ低く、農家に副業盛ならず、工業化などは逆も問題たらざりし昔に在つて、農村問題の起らなかつたのは、我農民の欲望小に、生きずさりとて死なぬ程度の生活に壓抑せられても、大した不平を起すことなく殆んど醉生夢死して居たからである。而して此を刺激す可き都會の資本主義は未だ起らなかつたからである。故に其小規模農業は甚利益薄いものであり、國として甚希はしからざるものであつたに相違ないにも拘らず、數百年間殆んど其状態を改めるとなくして、終に今日まで存続し來つたのである。此状態からの脱出は、他の何の工夫施設によつても、決して十分に行はれ得るものでない。唯一つ資本主義營利主義の農村への侵染によつてのみ其れは行はれ得るのである。即ち農業が一の資本的企業となり、農耕地が一の資本となることによつてのみ、有力有効なる脱出の刺激が與へられ、農業經營規模の擴大が實現せられ得るのであつて、農村人口の稀薄化などによつては到底十分に行はれ得る見込

はないのである。

我邦の資本主義は未だ新しいものである。然し其れは近年長足の進歩をなし、近來に至つて資本主義的心理は段々農村にも入り込むやうになつた。換言すれば河田博士の言はれると反對に、我農民心理は段々一般の資本的社會と反りが合ふやうになつて來た。茲に於て農民は簿記的に少なくとも多少計算的に其經濟を顧みるようにならざるを得なくなつた。多少なりとも計算的に其經濟状態を考慮する時、彼等は争で從來の地主對小作人の状態に、從來の農村生活に満足する事が出來よう。小作爭議、農村問題の勃發は其當然の產物である。殊に神戸博士の説法あるにも拘らず、自足自給の經濟状態から脱出す可く始めた農民は、其生活上に非常な不安と不平とを感ずるに至るは當然である。然るを無理に自足自給の死なず生きざる昔に返れと説法するのは、産れ出でつゝある嬰兒に母胎へ返れと命ずるやうな無理である。

資本主義化するといふことは、我國農民にとつて今や唯一の解脱の道であるのである。外に脱け道は一本もないのである。事の善惡是非の問題ではない、事物自然の進行即ち



斯くの如くなのである。我々は此大勢力を在るが儘に受取つて唯其間に起る可き無用の苦しみ、無用の弊害を可能的に防止するの外はない。此大勢に逆行すると云ふことは全然問題とならないのである。

而して混沌たる農村問題の單純化の道は、この大事實を事實有るが儘に認めることの外はないのである。

此事實を無視し閑却して、複雑なる農村問題に當面するときは、複雑なる問題を更らに其の誤れる取り扱ひ方によりてより、複雑たらしめることとなる外はない。那須河田兩博士の農村問題論の複雑性は斯くして説明し得られると信ずる。

## 二十八

私は此の論文に於ては、今日の農村問題論の如何に混沌たるものなるかを指摘して其單純化の唯一の possible 道と信ずることを示せば以て足れりとするものであるから、茲で筆を擱いて然るべきことと思ふが、事の序であるから、最終に一言自分の未熟極る考へを

開陳する許を乞いたいと思ふ。

農村論の單純化は、資本主義のアドヴェントの儼然なる事實を確認する外に道なきが如く、農村問題そのもの、單純化も資本主義に『オリエンテーション』することによつてのみ望み得ると私は信ずるものである。換言すれば農村と農民とが益々、より多く市場化し市場の支配を受くることになれば、市場は其劃一性、其合則性を以て農村と農民とに臨み、必らず其經濟生活の態様を合理化し、統一化するに相違ない。かくして那須教授が其の『公正なる小作料』論に於て試みられた様な、計算的にして合理的なる複式簿記本位の經濟法が實現し得られるであらうし、企業者にも労働者にもあらざる農民は明かに企業者か労働者かに分別せられ、其處に階級の對立が生じ、階級闘争が出現することになるであらう。而してそれ、經濟規模の擴大化、農村工業の樹立、農村計劃の確立をも伴ふであらう。乍去人或は其れは問題の轉置に過ぎぬといふであらう。然り正さに其通りである。今日の農村問題は消滅するであらうと共に、新しい農村問題が必ず起る。即ち農村に於ける階級闘争の社會問題が其れである。



茲に一つ考へ得ることは、農耕地の國有實行（米穀の國家專賣と混同す可からず）是れである。農耕地を凡て國有とし今日の地主階級なるものを全廢すれば、農村が資本主義に『オリエンチーレン』しても、階級闘争は起らなくて済むであらうと云ふ論者がある。たしか河田博士は久しい以前からの土地國有論者であるようである。殊に此頃重刷された博士の舊著『土地經濟論』は甚有力なる土地國有論を主張したものだと思憶して居る。私は此論に對して簡單に答へて置きたい。土地の國有は決して資本主義の農村への侵染を妨ぐる効はない。唯其の形態を渝へるのみで依然として資本主義は強く（恐らくより多く）其魔術を逞くする。階級闘争は其形態を變ずるに相違ない、決して消滅することは望まれない。レニン云ふ『土地に對する私有權の全廢は市場的並に資本的にオリエンチーレンされた農業の根柢たるブルジョア主義的基調を一も變ずるものではない。土地の國有が社會主義又は土地均分制と同じものなりと思惟する位間違つた考へ方はない』と。

誠にレニンの言ふ様に、農産物の換價が市場を前提とする以上、農民は今日の價格經濟

流通經濟の支配を脱することは出来るものでない（私はマルクス從てレニンと反對に紋取り取りは主として流通生活に於て行はると信ずるものであるから、猶更以て紋取り經濟の支配を見る、地主の紋取り取りは已むとしても、都會商人の農民紋取り取りが之れに代つて起ると見るものである）。農業と農民の資本主義經濟への入り込みとは、其生産する農産物が市場に於いて換價せられると云ふことを前提することは言ふまでもない。而して又た同時に國有の土地に對する支拂は、今日の價格經濟の原則に準據することを辭し能はないものである（從つて茲にも紋取り取りは行はれる）。否、其れあるからこそ農民の經濟は今日と異つた合理化（ゾムバルトの所謂合理的にして計算的）規則化を見得るのである。レニン故に云ふ『商品市場なるもの存在する限り、社會主義を云々するは笑ふ可きことである』と。紋取り取りを生産上のみ認めるレニンすら斯く言ふ。況んや其主たる舞台を流通上に認める私から見れば猶更のことである。農産物を貨幣に換價する市場、其貨幣を以て農具肥料を買ふ市場の作用は、土地所有の形態が私有であらうと國有であらうと毫も異なる所なしと彼が言つたのは、彼が意味したよりも遙かにより強く



向後の我邦農村に就て言はれなければならないと思ふ。併し私は今土地國有論を評論して居るのではない。唯だ現今の農村問題論の混沌たる有様を開陳して、之れに對して限りなき頭惱の紛亂に悩みつゝあるものなることを明かにすれば事足りるのである。

(十三、十一、七)

此文病中の執筆にかゝり、論旨の蕪雜なるは勿論、長敬せる諸先輩に對し禮を失すること甚し。切に寛恕を祈る。

||大正十三年十一月十二月『改造』掲載||

經濟學全集 第六集 經濟政策及時事問題終



—の総人口に対する無業者の  
 百分比 2043. —の人口増加の  
 百分比表 2030. —の官私設工  
 場数 1950. —の家屋損害高  
 1761. —の経済網 1931. —の  
 結婚組数統計表 2038. —の罹  
 災工場及職工数 1950. —の罹  
 災者数 2062. —の震災調 1800.  
 —の失業者 1981, 2021. —  
 の失業者總数 2009. —の失業  
 者推定数表 1966. —民の有業  
 無業の二大別 2062. —世帯構  
 成の平均人員 2033. —世帯平  
 均人口比較表 2032, 2035. —  
 の總世帯数 2030. —の世帯数  
 増減百分比表 2030. —の焼失  
 總坪数 1774. —有業者と無業  
 者の百分比 2045.  
 東京市直營バラック —事務所  
 原簿と符合せざる世帯数表 2085.  
 —の世帯数表 2086.  
 東京市役所 2001. —の避難者調  
 査 2076.  
 富 510. —の分配上の大變調  
 26, 728. —を造る事 1578. 日  
 本の—1580.  
 共喰機會 1932.  
 取引所 2211. —の投機 427.  
 土耳其と希臘 1672.  
 都市經濟 2227. —發達の順序  
 2227.  
 徒弟の年期 2254-5.  
 等族 1167.  
 通貨 —調節 815, 868. —問  
 題 1611. —收縮 800, 879, 880.  
 —證券の増發と物價騰貴圖表  
 640. —總額の戦前との割合表  
 1644. —と物價との關係圖表

855.  
 通貨の膨脹 609, 613, 800, 850,  
 854, 855, 945, 1319. —の防止  
 策 812. —の原因 863.  
 月島の失業分類の百分比率 2020.  
 通商貿易 1697.

U

ウルテンベルヒ (Urttemberg) 王  
 國 2136. —の全所得額の内課  
 表 2131.  
 海の自由 325, 923.  
 ユニヴァーサル・エンパイア (Uni-  
 versal Empire) 1169.  
 運送業發達の原因 2228.  
 ユーテリタリアニズム (Utilitaria-  
 nism) 110.  
 ユーテリター (Utility) 127, 128.

V

ヴェネチア (Venezia) 2229.  
 ヴェルサイユ —會議 1597. —  
 の平和條約 1667. —の平和  
 會議 1468.

W

ヴァンダーヤーレ (Wanderjahre)  
 2255.  
 倭寇 1201.  
 ウォンタブ (Wantab) 1226.  
 ウォンタビリティ (Wantability)  
 1226.  
 割引屋 562.  
 早稻田大學の紛擾 770.  
 ワシントン —會議 1401. —  
 の労働大學 1393.  
 ヴェルト・ライヒ (Weltreich)  
 1169.

ヴェルト・キルヘ (Weltkirche)  
 1171.  
 ウェストファリア (Westphalia)  
 1473.

Y

焼跡バラック —問題 1894, 1897.  
 —再建問題 1940, 1955.  
 焼け太り 1814.  
 約束 139, 140. —手形 561.  
 欲望 1059, 1136, 1228, 1230, 1235.  
 —の分類 1340. —の調節  
 1228. —の過重 1228.  
 歐羅巴 —の文明の根源 2222.  
 —の改造事業の遅々たる原因  
 1834. —の憲法 778, 1001.  
 —の經濟 83. —の經濟恢  
 復策 1697. —の經濟難の主  
 要原因 1677. —の經濟社會行  
 詰りの原因 1659. —の國家破  
 産 1472. —の國家の特色  
 1168. —の國家の考へと日本の  
 それ 1166. —の労働者と日本  
 の労働者 2167. —の政權の消  
 長の大淵源 2225. —の戦後經  
 濟と日本の復興經濟 1798. —  
 の社會主義 822. —の紙幣制度  
 の始末 1511. —の失業率表  
 2056.

友愛會 1341.  
 有限 —の三種 1247. 技術的—  
 1247. 社會的—1247. 自然的  
 —1247.  
 有業率 2099.  
 有業者 2050. —の男女比較 2051.  
 完全—2010, 2087. 新—2109.  
 有形資本財減少の救済策 1733.  
 輸入超過 1504, 1616. —國 492.

—の二種 502.  
 輸入品の費用 1715.  
 輸出 94, 195, 490. —超過 490.  
 —超過國 492. —入と在外正  
 貨 500. —資本主義 338. —  
 獎勵 94.

Z

在外債權 504.  
 在外正貨 489, 801, 876. —の膨  
 脹 869. —と輸出入 500.  
 在內正貨の膨脹 869.  
 財力侵略主義 1564.  
 財産權 739.  
 造幣大權 847.

17. XI. 26.

大野 隆 稿



第一原因 1733. ---率 2099. ---率表 2056. ---労働者数 1951. ---對案策 2111. ---對案の標的 2113.  
 失業調査 ---の自計式と他計式 2076. ---統計 2088-9, 2090-1, 2094, 2099, 2103, 21110-1.  
 失業問題 1944, 1981, 2056, 2067. ---の解決 1988, 2020.  
 失業者 1945, 2010, 2014, 2068. ---救済案 1962, 1976. ---の種類 1945. ---の定義 2058. ---職業別 2090. ---職業分類率 2090, 2100. ---職業中分類表 2016. ---總數 1952, 1971, 2012. ---推定數表 1966. ---對案 2112. 純---2088. 準---2012. 廣義の---2012. 狹義の---2011. 東京の---1981.  
 失機會者 ---の第一種 1954. ---の第二種 1953.  
 失職者 2068.  
 思想の統一 961.  
 私有財産の獲得増進 1239.  
 自然法 127, 130, 133, 135. 純正---133. 特有---133.  
 商大生の職業調査 2074. ---日割表 2072.  
 衝動 1059, 1136, 1226, 1232, 1236. ---の分類 1060, 1061, 1240. ---の解放 1231. ---の二大根本區別 1241. ---の種類 1239.  
 物を作らんとする---1061. 所有の---1136, 1246. 創造の---1136.  
 商業 427, 2212, 2251, 2257. ---道德の低い原因 535. ---界の社會問題 2212. ---學校 2249.

---經營形態の問題 2211. ---の發達 290, 2252. ---政策 2210. ---教育 2213, 2248, 2249. ---教育の問題 2212, 2213. ---有業者の最高率 2053.  
 消費節約 1679. ---の宣傳 1677, 1682, 1684.  
 商品の輸出と資本の輸出 345.  
 商法 1594. ---三百九十五. 三百九十六條 1899. ---四百十九條 1699, 1912. ---四百十九條の條文 1916.  
 正直は最上の商略 23.  
 商權 ---の發達と政治上の發達 2237. ---の消長 2220.  
 証券動員 611, 662.  
 商工業 2178. ---の初 2251. ---と都會 2251.  
 小國根性と小都會根性 167.  
 職業 2041, 2049. ---調査記入凡例 2080. ---調査行程 2082. ---調査要綱 2079. ---失業率 2090.  
 植民地 1156. ---政策 1156. ---政策の根源 2229.  
 職人の弟子 2245.  
 商人 2261.  
 將來資源 1716. ---の充當 1731, 1735. ---充當の方法 1717. ---の戦費負擔充當の重要項目 1718. ---の對外的方法 1731. ---の對内的方法 1731. ---と現在資源 1719. 對外的---充當 1734. 對内的---充當 1734, 1743.  
 世帯 ---票の様式 2073. ---單位擴大と住宅難 2037.  
 所得曲線 1849. 理想的---と現實の---の相違 1849.  
 所得産出の根本淵源 1746.

所有 ---權の尊重 1997. ---の衝動 1136, 1246.  
 主權 134, 141, 222. ---の發生と社會契約との關係 142. ---の鞏固 144. ---者 142.  
 修身訓 1067.  
 シュレジエン (Schlesien) 州の地價の割合表 2144.  
 ソーシャル・デモクラシー (Social Democracy) 257, 307, 459, 460, 464, 890, 891, 980, 1005, 1007, 1043, 1044, 1048, 1050, 1056, 1119, 1124, 1428.  
 速成地獄 1829.  
 ソリダリテ-・ソーシャル (Solidarité sociale) 903.  
 倉庫滿て榮辱を知る 1066.  
 租税の増徴 1721.  
 ゴチアル・ポリチック (Sozialpolitik) 825, 893.  
 創造 ---の苦 1077. ---の衝動 1136. ---主義 1256, 1258. ---的の生活 1073.  
 スパルタクス・グルツペ (Spartacus-Gruppe) 989.  
 スタンド (Stand) 1167.  
 素町人主義 27.  
 瑞典 1354.  
 瑞西 2057. ---の爲替相場表 1501. ---の新民法 829, 1138. ---對諸外國爲替相場表 1499.  
 西班牙 21, 1168, 1649, 2232.  
 シンデカリズム (Syndicalism) 2163.

T

旅稼ぎ 2255.  
 多町の青物市場 1872.

對外商業政策 2210, 2213, 2214.  
 太平洋問題 1565.  
 對支新借款團 1389, 1390.  
 台灣銀行 1642, 1652.  
 拓殖事業 1159.  
 帝國主義 271, 557. ---の全滅 1407.  
 テル・ミウレン (Ter Meulen) 案 1595, 1597, 1599.  
 轉業者 2010, 2013, 2088, 2110.  
 鐵 ---の時代の 1286, 1288. ---の消費高 2166.  
 テュートン (Tenton) 人 2224.  
 土地 2140, 2337. ---負債増加の一原因 2339. ---家屋貸借權問題 1887, 1889. ---國有 2360. ---收獲遞減法則 2138.  
 統治權 1203.  
 東印度 ---會社 118. ---航路發見 2231.  
 等價形式 2327.  
 統計學 2024, 2025, 2026. ---の部門 2025. ---の部門分け 2024. ---の本體 2024. ---と社會學 2024. デモグラフィ-としての---2027.  
 徳川時代 320, 1198, 1558, 2207. ---の農民政策 1559.  
 東京市 1825, 1875, 1924, 2061. ---外八市物價指數と日本銀行兌換券發行高圖表 855. ---の物價指數と兌換券發行高對照圖 855. 各區の有業者無業者の百分比 :044. ---の復興 1874, 1926. ---復興の新經濟網 1933. ---の本業者大分類表 2050. ---の總人口 2030, 2060. ---の總人口に對する有業者の百分比 2013.



戦後 —の文明 227. —の第一問題 1290. —の獨逸 316. —のダムピング 692. —の經濟改良と復興經濟 1806. —の經濟の特色を作る重要點 720. —の經濟策 2273. —の經濟的恢復障礙の第一原因 1590. —の經濟の重要問題 1281. —の社會的不安 162.

戦後の世界經濟 705, 732. —界 694. —界に恐る可き事 679. —界の重大問題 695, 700, 726.

戦時貸付金庫 —證券 632. —條例 632.

戦時經濟 11, 61, 69, 665, 666, 672. —の一福音 665. —の特色 668.

戦時關係經濟財政書類展覽會 72 選舉權 1138.

戦争 289, 439, 1221, 1222, 1243, 1723. —防止の手段 290. —の直接原因 290. —の原因 73, 1205, 1233, 2217. —の二原因 290, 1205, 1282. —の入費 607. —の三大動力 1213. —の心理的原因 1205. —の爲めの富の減少 678. —と自然法 127.

競り市 2211.

シアードン・フロイデ (Schadenfreude) 172.

社會 828, 2042. —學 2025. —學と統計學 2024. —上進歩妨害の大原因 1334. —改造 732. 改造論 1405. —契約 141. —と主權の發生との關係 142. —民勢學 2025. —の一大病弊 1684. —の根本組織 1623. —を作る最大動機 129. —存在の

根本義 129. —組織 897. —的有限 1247. —統計 2024. —運動 1412.

社會民主主義 269, 273, 300, 317, 459, 468, 913, 929, 934, 960, 980, 1005, 1013, 1044, 1053, 1055, 1058, 1124, 1125, 1132, 1413, 1418, 1430. —反對の所以 1057. —に相異なる二方面 1413. —の危險の意 291. —の二特色 1412. —の勢力防止法 930. —の運動 955. —者 1052. —と獨逸の經濟學 956. —と日本 957. —と資本的侵略主義 470. —と資本的侵略主義の角逐 280. —運動 1055. —運動の起因 1053.

社會問題 1241. —の原因 1285. —發生の根本理由 1242. —の解決 59. 近世の—1236.

社會政策 739, 825, 892, 901, 906, 916, 917, 1208, 1251, 1427, 1429, 1440, 1442, 1534, 1993. —學 2027. —の標的 938, 1241, 1254. —の實行 902. —の重大問題 1728. —の樹立 1888. —の根基 1448. —の根本主張 826. —の定義 901. —と云ふ名 893, 900. —と社會主義 835, 907.

社會政策學會 1350. —の成立 894, 900. —大會 2313.

社會主義 274, 323, 827, 829, 836, 906, 978, 1251, 1409, 1410, 1411, 1413, 1424. —の跋扈を防止策 274. —者の目的 1054. —と日本 467, 822. —と社會政策 835, 907. 米國の—1537. 現實な

る—の是否 1416. 議院—836. 自治體—の實行 823. 革命的—1425. 進化的—1425.

社會黨 —鎮壓法 935. —の二綱領 991.

借款 347.

借金國 493.

借地借家臨時處理法 1921.

借家 —契約 1891. —權 1894.

芝浦の救護品配給 1948.

西比利亞出兵 1527, 2288.

シチリア(Sicilia)島 2227.

土田の賣價 2145.

紙幣 —流通高及金銀在高表 1644. —と金貨 644.

私法 739.

資本 509, 2140, 2337. —間の爭鬪戰 690. —徵收 1518. —徵收稅 1294. —家 1535. —家と労働者 533. —の生命 344. —の使用方 511. —の特色 534. —の増減 677. —の増殖 524. —侵略國と社會民主思想 952. —侵略の時代 660. —となる—の特色 510.

資本制經濟組織 1747. —の公式 1229.

資本主義 348, 1576, 2324. —經濟 1841. —の缺點 1076. —の特徵 2325. —社會 2323. —的生産の特徵 2334. 國際—1686.

資本的侵略主義 271, 272, 288, 321, 349, 472, 922, 931, 933, 939, 954, 1419, 1426, 1564, 1636, 1688. —を取る國 951. —の代價 353. —の害毒 268. —の反對毒 275. —の實行 350. —と

社會民主主義 269, 274, 470. —と社會民主主義の角逐 280.

資本的帝國主義 337, 995. —の根據 343. —と輸出資本國 340. 資本輸出 345, 349, 552. —國 347. —國と資本的帝國主義 340. —の時代 692.

市場 1753, 2324, 2328. —の魔術 2330.

私權 739.

四國借款團 1298, 1309. 新—1298.

支那 76, 381, 1673, 1674, 1689, 1695. —に對する新借款團 1310. —の排日 1392. —の排日思想 2281. —の排日運動 1386. —の排宗教運動 1694. —の國際資本主義打破運動 1690. —の南北和平會議 1280. —の參戰 1275. —の使命 1706.

神道 1196.

新求職者 2110.

新舊代替轉位の厚生作用 1853.

臣民 141.

眞理 755.

震災 —後の失業狀態 2060. —救護事務局統計表 1963. —損害見積總額表 1760.

新社會 734.

紳士の常識 742.

信用 488.

新有業者 2409.

市勢調査 2043, 2044, 2051, 2054.

失營生機會者數 1951.

失業 —激增の第一原因 1732. —工業者労働者數 1969. —工業労働者種類表 1972. —の



Imperium) 1167.  
 黎明會 —の綱領 1118, 1163.  
 —の趣意 1109.  
 黎明運動 919, 964. —の一個條  
 947. —の當面の敵 965.  
 聯合國 —經濟會議 297. —の  
 大勝利 459. —の債權債務關  
 係表 1488. —の損害 1481.  
 レパブリカ(Republica) 971, 7.  
 利潤 531. —と利子 531.  
 立憲政體 778.  
 理性 1459.  
 利子 531. —と利潤 531.  
 勞働 1076, 1078, 1236, 1259. —  
 が苦痛なる理 1079, 1373. —階  
 級と既存政黨 748. —契約 1887.  
 —雇傭契約 1992. —機會の  
 均等 1883. —の人間性 1383.  
 —聯結の自由 2157. —能率  
 の増進 1680. —黨 747. —黨  
 の成立 750. —運動 897, 1340,  
 1412, 1843.  
 勞働保護 1359. —法規 1349.  
 —法律 2157.  
 勞働權 778. —の平等 1883.  
 勞働問題 1060, 1075, 1081, 1258,  
 1283, 1305, 1338, 1370, 1400,  
 2322. —發生の根本理由 1244.  
 —の原因 1285. —の解決  
 1081.  
 勞働者 532, 1888. —と資本家  
 533. 英國の—1535, 1537. 日本  
 の—1336.  
 勞銀 531. —の鐵則 896, 897.  
 羅馬 —法 2223. —法王 1178,  
 1186, 1189, 2238. —教會 2238.  
 —教會の勢力を有する原因  
 2239. —の文明 2222. —の

文明の重なる遺物 2222.  
 勞農露國 2279, 2283. —救濟  
 1696. —救濟策 1697. —の  
 公債踏倒 1729. —の承認 2277,  
 2283, 2297.  
 露西亞 183, 429, 465, 1295, 1523,  
 2159. —革命 196. —の地價  
 の平均額 2147. —の過激派  
 1125. —の過激主義 1126. 革  
 命前の—44.  
 ルネサンス(Renaissance) 2226.  
 領土 —の誇り 1216. —懲  
 1213.  
 領域經濟 2227.  
 流通 —生活 1230. —資本  
 512. —資本と固定資本 514.  
 —市場 1752, 2327. —證券  
 643.

S

差別的 —費用の法則 2327. —  
 利用の法則 2327.  
 災害 1802. —の經濟學 1803.  
 裁縫 2111.  
 再生産 —物 1763. —費の法  
 則 1767.  
 三國干涉 449.  
 參着爲替 569.  
 産業 —革命 1249. —の共同  
 管理 1086, 1263. —晴雨計 1676.  
 —的デモクラシー 1263.  
 三十年戰爭 1585.  
 三韓征伐 1200.  
 參考書目販賣業 170  
 山東土匪事件 2287.  
 ザクゼン國 2135. —の所得額  
 2130. —都市の所得額 2131.  
 政府 2234. —の救護事業 1787.

政治 993. —上のデモクラシー  
 1131. —上の發達と商權の發達  
 2237. —上の權力の消長 2220.  
 —上の權力伸縮の原因 2220.  
 —家 993, 1106. —的デモ  
 クラシー 1428. —哲學 1227.  
 —唯一の目標 1244. 本當の  
 —1084.  
 清華學校 1705.  
 正貨準備 802.  
 生活難 2038.  
 清教の精神 1692.  
 政策 901.  
 生産 1747. —組合 896. —の  
 要素 530. —力解放説 1254.  
 —政策 2210. —資本の轉用  
 1743. —主義 1249.  
 政體 143.  
 政黨 746. —の罪過 207. —政  
 治 746. —と勞働階級 748.  
 西洋人 1811.  
 政友會 809.  
 生存 —本據 1906. —本據權  
 1905. —肯定の薄弱化 1833.  
 —民勢學 2025.  
 生存權 1938. —の保障 1082,  
 1883. —の一變態 1936. —の  
 主張 1937. —の社會政策 1254.  
 —の社會政策の特徴 1255. —  
 擁護 1937. —擁護令 1902,  
 1904, 1952. 自發的—擁護の實  
 行者 1908.  
 世界 —文明の危機 461. —改  
 造 1145. —改造の大問題 2290.  
 —の人心沈滞の原因 1746.  
 世界大戦争 77, 85, 103, 149, 189,  
 219, 283, 329, 386, 459, 478,  
 674, 701, 759, 884, 920, 927,

987, 1092, 1095, 1114, 1118, 1135,  
 1206, 1210, 1222, 1266, 1278,  
 1290, 1583, 1585, 1618. —の物  
 質的破壊 1661. —の直接原因  
 922. —の原因 82, 660, 661,  
 689, 1176. —の犠牲 286. —  
 の目的 425.  
 世界經濟 —變調の結果 1650.  
 —恢復 1695. —恢復の一障  
 碍 1685. —難 1660.  
 世界經濟戰 301. —の起る主な  
 る根據 302. —論の重なる論據  
 298.  
 世界經濟の行詰り 1114. —の原  
 因 1685. —救濟 1706. —救  
 濟の第一 1420. —救濟策 2295.  
 —の大原因 1419. —の三大  
 原因 1667.  
 世界教會 1171, 1202, 1203. —  
 の思想 1193.  
 世界帝國 1169, 1203. —の思想  
 1193.  
 セルフヘルプ(Selfhelp) 173.  
 セルヴェキア 1479.  
 船舶の保險料 482.  
 戦費 626, 703, 706, 708, 1713,  
 1802. —徴收の三方法 680. —  
 の調達 696. —の六種類 1714.  
 —失費總額 399. 廣い意味の  
 —703. 實際の—706, 711,  
 1715. 狭い意味の—704. 交戦諸  
 國—覽表 601.  
 戦費負擔 1712, 1724. —の課し  
 方 607. —の三の分け方 608.  
 戦費支辨 1725. —法 623, 683,  
 1736. —の第一方法 610. —  
 の第三方法 639. —の三重要方  
 法 1721.



問題行詰りの原因 1543. ---英  
物價騰貴比較圖 855.  
日英同盟 31, 37, 366, 434. ---  
の廢棄 1590.  
二大政黨 ---の將來 750. ---  
の對立 748. ---主義 756. ---  
主義に反對の理由 753. ---主  
義の弊 758.  
日本 205, 320, 321, 371, 443,  
465, 466, 494, 756, 931, 933,  
943, 1000, 1037, 1062, 1216,  
1220, 1295, 1287, 1335, 1475,  
1529, 1565, 1586, 1622, 1635,  
1645, 1650, 1673, 2221, 2274,  
2296. ---兵 385. ---移民1540.  
---移民の排斥さるゝ原因 1363  
---の米價の亂高下の原因 785.  
---の地位 75. ---の大學教授  
436. ---の丁稚 221<sup>9</sup>. ---の婦  
人 539. ---の復興經濟と歐洲の  
戦後經濟 1798. ---の外交 1393.  
---の軍隊 86, 384. ---の誇り  
1112, 1307, 1570, 1674. ---の貨  
幣法 598. ---の貨幣制度 1655.  
---の官吏の共通心理 1826. ---  
の憲法 779, 1001. ---の國家觀  
念 1202. ---の國家の考へと歐  
洲のそれ 1166. ---の國富統計  
1581, 1759. ---の國本 937. ---  
の國本闡明 1163. ---の國民所  
得の發展表 1792. ---の國民所  
得の總額 1793. ---の國難 1569.  
---の國體とデモクラシー 760.  
---の雇傭關係 1887. ---の國  
是 77. ---の舊露國への債權  
2292. ---の民法 1137, 1888.  
---の農民 2304, 2306-7, 2311,  
2342. ---の歐洲出兵論 382.  
---の労働者 1336. ---の労働  
賃銀 2269. ---の労働者排斥原  
因 1209. ---の労働者と歐洲の勞  
働者 2167. ---の最大幸福 730.  
---の最大使命 474. ---の参戰  
の理由 403. ---の戦後世界經  
濟に處する最大任務 733. ---の  
使命 221, 458, 1018, 1134, 1570.  
1706, 1710. ---の失業者總數  
2058. ---の伸縮發行制度 803.  
---の商業 1329, 2245. ---の商  
業の改良 2267. ---の商人1594.  
---の出兵 193. ---對獨戰の  
目的 360. ---の對外債權の狀態  
1702. ---の富 1580, 1791. ---  
の在外正貨 504. ---と米國 375,  
451. ---と佛國 1308. ---と社  
會民主主義 957. ---と社會主義  
467, 822. ---全國の世帯數 1984.  
日本の物價 1632. ---指數表 16  
31, 1655. ---騰貴 641, 1657.  
---騰貴の根本原因 687.  
日本の兌換 ---券發行高 802.  
---制度 869, 873, 1638, 1648.  
---制度の根本的變革 1651.  
日本橋魚市場 1872. ---の移轉.  
1863.  
日本銀行 1649, 1654. ---調査物  
價指數圖表 641. ---の物價調査  
795. ---の兌換銀行券 505. ---  
兌換券發行高と東京市外八市の  
物價指數圖表 855. ---兌換券流  
通高圖表 641. ---の脱稅 876.  
---の東京市物價調査 84).  
日本人 698, 1588, 1879. ---と危  
險思想 982. ---の特性 436.  
日本労働總同盟 ---調査失業者  
數 1950.

日韓合邦 1155.  
尼港事件 2290. ---の原因 2288.  
---の責任 2287.  
人間 137. ---活動の二大源泉  
1228. ---の復興 1944. ---の  
教育 2350. ---の労働 84. ---の  
生活 1576. ---の生活社會1059.  
---の生存 1003. ---生存の最  
大目的 144. 超凡的---2190.  
西印度會社設立 119.  
農業 2126, 2139, 2177, 2189, 2356.  
---發達障礙の原因 2350. ---  
經營學 2315. ---と恐慌の本體  
2347. ---と工業 2140, 2335.  
---と商工業 2317.  
農民 2301. ---の經濟 2331. ---  
離村の最大原因 2304. ---離村  
の責任者 2307. ---心理 2304.  
---心理の特徴 2303. ---と工  
場労働者 2329.  
農商務省 774, 1825, 2111.  
農村 ---疲弊の原因 2312. ---  
計劃 2347. ---荒廢の最大原因  
2304. ---荒廢の責任者 2307.  
---の階級闘争の社會問題 359.  
---の經濟 331. ---の工業化  
2362. ---心理の一大特徴 2302.  
---と農民の市場化 2359.  
農村問題 2299, 2321, 2322, 2326,  
2331, 2351. ---の勃興 2355.  
---の中核 2348. ---の復雜性  
2320, 2326, 2331. ---復雜性理  
由觀 2321. ---の發生原因 308,  
2309. ---の解決 2299, 2346,  
2333. ---の解決策 2347. ---の  
混沌たる原因 2313. ---の内容復  
雜性となれる六原因 2314. ---の  
心理的原因 2302. ---の救出し

2299.

O

大藏省の震災損害見積額 1800. ---  
表 1760.  
和蘭 5, 34, 117, 1159, 1595, 1649,  
2232, 2235. ---人 1595. ---の  
政權 2237. ---の東印度貿易會  
社 118, 341.  
オプション(Option) 481.  
オリガーキー(Oligarchy) 969.  
濠太刺利亞 2161. ---の労働賃  
銀 1535.  
墾地利 1600, 1649. ---の身代投  
出し 1521.

P

巴里經濟會議 358, 462.  
プツヒフヒヒカイト (Pfiffligkeit)  
178.  
フキジオクラット(Physiocrat) の  
學說 158.  
ポリチカル・デモクラシー (Politi-  
cal Democracy) 890.  
ポリチコン(Politicon) 971.  
ポリテール(politie) 969.  
波蘭 1672.  
葡萄牙 556, 2232.  
プラグマチズム(Pragmatism) 59.  
---の根柢 110.  
プロイセン(Preussen) 1473.  
プロレタリアン・デモクラシー  
(Proletarian Democracy) 1051.  
ブルートクラシー(Plutocracy) 997.

R

ライ麥 2149.  
ライヒス・イムペリウム (Reichs-



破産當面の第一問題 1516. —  
 觀念 1197, 1202. — 二分法  
 973. —の起源 131. —の成立  
 1164. —の政權 2237. —の  
 主權 135. —の種類 972. 超  
 —79. 民族—1168, 1203.  
 國土の増大 1216.  
 國富統計 1581, 1773. 國勢院の  
 —1820.  
 國權の増大 1216.  
 國民 —生活の充實 940. —  
 節儉野戰 1619. —消費節約宣  
 傳 1627.  
 國民經濟 660, 2227. —の破産  
 1522. —の破産當面の第一問題  
 1516. —の三種 666. —の成  
 立 1198.  
 國民所得 531. —分配行程の破  
 壞 679. —の増加と貧民所得  
 の増加 1849.  
 國立工場 1979.  
 國際貿易 497, 1598, 2168. —の  
 原理 489.  
 國際經濟會議 1475, 1595, 1650.  
 國際日本協會 1035.  
 國際聯盟 287, 290, 331, 994, 1021,  
 1023, 1025, 1170, 1172, 1194,  
 1212, 1358, 1388, 1588.  
 國際勞働保護 1359. —同盟1356.  
 —運動 1350. —法制 1365,  
 1383. —法制の個條 1366. —  
 の規約 1358. —會議の決議  
 事項 1352.  
 國際資本主義 1686. —打破運動  
 1690.  
 國勢調査 2029, 2039, 2043, 2044,  
 2046, 2050, 2051, 2054, 2061,  
 2062, 2065, 2108.

黒死病の大流行 1867.  
 國體 979. —の三分類 909. —  
 擁護 323, 959.  
 米騒動 1268.  
 コンチンゲンチールンク (Kontin-  
 gentierung) 162.  
 功利 —主義 110. —哲學  
 1225.  
 公債 1726. —募集 48, 680, 681,  
 696. —の發行 1721. —の始  
 末 1516. —支辨 1731.  
 小作人 2341. —と地主 2340.  
 厚生經濟 1848. —の主張 1842.  
 —への進化 1839.  
 交戦國 —負傷兵士數表 605.  
 —の借金高 1606. —死亡兵  
 士數表 604. —出征兵士數表  
 604.  
 固定資本 511. —と流通資本  
 514.  
 交通機關の發達 2166.  
 小賣商 2263. —の失業者 2018.  
 講和 —談判 317. —條項  
 1017, 1279. —條約草案 1347.  
 —と英獨の主張 266. —會議  
 に於ける日本の使命 1018. —  
 問題 816. —と獨逸社會黨188.  
 雇傭 —契約 1887, 1911. —  
 契約解除のモラトリウム 1919.  
 —勞働者 1950. —者解雇失  
 業問題 1887.  
 クリーグス・ヴキルトシアフト  
 (Kriegswirtschaft) 666.  
 空間と時間 1435.  
 組合 2252.  
 教法大會運動 1189.  
 教育 1138. 自由—741. 市民—  
 741. 新—741. 今日の—741.

居住權 1905, 1955.  
 教會 1179.  
 恐慌 1676.  
 極東問題 1565.  
 極窮權 249, 1934, 1936. —の一  
 事例 1935. —の實行 786, 783.  
 舊社會 735, 739. —の根本主義  
 735.  
 救世軍 1828.  
 休戰祝賀 253.

L

ローンクラフエライ (Lohnskla-  
 verei) 1081.  
 倫敦 480, 482, 1323. —の人口  
 1868. —の金融市場 509. —  
 のロムバード街 488, 558, 561.  
 —の復興條件 1870. —のス  
 テールヤード 2257. —の大火  
 1867.  
 ロツス (loss) 1766. —の問題  
 1803.

M

マンチエスター學說 521.  
 マルキシズム (Marxism) 1420,  
 1430. —の相異なる二方面 1413.  
 —の社會進化論 1421.  
 マニユファクチュア (Manufac-  
 ture) 2259.  
 マスターピース (Masterpiece) 2256.  
 マスター・オブ・アーツ (Master of  
 Arts) 2256.  
 マーカントリル・システム (Mercan-  
 tile system) 60, 2236.  
 マーカントリズム (Mercantilism)  
 1198-9, 1249, 2206, 2207.  
 メチウエン條約 88.

民法 1137, 1893, 1898. —の契  
 約 1890. —第六百一條 1910.  
 —第六百二十七條 1919. 現在  
 の—1905.  
 民本主義 323.  
 南亞米利加 1473.  
 民族 —自治 1030. —自決主  
 義なる造語 330. —間の憎惡心  
 1670, 1733. —國家 1168, 1203.  
 —的精神. 1205.  
 モナーキー (Monarchie) 143, 969,  
 972.  
 木綿の時代 1286, 1287.  
 物 —を得んとする衝動 1061.  
 —を作らんとする衝動 1061.  
 物の經濟 659, 663, 667, 672. —  
 と金の經濟 100, 650.  
 モラトリウム (Moratorium) 584.  
 —の實行 586.  
 無併合無賠償主義 412, 420.  
 ミュニシパル・ソシアリズム  
 (Municipal Socialism) 823.  
 無政府主義 961.

N

内國債 1726, 1727.  
 内國商業政策 2210, 2213. —の  
 第一問題 2211. —の第二、三、  
 四問題 2212.  
 仲間 2252.  
 南阿戰爭 336.  
 ナショナル・ステート (National  
 State) 1168, 1191. —の強く  
 なりし始 1179.  
 紐育 —の兵役證書調 1273.  
 —の爲替相場表 1500. —の  
 ウォール街 560.  
 日米 —移民問題觀 1540. —



自由貿易 — 學説の根據 522.  
 — 論者 942. — 主義 74.  
 自由鑄造 597. — 制度 804.  
 自由放任主義 894. — の真相 1250.  
 女工 1381.  
 猶太 1178. — 教 1692.  
 十字軍 2228.  
 住宅難 2157. — と世帯單位の擴大 2037.

K

株式會社 — の發端 341. — の嚆矢 341.  
 價値の切下げ 1742.  
 科學的經營法 1370-1.  
 過激派 1012, 1016, 1051, 1125, 1127, 1296, 1304. — 思想 989. — の主義 1126, 1688.  
 貨幣 — 本來の用途 1093. — 經濟 790. — 經濟の大利益 509. — 問題の取扱方 1653. — の調節 798, 847. — の購買力の激減 1492. — の對外價値暴落 1493. — の對外價値暴落の原因 1507. — の對内價値の暴落 1493.  
 貨幣價値 — の安定策 1742. — の下落 1496, 1737. — の恢復 1750.  
 海軍 — 制限 1572. — 國の — 271.  
 解放 1231. — 主義 1256. 第一の — 1232.  
 海上保險の再保險官營 770.  
 戒告 783.  
 階級闘争 1005. — の大原因 1233. — の一方法 1418. —

の思想 1413.  
 海賊主義 461, 996, 997.  
 火事場泥棒 1879.  
 價格經濟 1841. — 學 1857. — 學者 1854. — 組織に於ける所得分布の狀態 1847.  
 假面的民主主義 248, 460.  
 鐘淵紡績會社 1377.  
 間接税と直接税の利害得失 158.  
 關稅戰爭 1213.  
 完全有業者 2087.  
 火災保險會社 1985. — 拂込資本額 1996. — 官營 1985, 1995. — 官營案 1918. — の資本金總額 1959. — 收支計算表 1997.  
 火災保險契約 1889, 1911, 1912, 1916. — 書 1779. — 平均額 1957. — 一件平均高 1984. — 件數及總金額 1957, 1984.  
 火災保險金 1956. — 問題 1887, 1889, 1955, 1982-3, 1990, 2003. — 問題解決策 1988. — 問題三解決案 1994. — 支拂金額 1913, 1957. — 支拂推定額 1999. — 支拂問題處理案 1995.  
 火災保險協會調査の契約金高 2000.  
 貸付金 493. — 庫證券 684.  
 爲替 — の裁定 479. — 相場 570. — 手形 567. 電信 — 相場 570. 外國 — 580. 片 — 591. 參着 — 569.  
 課税 596, 680. — の重點 2133.  
 景氣 1675.  
 慶應義塾 993.  
 警視廳勞働課調査統計表 1964  
 契約 135, 139, 1911.  
 經濟 1794, 1929. — 復興 1885, 1929. — 復興の第一 1930. —

學 2206, 2328. — 學の研究 2198. — 學の最大任務 2202. — 學の説き方 2215. — 原論 2026. — 上の問題 2209. — 界の消長 195. — 計劃 1932. — 民勢學 2021, 2025. — の原則 85. — の特色 667. — 史 2201. — 史の研究 2200, 2203, 2206, 2208. — 社會 2321. — 周期 1755. — 周期の人心沈滞 1733. — 主體 2330. — 組織 660, 1755. — 統計 2022. — 統計學 2022.  
 經濟生活 69, 1238, 1257, 1803, 1839, 1979, 2202. — の特色 500. 1230. 今日の — 789.  
 經濟的 — 壓迫主義 1020. — 好戰論 296. — 利益の衝突 290. — 侵略主義 461, 995. — 帝國主義 270, 317, 1686. — 帝國主義の思想 1300.  
 結核性疾患の主要原因 538.  
 結婚生活 1073.  
 憲法 735, 1001. — 政治 56. 日本 — 779. 歐洲 — 778.  
 健康保險法の實施 1789.  
 權利の平等 1883.  
 權力 — の誇 1216. — 政策 271. — 慾 1213.  
 憲政會 799, 809.  
 企業 531. — の組織 1752. — 者 1749, 1753. — 家の特徵 1234. 私的 — 1855.  
 危險思想 296, 940, 959, 1111, 1115. — と日本人 982. 最大の — 471.  
 金保有高 — 百分比率表 1647. — と物價指數との關係圖表

1634-5.  
 金の經濟 61, 83, 667. — と物の經濟 500, 650. — より物の經濟へ 656.  
 金貨 — 本位國 484. — 本位と兌換制 597. — 過多防止の三作用 871. — と貨幣 644.  
 勤儉貯蓄獎勵 1140.  
 近東問題 1687.  
 金融機關の發達 1324.  
 金輸出解禁 1636. — 問題 1705.  
 基督教 1164, 1692. — 會 1167, 1203. — 青年會 1828. — 的組合 1337.  
 クライニヒカイツクレーメライ (Kleinigkeitskrämerei) 169.  
 クラインシュターテライ (Klein-staateri) 168.  
 クラインシュタツテライ (Klein-städterei) 168.  
 講壇社會黨の創立者 2199.  
 行動の衝動 1078.  
 工業 2139, 2251. — 發達の第一二弊害 2157. — 階級 2123. — 國の恐怖 2121, 2171. — の初 2252. — 勞働者の失業者の内容 1974. — 生産の特徵 2335. — と農業 2140, 2335. — 有業者の最高率 2053.  
 個人 — 本位の自由主義 738. — の自由 735. — 票 (職業調査) の様式 2077.  
 工場 — 封建主義 904. — 議會開設準備 1378. — 罹災統計 1950. — 勞働者種別表 1973.  
 黃禍 932.  
 公海自由航行 404.  
 國家 1167. — 破産 1473. —



——の参戦 1275. ——とトルコ 1672.  
 合法性 130.  
 御朱印船 342.  
 ゴッテス・レーン(Gotteslehn)1177.  
 軍備 ——の制限 1563. ——國の ——力 2173.  
 軍國經濟 665.  
 軍國主義 87, 272, 933, 1020. ——の全滅 1407. ——を産み出せし所以 926.  
 行政整理 1778.

H

拜金主義 1419.  
 排日問題 1282. ——の解決 1283. ——の根本原因 1532, 1542.  
 ハンダクラフト(Handicraft)2259.  
 犯罪 740.  
 平準點 570.  
 平和 ——後の世界 461. ——的資本主義 344. 呪ふ可き ——1316.  
 被服品製造業 2019.  
 比較的生産費の理論 1773.  
 引受屋 562.  
 貧民所得の増加と國民總所得の増加 1849.  
 法治國 1239.  
 保護政策 73, 600. 教育的 ——943.  
 封建 ——制度の原則 955. ——社會 737. ——諸侯 1203.  
 保險法 1915.  
 本願寺 1828.  
 本業從屬者 2064.  
 本業有業者 2046, 2050, 2064. ——各職業の百分比表 2065. ——の増加 2049. ——と本業從屬者の比較表 2047.

本位貨幣の對外價值下落 1514.  
 法律 127, 1934. 今日の ——248.  
 保障主義 1256.  
 法典出來て法學亡ぶ 963.  
 百姓 2251.

I

唯物史觀 1225.  
 英吉利 10, 31, 44, 77, 86, 97, 99, 146, 194, 267, 448, 492, 502, 516, 518, 542, 545, 579, 583, 586, 600, 602, 647, 657, 669, 690, 705, 742, 814, 1025, 1036, 1062, 1096, 1098, 1159, 1236, 1295, 1320, 1329, 1507, 1520, 1590, 1605, 1867, 2221, 2234, 2294. ——人 21, 29, 32, 168, 658, 1216. ——人の欠點 205. ——の長所 743. ——の重商主義 20. ——の兌換券 581. ——の兌換制度停止 1088, 1092. ——のデモクラシー 990. ——の外交 31, 552. ——の外國投資額 540. ——の學界 24. ——の議院 546. ——の軍事公債募集 670. ——の軍隊 29, 385. ——の誇り 1112. ——の一等國となれる原因 21. ——の自由貿易主義 923. ——自由主義 521. ——の海軍 350, 996, 350, 996. ——の開放主義 521. ——の海上權 923. ——の貸付金庫の利用 653. ——の貸付利子 539. ——の海賊主義 351, 448, 997. ——の爲替相場表 587. ——の爲替相場の立方 588. ——の經濟學 27, 1226. ——の經濟上の根柢 4. ——の經濟政策變動の原因 690. ——の經濟政策の破綻

650. ——の經濟的侵略主義 333. ——の金貨 581. ——の金貨本位 596. ——の金輸出禁止 1291. ——の金輸出禁止令 1087. ——の金融市場 478. ——の金融市場の大變動 573, 595. ——の國民所得 541, 602, 709. ——の功利哲學 55. ——のモラトリウム 616. ——の二大政黨 752. ——の二大政黨政治 28. ——の債權及債務額 1489. ——の政權 2237. ——の戰爭參加の理由 1508. ——の政治思想の根柢 110. ——の世界經濟の中心點たる力 1324. ——の戦費 703. ——の戦費總額 638. ——の戦時貯蓄證券 635. ——の戦時經濟 17. ——の借金 625. ——の資本的侵略主義 333, 928. ——の資本關 661. ——の資本輸出 548. ——の思想 1225. ——の失業者數 2056. ——の商業 2235. ——の商國主義 364, 448. ——の食料品騰貴割合の指數 14. ——の食料問題の危機 88. ——の所得稅制度 159. ——の損害 1481. ——の短所. 207. ——の東印度會社 118, 341. ——の富みたる理由 527. ——の弱くなりし所以 547. 金融中心國としての ——561.  
 英吉利の物價 1632. ——指數 89. ——指數表 1631. ——騰貴の原因 90-1. ——騰貴指數表 18. ——騰貴率表 89.  
 英吉利の財政 ——改革 9. ——上の状態 40. ——上の根柢 4. ——の大黒柱 159. ——經濟状態 5. ——經濟政策の根本的謬論 202.

——の弱點 160. ——政策の二大支柱 40.  
 移民 ——排斥原因 1539. ——問題 1547.  
 イムペリウム (Imperium) 971.  
 印度 343, 485. ——のカウンシルビル 1331. ——證券賣出し 485.  
 インダストリアル・デモクラシー (Industrial Democracy) 764, 1233, 1376.  
 インフレーション (Inflation) 680, 682, 696, 727. ——の二種 684.  
 イニシエチーフ (Initiative) 土地法案 1548. ——の要領 1548.  
 印刷業 1978.  
 伊太利 1649, 2057, 2228. ——の獨逸會館 2257.

J

自治體社會主義の實行 823.  
 地代 531.  
 時事問題の解決 2206, 2208.  
 時間と空間 1435.  
 人事 ——技師長 1379. ——支配人 1379.  
 人口動態 2025.  
 人類 ——の解放 1422. ——のみが社會を作る六理由 140.  
 人生 ——の貨幣化 1229. ——の商品化 1229.  
 人種 ——差別撤廢 1346. ——的憎惡 290, 1222.  
 地主 531. ——と小作人 2340.  
 地震 1835, 1894.  
 自主的出兵 432.  
 自足經濟 2227.  
 自由 ——海論 326. ——教育 741. ——競争 737. ——労働者 1949.



469. —の社会主義 196. —  
 の社会主義の歸趨 283. —の借  
 金 624. —の死亡數 2187. —  
 の資本的侵略主義の敗滅 275.  
 —の商工業進歩の原因 2240.  
 —の商工業と農業の人口數比  
 較表 2125. —の職業統計 2125.  
 —の食料 50. —の食料品取  
 締 51. —の商人 481. —の所  
 得税納税義務者數 2128. —のソ  
 シアル・デモクラシー 259. —  
 の出生數 2187. —の財政 157,  
 160. —の財政上の根柢 4.  
 —労働協會 895. —帝國銀行  
 1638. —帝國未來記 197.  
 獨逸人 7, 162, 177, 180, 194. —  
 —の長所 2193. —の自由の野  
 性 2222. —の弱點 167. —の  
 欠點 1285. —の心理的變化  
 234. —を一皮剥いで見ろ 174.  
 獨逸革命 196, 238, 239, 264, 307,  
 459, 910, 911. —の實行者 240.  
 —の起因 465.  
 獨逸の賠償金 1483. —問題 1486,  
 1687. —分配割合表 1483.  
 獨逸の軍事公債 187, 627. —募  
 集方法 629. —募集の成績比較  
 表 64. —の應募 653. —應募  
 人員表 65, 721. —應募金額表  
 65.  
 獨逸の農業 2156, 2175, 2178. —  
 國より工業國への變化の原因  
 2137. —問題の最重要點 2354.  
 —的復古を主張する根據 2181.  
 獨逸の社会民主黨 163, 189, 894,  
 1046. —の根本主義 763.  
 獨逸の社会黨 899, 1302. —の講  
 和 188. —鎮壓法 935.

獨逸關稅同盟論 78.  
 ドミニカル (Dominical) 税 2135.  
 奴隸制度 1081.  
 道德性 130.

E

エコノミック・デモグラフィ  
 (Economic Demography) 2021. —の根本事實 2041.  
 エコノミック・モルフオロギー  
 (Economic Morphologie) 2041. —  
 —の主題 2050.  
 エコノミック・モノグラフィ  
 (Economic Monography) 2024.  
 埃及 552, 1289.  
 英米 —爲替相場暴騰の一原因  
 594. —のデモクラシー 1192.  
 —の政治上のデモクラシー  
 1044. —の社会主義 822.  
 英獨 —經濟政策の大方針 4.  
 —國民經濟の比較 1.  
 營業 2041. —本據權 1905. —  
 の自由 778.  
 營利主義 2325. —の起源 1425.  
 英露通商條約 2280.  
 營生 1945. —本據權 1955. —  
 の機會 1944. —機會の恢復  
 1827. —の衝動の惡化 1832.  
 アイゲン・ジン (Eigensinn) 173.  
 エムプロイメント・マネージャー  
 (Employment Manager) 1382.  
 エネルギー (Energie) 2181.  
 英蘭銀行 530, 564, 571, 585. —  
 條例 1091.  
 アンケート (Enquête) —調査  
 員の心得 2079. —の要件 2079.

F

伊蘭西 5, 261, 267, 307, 309, 318,  
 319, 321, 338, 443, 465, 476,  
 886, 1037, 1063, 1179, 1295,  
 1479, 1529, 1589, 1600, 1605,  
 1906, 1649, 1701, 2057, 2234,  
 2236-7, 2296. —文明 108, 263,  
 319. —大革命 735. —人  
 23, 177, 180. —の物價指數表  
 (1914-20) 1497. —のフィデ  
 ル 176. —の外債 1603. —の  
 自由平等同胞 23. —の功業 254.  
 —の國民工場 1947. —の使命  
 245. —の小學校 1139. —の  
 勝利 308. —の損害 147. —の  
 對外債權 —の對外債務 1700.  
 —の豫算 1601. —と日本  
 1308. —全體の家屋の價格 1479.  
 普佛戰爭 577, 2240.  
 フィデル (Fidel) 177.  
 婦人 —の工業上の夜業 1353.  
 —の求職者 2089. —の新求  
 職者 2111. —の失業率 2079.  
 —の失業者 2111. —の夜業  
 禁止 1354-5.  
 不換銀行券の過發 727.  
 不換紙幣 —の發行 1721, 1736.  
 —の始末 1294. —の處分法  
 1509. —の増發 648, 727.  
 不景氣 1506, 1754. —の第一原  
 因 1733.  
 復興 1821, 1865, 1883, 1924. —  
 院 1789. —事業の第一 1944.  
 日本當面問題 1866. —の第一  
 標準 1561. —の費用 1797,  
 1837. —の最本動力 1785.  
 —資金の融通 1955, 1960. 最惡  
 の — 1784. 眞の — 行動 1888.  
 眞の — 費用 1772.

復興經濟 1794, 1822, 1853, 1860.  
 —の第一原理 1759, 1789, 1805.  
 —の原理 1768. —の厚生的  
 意義 1823. —の内容 1840.  
 —の最惡方法 1781. —論  
 1860. —と歐洲戦後の經濟改  
 良 1806.  
 富國の要諦 83.  
 復舊 1810, 1838. —經濟 1779.  
 副業 2252.  
 普魯西 2133. —移民法 2148. —  
 所得稅收入豫算 2134.  
 封鎖海論 924.  
 普通選舉 992, 1070, 1084, 1303,  
 1883. —權 1034. —運動 896.

G

外國貿易 1330, 2257. —策 2213.  
 概念の錯綜 1818.  
 頑冥思想 965.  
 ガスト・フロインドリヒカイト  
 (Gastfreundlichkeit) 174.  
 現金輸送點 571.  
 言論 —壓迫の一例 395. —の  
 自由 1160.  
 減債基金の還元 754.  
 現在資源 1716. —の充當 1735  
 —の戦費負擔充當の重要項目  
 1718. —と將來資源 1719.  
 ゲルマン (German) 人 2224.  
 議院 —政治 738. —社会主  
 義 836.  
 ギルド (Guild) 778, 2252. —  
 の目的 2252. —ソシアリス  
 ム 1263, 14 4 1425.  
 銀行の大合同 1326.  
 義務教育の延長 1782.  
 希臘 556, 1274. —の文明 2242.



1754. —引下げ方法 1636. —  
 引下の根本要件 1625, 1658. —  
 の季節的變動 1317. —の心理  
 的變動 1317. —と通貨との關  
 係圖表 855.  
 物價調節 789, 790, 798, 842, 844,  
 1614. —の方法 878. —令 764.  
 物價指數 —表(1915—20) 1493.  
 —の種別的解剖 1655. —と  
 兌換券流通高の増加 688. —と  
 金保有高の關係圖表 1634—5. 各  
 國の —表 1633. 日本の —表  
 1655.  
 物價騰貴 609, 639, 645, 726, 795,  
 1493, 1611, 1655. —の防止策  
 1636. —の原因 642, 727, 767,  
 773, 774, 810, 849, 850, 854, 945,  
 1637, 1681. —と兌換券の増發  
 801. —と通貨證券の増發關係  
 圖 640. 日本 —1657.  
 佛教 1692.  
 分配 —の公平 1252. —の問題  
 728. —主義 1250.  
 文化 —價值 1842. —國家 1239.  
 物品販賣業 2019.

C

カリフォルニア (California) —  
 の移民問題 1547. —の日本人  
 1546, 1556. —の日本人の耕作  
 地 1553. —の日本人増加割合  
 表 1552.  
 センサス (Census) の要件 2079.  
 治安警察法第十七條 1368, 1395.  
 賃銀 531. —奴隸制度 1081. —  
 労働の欠點 1076. —制度 1080.  
 賃貸借 1910.  
 チラニー (Tyranny) 969.

知識階級 1337.  
 直接税と間接税との利害 158.  
 町人時代 32.  
 重農主義の學說 158.  
 朝鮮 1146, 1156. —銀行 1642,  
 1652. —改良の第一 1154. —  
 に於ける日本の政治 1149—50.  
 —の獨立運動 1148. —の拓  
 殖事業 1159.  
 重商主義の思想 21.  
 鑄貨大權 847.  
 中央市場の設置 1629.  
 中央職業紹介事務局 1951.  
 中央集權 2223.  
 中産階級保護政策 2163.  
 コロムビア (Columbia) 大學 395.  
 コムメンダ (Commenda) 341.  
 コンシリアル・ムーヴメント (Con-  
 ciliar Movement) 1189.  
 コンヂアクチュア (Conjunc-  
 ture) 1678.  
 コントロール・オブ・インダストリ  
 — (Control of Industry) 1086,  
 1263.

D

第三階級 1130. —の主張 1132.  
 大震災の損失額 1762, 1773.  
 兌換券 —膨脹防止の三作用 804.  
 —膨脹の原因 802. —發行高  
 と東京市の物價指數對照圖 855.  
 —緊縮實現 1657. —の縮少  
 1318. —の過發 167, 774. —過  
 發と物價騰貴 801. —流通高と  
 物價指數 688.  
 兌換制度 1092. —停止 1087.  
 奪掠侵略主義 1213.  
 丁稚 2212, 2266, 2273. —の過去

2250. —の問題 2276. —の制  
 度 2249—50, 2268, 2273, 2275.  
 —の制度に特色を與へし所以.  
 2258. —の理想 2243. —の定  
 義 2243.  
 デモクラシー (Democracy) 143,  
 200, 459, 759, 761, 890, 969, 970,  
 973, 980, 1119, 1130, 1192, 1204.  
 —の始 1179. —の起因 1164.  
 —の思想 970. —の定義 890.  
 —と日本の國體 760. 新しい  
 —761. 新しい意味の —470.  
 英米の —1192. 舊い —760.  
 政治上の —1131. 資本的 —  
 1132. 眞正の —150, 246, 247,  
 763, 1000, 1007, 1082, 1086, 1134.  
 眞正の —に赴く第一歩 1145.  
 嘘の —248, 1000, 1124.  
 デモグラフィキ (Demographie)  
 2024. —としての統計學 2027.  
 電信爲替相場 570.  
 デパートメント・ストア (Depart-  
 ment Store) 2265.  
 デスカウンティング・ハウス (Dis-  
 counting House) 562.  
 獨逸 5, 10, 45, 184, 190, 222, 224,  
 226, 338, 418, 444, 465, 492, 502,  
 542, 546, 622, 626, 647, 669, 670,  
 901, 916, 925, 943, 974, 1092,  
 1096, 1099, 1112, 1122, 1173,  
 1271, 1350, 1392, 1407, 1473,  
 1529, 1545, 1585, 1649, 1698,  
 1718, 1726, 2122, 2148, 2223.  
 2238. —降伏の第一原因 1120.  
 —國民經濟の重點 2137. —  
 のオートクラシー 1266. —の物  
 價指數表 (1914—20) 1498. —の  
 物價騰貴の指數 15. —の文化

1433. —の長所 207. —の兌換  
 停止 577. —のダムピング 462,  
 915. —のダムピングの反對論  
 據 297. —の學問 476. —の月  
 賦革命 195. —の軍國主義 82,  
 370, 320, 448, 657, 971, 1016.  
 —の軍隊 86. —のハンザ商  
 人 519. —の保護政策 82, 941.  
 —の保護主義 161. —の人口  
 數 2141, 2155. —の人口増加  
 2184, 2188, 2190. —の人口増  
 加緩滞なる理 2186. —の人口  
 増加の割合 2125. —の弱點 157,  
 214. —の官吏の俸給令 1505.  
 —の關稅同盟 523. —のカイ  
 ゼル 1174, 1182. —の經濟學と  
 社會民主主義 956. —の經濟上  
 の發達 2198. —經濟上の事情  
 49. —經濟上の重點 2126. —  
 の經濟上の根柢 4. —の經濟力  
 64. —の經濟戰 194. —の經濟  
 的恢復 1525. —の權力政策 27.  
 —の耕地の收穫の狀況 2149.  
 —の工業 2127. —の國家社  
 會主義 469. —の國民分賦の變  
 動 2125. —の國民經濟 2122.  
 —の國民性 241. —の小麥  
 2151. —の講和を急ぎし所以  
 193. —の屈辱的求和 216. —  
 のマルク暴落原因 1687. —の  
 民法 1137. —の二重財政 7. —  
 の納稅所得高 2129. —のオー  
 ト麥 2154. —の大麥 2153. —  
 の産業の盛衰 2127. —の戰時公  
 債 163. —の潜航艇戰 91. —  
 の社會 165. —の社會改良協  
 會 1351. —の社會民主主義 270,  
 913, 929, 1045. —の社會政策



## 索引 (其二)

### —— 件名索引 ——

#### A

アクセプティング・ハウス (Accepting House) 562.  
アルゼンチン 2161.  
アルサス・ローレンの獨立承認 198.  
亞米利加 189, 211, 339, 388, 451, 494, 748, 949, 1032, 1062, 1112, 1273, 1473, 1489, 1529, 1534, 1537, 1564, 1596, 1605, 1608, 1609, 1650, 1673, 1701, 1706, 1742, 1836, 2057, 2148, 2167, 2281. — 發見 2231. — の物價指數表 1631. — の地位 192. — のデモクラシー 990. — の銀行制度 1327. — の軍國化 399. — の排日の根本的原因 1532. — の百姓 2271. — の移民問題 1534. — の爲替 591. — の禁輸問題 92. — の禁輸と日本の對策 92. — の二大政黨 1537. — の日本人労働者排斥 953, 1207. — の労働賃銀 1535. — の労働者 1537. — の參戰 391. — の參戰の經濟上の眞意義 729. — の正義人道の内容 414. — の社會主義 1537. — の資本的侵略主義 928. — の土地法制定事件 1543. — 太平洋沿岸の日本人比較表 1552. — と日本 37, 1593.  
アナキー (Anarchie) 1249.  
アングロ・サクソン (Anglo-Saxon)

743. — 人種 462. — 民族 1567.  
アツプレチスシツプ (Apprenticeship) 2250, 2263. — 制度の起り 2254.  
アリストクラシー (Aristocracy) 143, 969.  
足利時代 931.  
値の生活 789.

#### B

ババリア國 (Bavaria) 2135, 2149.  
幕府時代の農民政策 2334.  
バーデン國 (Baden) 2134. — の所得測定額 2133.  
バリストル (Berrister) 2256.  
米價 — 調節の一方法 842. — の騰貴 686.  
米穀取引所 784, 785.  
白耳義 1479. — の大問題 1478. — の損害 1477.  
辯護士 1893.  
ベース (Baisse) の時期 1751.  
貧乏 1371.  
貿易 1503. — の盛衰 195. — は國旗に従ふ 340, 524. 國際間の — 1514.  
ボルシエヴキズム (Bolshevism) 239, 258, 989, 1419, 1587, 1592. — 宣傳 2282.  
暴利取締令 792, 796, 1312.  
武斷的 — 軍國主義 465. — 好戰論 296.  
物價 846, 1494. — 下落の原因



三册) 1463.  
『ステータスト雑誌』(Statist)  
148, 192, 202, 209, 233, 710,  
819, 865, 1022, 1024.  
スチルナー (Stirner) 824.  
スアレツ (Suarez) 115, 126.  
末弘殿太郎 2078.  
鈴木文治 833, 1340.

## T

タキトス (Tacitus) 2172.  
田尻稻次郎 984, 1639.  
高島素之 1054.  
高橋是清 799, 810, 832.  
高橋作衛 103, 759.  
高野岩三郎 1397, 2313.  
高岡熊雄『農政研究』 2354.  
高田保馬 1854.  
武富時敏 506, 812.  
田中萃一郎 991, 1064, 1303.  
テーラー (Taylor) 1370. —の  
科学的經營法 1370. —式  
1372. —式に反對の原因 1374.  
寺内正毅 104, 245, 436, 759.  
—内閣 375, 800, 809, 815,  
839, 844, 850, 1312. —内閣の  
社會的施設 766. —内閣の對  
支策 379.  
タムソン・ウキリアム (Thomp-  
son, William) 830, 1251.  
タムソン (ジェー) (Thompson,  
J.) 1439.  
チューネン (Thünen) の孤立國  
論 58.  
戸田海市 1879.  
徳川家康 1628.  
徳川氏 1872.  
徳川頼倫 1910.

徳富猪一郎 1730. —『將來の日  
本』 27.  
『東京市市勢統計原表』(東京市臨  
時市勢統計課刊) 1970, 2028,  
2029, 2031.  
『東京市統計年表』(東京市役所調  
査課編) 2028, 2037.  
トルストイ (Tolstoi) 1013, 1126.  
戸水寛人 1567.  
トレンス (Torrens) 2163.  
『東洋經濟新報』 2197.  
豊臣秀吉 932, 1201, 1395, 1588.  
トロツキー (Trotsky) 196, 224,  
231, 239, 325, 1014, 1049, 1125,  
1126, 1304.  
津村秀松 153, 424.  
津島學士『株式會社法史』 341.  
トーガン・バラノフスキー (Tu-  
gan-Baranowsky) 1683. —  
『英國の恐慌史研究』 1678.

## U

内田康哉 237, 443.  
内田銀藏『近世の日本』 1199.  
内ヶ崎作三郎 1165, 1170, 1176,  
1179, 1190.  
内村鑑三 1170, 1172, 1193.  
『ウルテンベルヒ年報』 2173.  
上田貞次郎 1095.

## V

ヴァイヒンガー (Vaihinger)  
1463.  
ヴァンダーリップ (Vanderlip)  
1595, 1710. —, What next  
in Europe? 1608, 1704.  
『フォルベルツ新聞』(Vorwärts)  
1341.

## W

和田豊治 315, 911.  
ヴェーンチッヒ (Waentig) 785.  
ワグナー (Wagner) 223, 2124,  
2156, 2185, 2186, 2198, 2199.  
『領域國家より世界強國』 2184.  
—とプリンタノの一大論戰  
2200.  
若槻禮次郎 798, 850.  
ウォーカー (Walker) 『經濟原  
論』 2144.  
渡邊鐵藏 1797, 1806, 1810.  
ウェーバー (マックス) (Weber,  
Max) 1692, 1854.  
ホエーウェル (Whewell) 124.  
ウィザース (Withers) 『貧乏と  
浪費』 1253.  
ウィルヘルム二世 (Wilhelm  
1174, 1188.  
ウィルソン (Wilson) 100, 101,  
148, 154, 184, 191, 192, 198,  
205, 235, 286, 325, 326, 387,  
391, 403, 409, 412, 420, 426,  
430, 434, 435, 437, 454, 462,  
819, 890, 924, 1029, 1031, 1036,  
1040, 1041, 1104, 1212, 1223,  
1360, 1383, 1405, 1469, 1470,  
1472, 1476, 1528, 1671. —の  
教書 149, 393, 401. —の教書

と日本の國是 390. —とロイ  
ド・ジョージ 1297. —の民族  
自治 1030. —の宣言 413. —  
の宣言と日本 391.  
ヴェンデルバンド (Windelband)  
1431.  
レン (クリストファー) (Wren,  
Christopher) 1868. —のロン  
ドン復興案 1869.  
ウセリンクス (Wsselincx) 117,  
119.

## Y

山路愛山 1199.  
山川均 1054, 1711.  
山川健次郎 436.  
山本達雄 506, 812, 1312, 1313.  
山崎覺次郎 803. —『貨幣銀行  
問題一斑』 870, 1639.  
矢野二郎 796.  
横井時敏 2313, 2345.  
米田庄太郎 1064.  
吉野作造 105, 147, 200, 211, 232,  
283, 456, 884, 890, 891, 919,  
937, 967, 973, 986, 1042, 1043,  
1086, 1148, 1154, 1158.  
ヤング (Young) 2345.

## Z

ツェンカー (Zenker) 1205.



ski) 748.  
 オットー世 (Otto I.) 1174.  
 オーエン (ロバート) (Owen, Robert) 825.  
 尾崎行雄 103, 247, 256, 410, 820, 884, 984, 1033, 1034, 1035.  
**P**  
 パシフィック (Pacifico) 334.  
 パーマーストーン (Palmerstone) 334, 335, 995.  
 パレト (Pareto) 1842, 1845.  
 —『経済学綱要』 1843, 1849.  
 —『経済学教科書』 1843, 1844. —法則 1843, 1857. —の誤謬に陥りし原因 1845.  
 ポーロ (Paul) 1218.  
 ピール (サー・ロバート) (Peel, Sir Robert) 17, 158, 334, 1091. —條例 1091.  
 ペーツ (Peez) 2219.  
 ペテ (Petty) 1868.  
 ペツォルド (Petzoldt), Die Stellung der Relativitätstheorie in der geistigen Entwicklung der Menschheit. 1464.  
 フィリップ・ベル (Phillips le bell) 1179.  
 ビグー (Pigou) 63, 865, 1712, 2067, 2038, 2112. —『戦争の経済学』 1797, 1802. —の戦費の六種類 1714. —の失業の定義 2058.  
 ビット (Pitt) 17, 158.  
 プランク (Planck) 1439.  
 プラトン (Platon) 1423.  
 プレヒアノフ (Plechmanow) 989.  
 プルドーン (Proudhon) 830.

**Q**  
 ケネー (Quesnay) 158, 1925.  
**R**  
 ラッシュドール (Rashdall), Theory of good and evil. 110.  
 ライヘンバッハ (Reichenbach) —『相対性理論とアプリアリ認識』 1456.  
 リカルド (Ricardo) 1089, 1090, 1773, 2163.  
 リシェリユ (Richelieu) 2236.  
 リッカー (Rickert) 1431, 2329, 2331, 2333. —『文化科学と自然科学』 2328. —『自然科学的概念設定の限界』 1431.  
 李大釗 1691.  
 林則徐 335.  
 ルーズヴェルト (Roosevelt) 993, 1040.  
 ロドベルトス (Rodbertus) 2339. —『土地所有の現在の信用欠乏の説明と其救済』 2337.  
 ルーソー (Rousseau) 26, 113, 142, 1432.  
 ロントリー (Rowntree) 2067, 2069, 2074, 2078. — & Lasker, Unemployment. 2072. —の失業調査 2070. —の失業調査票様式 2070. —の失業者の定義 2058.  
 ラスキン (Ruskin) 533, 1065, 1261.  
 ラッセル (バートランド) (Russell, Bertrand) 1062, 1122, 1206, 1221, 1222, 1241, 1256, 1261, 1265, 1271, 1124, 1130.

1691, 1880. —『社会改造の原理』 1061. —の衝動の二大分類 1240.

**S**

サン・シモン (Saint-Simon) 1423.  
 西園寺公望 1032, 1596.  
 堺利彦 241, 464, 1049, 1054, 1339.  
 阪谷芳郎 358, 373, 984, 1299, 1358, 1388.  
 シアール (Schall) 2131, 2154.  
 シャイデマン (Scheidemann) 267, 325, 852, 1050, 1128.  
 シュミット (Schmidt), Das Weltbild der Relativitätstheorie. 1464.  
 シュモラー (Schmoller) 223, 1227, 1234, 2197, 2198, 2200. —『年報』 2173. —の衝動の分類 1240.  
 シュナイデル (Schneider), Das Raum-Zeit-Problem bei Kant u. Einstein. 1464.  
 シュムペーター (Schumpeter) 1854.  
 シュヴァイツァー (Schweitzer) 899.  
 スコット (Scott) 453.  
 シーリー (Secley) 99.  
 ザイデル (Seidel) 222.  
 セルデン (Selden) 326. —のmare clausum 924.  
 『戦前戦後に於ける国富統計』(内閣統計局編) 1759.  
 澁澤榮一 35.  
 『震災に於る日本の損失』(東京市統計課編) 1762.  
 『新約全書』 1184.  
 汐見三郎 1791, 1820, 1848. —, Entwicklung vom Volkseinkommen in Japan. 1792.  
 勝田主計 798, 801.  
 シチュウキツク (Sidgwick) 1855, 1860. —『経済理論』 1855.  
 ジーベルト (Siebert), Einstein Relativitätstheorie und etc. 1456.  
 スローン (Sloane) 417.  
 スミス (アダム) (Smith, Adam) 17, 21, 26, 60, 85, 778, 1089, 1841. —『国富論』 124.  
 左右田喜一郎 1065, 1226, 1227, 1235, 1256, 1264, 1431, 1447, 1453, 2207. —『経済哲学の諸問題』 1442. —(論文)メルカントリズムに関する学説の発展 2206.  
 添田詩一 1653.  
 ソムバート (Somlart) 11, 32, 1411, 1414, 1416, 1418, 1420, 1423, 1424, 1426, 1428, 1430, 1568, 1692, 2330, 2361. —『英雄と町人』 24, 58. —『近代資本主義論』 1452. —何故に米國に社会主義存せざるや』 832. —『社会主義の基礎及批評』 1415. —『社会主義と社会運動』 1415, 1420. —の企業家の特徴 1231.  
 ソレル (Sorel) 832, 833.  
 シュパーン (Spann) 1854.  
 スペンサー (Spencer) の進化論 26.  
 スプレーグ (Sprague) 1327.  
 『相対性理論』(哲学紀要第五卷第



ラサルレ (Lassalle) 282, 895, 897, 899, 992.—の二大目的 897.—の社会主義 895.  
 レッキー (Lecky) 99.  
 ライブニッツ (Leibnitz) 1434.  
 レニン (Lenin) 196, 239, 1014, 1049, 1125, 1126, 1304, 1623, 2348, 2360.—『十九世紀末に於ける露國の農業問題』 2347.  
 リーブクネヒト (Liebknecht) 241, 312, 892, 899.  
 リーフマン (Liefmann) 1853.—の金廢位説 1512.  
 ロイド・ジョージ (Lloyd-George) 149, 329, 387, 409, 426, 457, 540, 669, 857, 890, 998, 1023, 1026, 1031, 1036, 1212, 1292, 1360, 1467, 1469, 1472, 1671.—内閣 1306.  
 ロック (ジョン) (Locke, John) 25, 113.  
 『ロンドン・エコノミスト』 (London Economist) 430.  
 ロレンツ (Lorenz) 1436, 1443.  
 ルイ十四世 (Louis XIV.) 2234.  
 ルーテル (Luther) 1190, 1191.

## M

マコーレー (Macaulay) 57.  
 マキアヴェリ (Machiavelli) 971, 973.  
 マカドゥー (McAdoo) 415.  
 牧野英一 249.  
 牧野仲顯 1361.  
 マルサス (Malthus) 1089, 2184, 2192.  
 『マンチェスター・ガーディアン』 (Manchester Guardian) 201.

マネス (Manes) 『國家破産經濟的及法律的考察』 1474.  
 マーシャル (Marshall) 『經濟原論』 1753.  
 マルシリオ (Marsiglio), Defensor Pacis. 1189.  
 マルクス (Marx) 182, 190, 239, 282, 824, 827, 830, 833, 1048, 1053, 1058, 1229, 1251, 1252, 1340, 1414, 1421, 1427, 1564, 1682, 1683, 1841, 2361, 2230.—『資本論』 337.—の唯物史觀 1205.—の循環行程 1230.—説の出発點 1089.—の社会進化學説 1416, 1422.—の社会進化論 1426.—の社会進化の道行 1422.—の余剰價值論 1251.  
 マサリック (Massaryk) 281.  
 松方正義 1323, 2197.  
 松村眞一郎 1900.  
 メーヨ・スミス (Mayo-Smith) 『經濟學と統計學』 2022.  
 マイア (Mayr) 2022, 2025.—『經濟學と社會學』 2024.  
 マイツェン (Meitzen) 2022.—『普國の土地並農業上の状態』 2144.  
 メンガー (アントン) (Menger, Anton) 829, 1254.—『經濟原論』 1854.  
 メンガー (カール) (Menger, Carl) 1854.  
 ミッチェル (Mitchell) 1678.  
 ミケル (Michel) 2127.  
 ミル (ゼームス) (Mill, James) 128.  
 ミル (ジョン・スチュアート)

(Mill, John Stuart) 675, 1773.—の資本觀の一概せられし理 676.  
 ミルナ (Milner) 336.  
 三島彌吉 1374.  
 三井甲之 211.  
 宮田喜代藏 1512.  
 宮武外骨 1057, 1315.  
 宮崎道三郎 831.  
 モール (ロバート・フォン) (Mohl, Robert von) 114.  
 モールスウォース (Molesworth) 128.  
 モンテーヌ (Montaigne) 1245.  
 モンテスキュー (Montesquien) 179.  
 ムーデー (Moody) 212.  
 ムーア (Moore) 1820.—の震災損失觀 1801.  
 森有禮 2249.  
 モーリス (Morris) 1262.  
 本居官長 987.  
 ミューアヘッド (Muirhead) 『獨逸哲學と競争』 961.  
 室伏高信 200, 231, 356, 456, 1043, 1045, 1052, 1429.  
 武者小路公共 191, 232.  
 武藤山治 1377, 1644.

## N

永田秀次郎 472.  
 仲小路廉 784, 787, 798, 801, 821, 814, 1312.  
 ナポレオン (Napoleon) 319, 1307, 2235.  
 ナポレオン三世 (Napoleon III.) 523.  
 ナウマン (Naumann) 78, 224.

ニュートン (Newton) 1434, 1435.  
 『ニューヨーク・タイムス』 (New York Times) 414.  
 那須皓 2312, 2314, 2315, 2319, 2322, 2331, 2336, 2340, 2341, 2344, 2346, 2349.—(論文) 農村問題の歸趨 2300.—小作料論 2339.  
 ニコルソン (Nicholson) 642, 774, 865.  
 ニーチェ (Nietzsche) 33, 2190.  
 『日本帝國統計年鑑』 (内閣統計局編) 1985, 1995.  
 二階堂保則 538, 1950, 1951, 1972, 1978, 1983, 1984, 2001, 2003, 2008, 2060, 2108.—の罹災調査統計表 1967.—の火災保険支拂金額推計 1957.  
 ノースクリップ (ロード) (Northcliffe, Lord) 998.  
 野依秀一 1409, 1416.

## O

大木遠吉 902.  
 大原孫三郎 1380.  
 大隈重信 768.—内閣 766, 808, 841, 1591.—内閣と物價調節 808.  
 大河内正敏 2362.  
 オルデンバルネフェルド (Oldenbarneveldt) 118.  
 オルデンベルグ (Oldenberg) 2156, 2185.  
 小野武夫 2333.  
 小野塚喜平次 150, 1613.  
 『歐洲大陸法制史叢書』 113.  
 オストロゴルスキー (Ostrogor-



而上論』 1666.  
 ハンス (Hans) 2192, 2193, 2195.  
 原敬 214, 237, 260, 909, 1573.  
 ——内閣 244, 807.  
 ハロー (Harrow) 1438.  
 服部文四郎 1356, 1361, 1364.  
 オースマン (Hausmann) 1871.  
 林毅陸 324, 328, 733, 1224, 1484.  
 ヘルトリング (Hertling) 151, 192, 324.  
 土方成美 1854.  
 平田篤胤 987.  
 ホブズ (Hobbes) 97, 108, 109, 111, 113, 114, 128, 129, 132, 135, 136, 139, 142, 145, 146.  
 ——『レヴィアサン』 112, 125.  
 ——の著書 156. ——の學說 137. ——の國家論の基礎 137.  
 ——の自然法 138. ——の自然法論 126. ——の思想 109. ——の主權論 141.  
 ホブソン (Hobson) 1855, 1856, 1860. ——『金と價格と勞銀』 1857.  
 ホッジスキンの (Hodgskin) 830.  
 ホルデン (Holden) 1326, 1328.  
 ホーヘンスタウフェン家 (Hohenstaufen) 2238.  
 ホーヘンツォルレルン家 (Hohenzollern) 898.  
 ホランダール (Hollander) 1254.  
 ——の經濟的不足 1260.  
 本多正信 1628. ——『本佐錄』 1559.  
 本庄榮治郎『徳川時代の米價政策』 782.  
 フック (ロバート) (Hooke, Ro-

bert) 1868.  
 フーヴァー (Hoover) 814.  
 ホレーズ (Horace) 127.  
 堀江歸一 850, 1097, 1292, 1314, 1659, 1663, 1665, 1726, 1730, 1735.  
 穂積重遠 829, 1064.  
 穂積八東 1035.  
 ヒュルマン (Hüllmann) 2220.  
 ヒューム (Hume) 26, 114, 146, 1225, 1432.  
 ハスキソン (Huskisson) 17, 158.  
 ハックスレー (Huxley) 146.  
 ホイゲンス (Huygens) 1434.

## I

今井嘉幸 984.  
 今村恭太郎 1786, 1896.  
 伊奈忠次 1929.  
 井上準之助 444. ——『戦時及戦後の我邦の對外金融』 1702.  
 犬養毅 164, 329, 436.  
 イサベラ (Isabella) 2232.  
 石原純 1444, 1453.  
 石井菊次郎 1388.  
 伊藤正徳 1384.  
 岩田宙造 1891, 1893, 1899, 1905.

## J

ジャパン・アドヴァータイザー』 (Japan Advertiser) 201.  
 エホバ (Jehovah) 1180, 1182, 1185.  
 エリネック (Jellinek) 1197.  
 ジェヴォンス (Jevons) 1678.  
 エール (Joehr) 『本位下落と瑞西』 1499.

デュボア (Jubois) 1480.  
 ジュグラール (Juglar) 1678.

## K

ケムプエル (Kämpfer) 58.  
 寛克彦 1195.  
 カルテンボルン (Kaltenborn) 『グローシアスの先驅者』 123.  
 神戸正雄 1294, 2311.  
 鎌田榮吉 825, 1394, 1395, 1396, 1596.  
 金井延 824.  
 カント (Kant) 26, 99, 110, 114, 131, 138, 826, 830, 1432, 1453, 1457. ——の國家哲學の根柢 129. ——の哲學 1225. 新——派の哲學 1431.  
 カーコデー (Kirkealdy) 865.  
 カーコネル (Kirconell) 『失業の國際的面目』 2056.  
 片岡安 1875, 1881.  
 片山義勝 1314.  
 加藤高明 214, 229, 306, 909.  
 加藤友三郎 1573.  
 桂太郎 877. ——内閣 803.  
 河田嗣郎 2301, 2304, 2306, 2307, 2312. ——『農政學』 2354. ——『農村問題と對策』 2300. ——『土地經濟論』 2360. ——の農村心理と時代思想 2300.  
 河上肇 457, 465, 468, 660, 788, 791, 826, 1049, 1205, 1211, 1217, 1287, 1307, 1410, 1415, 1417, 1683, 1841. ——『貧乏物語』 659, 1141, 1143, 1253, 1284, 1371. ——の經濟的不足 1260.  
 河村瑞軒 1929.

川島清治郎 1424.  
 ケーンズ (Keynes) 1466, 1477, 1479, 1487, 1490, 1523, 1530, 1604, 1606, 1661, 1701, 1703, 1704, 1735. ——『印度の幣制及財政』 1467. ——『平和の經濟的結果』 (The Economic Consequence of the peace.) 1466, 1527, 1700. ——の獨逸の賠償問題 1486.  
 氣賀勘重 315, 911.  
 木村久一 1264.  
 キング (King) 1868.  
 北澤新次郎 1205.  
 清浦奎吾 1625. ——内閣 1921. ——内閣の緊縮策 1625.  
 小林丑三郎 1390.  
 ケルゲル (Kärger) 2161.  
 小泉信三 1802, 1804, 1805, 1807.  
 河野廣中 792, 808.  
 クロツ (Klotz) 1481.  
 孔子 138, 1141. ——の言葉 1284.  
 胡適 1691, 1694.  
 クロポトキン (Kropotkin) 『相互扶助論』 1421.  
 クルップ (Krupp) 903, 905.  
 黒田英雄 72, 721.  
 黒岩周六 463, 1217.  
 桑木嚴翼 965, 1431.  
 『共產宣言』 1049.  
 『舊約全書』 1184, 1186.

## L

ラファルグ (Lafargue) 『財産起源論』 1421.  
 ラムプレヒト (Lamprecht) 2201.  
 ランシング (Lansing) 197, 1388.



ボラート (Bollert), Einsteins Relativitätstheorie. 1464.  
 ボン (モーリツ) (Bonn, Moritz) 356, 1524. —, Die wirtschaftlichen Folgen des Friedensvertrags. 1466.  
 ボーサンケー (Bosanquet) 1090.  
 ブートルー (Boutroux) 1433. —『戦争と哲学』 273, 925, 961, 1432.  
 ブレー (Bray) 830.  
 ブレンダノ (Brentano) 59, 73, 82, 223, 942, 1358, 2198, 2199, 2200, 2234. —『現今獨逸國軍備の基礎』 2174. —『自由貿易の學說論』 2147. —『農政學』 2146, 2339. —『資本主義の起源』 1426. —の商業戦の狂愚 72. —の欲望の分類 1240.  
 ブリングマン (Bringmann) 1466.  
 ブュヒアー (Bücher) 2022.  
 バーク (Burke) の政治論 111.

## C

ケーザー (Caesar) 1174.  
 カルヴェン (Calvin) 1179, 1189.  
 カンパネラ (Campanella) 1424.  
 カーライル (Carlyle) 534, 1217. —の君主論 111.  
 カスパー・シュミット (Caspar-Schmidt) (Stirner ヲ見ヨ)  
 キャッセル (サー・アーネスト) (Cassell, Sir Ernest) 336.  
 カシーラー (Cassirer), Zur Einsteinschen Relativitätstheorie. 1463.  
 キャテル (Catell) 395.

カプリヴィ (Caprivi) 2241.  
 チャムバーレーン (Chamberlain) 184, 524, 557.  
 基督 12, 1183, 1184, 1185, 1187, 1245, 1264, 1580, 1667, 1693.  
 クロドヴィヒ (Chlodwig) 1177,  
 クレマンソー (Clemanceau) 1469, 1472, 1476, 1528, 1671.  
 コルベア (Colbert) 2234, 2236.  
 コルマン (Collmann) 2146.  
 『コンラッド (Conrad) 年報』 1493, 1853, 2146.  
 コザック (Cosac) 1906.

## D

ダナ (Danna) 100, 395.  
 ダルウヰン (Darwin) 108.  
 デフォー (ダニエル) (Defoe, Daniel) 『ロビンソン物語』 62.  
 ディロン (Dillon) 1508, 1528. —, The peace conference. 1469.  
 デングラー (Dingler), Relativitätsprinzip und Oekonomieprinzip. 1464.  
 ダンニング (Dunning) 134.

## E

エベルト (Ebert) 312, 325, 1050, 1128, 1304.  
 エッジウォールス (Edgeworth) 657.  
 『エコノミスト雑誌』 14, 18, 865.  
 アインシュタイン (Einstein) 1435, 1440, 1453. —の新発見 1438. —の相對説 1434, 1435.  
 エリザベス (Elizabeth) 814.  
 エルザ (Elsa) 2193, 2195. 慧

き—の話 2191.  
 エンゲルス (Engels) 182, 1048. —の國家起源論 1421.  
 エルベン (Elben) 2173.  
 オイレンブルヒ (Eulenburg) 1493, 1496.  
 イヴリン (ジョン) (Evelyn, John) 1868.

## F

フェルチナンド (Ferdinand) 2232.  
 フィヒテ (Fichte) 1239, 1423, 1928, 1929, 1939, 2195. —の領國論 58.  
 フィツギス (Figgis) 145.  
 フィツシャー (アーヴィング) (Fisher, Irving) 799, 864.  
 フィツシャー (Fischer), Das Einsteinsche Relativitätsprinzip. 1464.  
 フォツシュ (Foch) 233, 245, 887.  
 フリエー (Fourier) 1423.  
 福田徳三 『ボルシェヴィズム研究』 2296. —『經濟危機と經濟恢復』 2296. —『國民經濟講話』 86, 660, 1853. —『經濟學教科書』 1227. —『労働經濟講話』 1259. —『労働經濟論』 2202. —『經濟學考證』 341. —『流通經濟講話』 2327. —『續經濟學研究』 341. —『續經濟學講義』 1257.  
 布施辰治 1894, 1896.

## G

ガリレオ (Galileo) 1435.

ガーフィールド (Garfield) 415.  
 ガイゲル (Geiger), Die Philosophische Bedeutung der Relativitätstheorie. 1464.  
 ゲルソン (Gerson) 1190  
 ギード (Gide) 825.  
 グラッドストーン (Gladstone) 17, 158, 994.  
 ゴドウキン (Godwin) 824, 830  
 後藤新平 1928, 1933, 1943.  
 グラハム (Graham) 111.  
 グロント (Graunt) 1868.  
 グリーン (Green) 99.  
 グレゴリー大法王 (Gregory) 1184.  
 グレー (Gray) 207, 289, 331, 332, 333, 366, 351, 994, 995.  
 グロート (Grote) 128.  
 グローシアス (Grotius) 97, 98, 99, 108, 109, 115, 121, 132, 142, 326, 405, 923. —『海の自由』 (Mare Liberum) 98, 325. —『戦争と平和』 123. —の著書 116, 155. —の自由海論 117. —の神の旨 135. —の國家論 131. —の國家主權論 134. —の自然法 130. —自然法論 126. —の思想 116.

## H

ハルデンベルヒ (Hardenberg) 2240  
 ホール (Hall) 830.  
 濱口雄幸 798.  
 花井卓藏 256. —の自救權 248.  
 花岡敏夫 1896, 1899, 1912, 1916, 1982, 1993, 2003.  
 アノトー (Hanotaux) 『經濟形



## 索引 (其一)

### ——人名索引——

#### A

安部磯雄 1064, 1356, 1395, 1400.  
エニウス (Aënnius) 127.  
天野爲之 879, 1467.  
アモン (アルフレッド) (Amonn, Alfred) 1854.  
アンドラー (Andler) 829.  
姉崎正治 96, 100, 105, 107, 115, 125, 128, 136, 147, 210, 327, 391, 405, 698, 791, 920, 927, 1470, 1671.  
青木徹二 1711, 1734.  
青山衆二『保険契約論』 1226.  
アンダーソン (Anderson) 1701, 1740.  
アリストテレス (Aristoteles) 137, 971.  
アスゲル (ジョン) (Asgill, John) 1869.  
アシュレー (Ashley) 2201.  
アスキス (Aequith) 148, 204, 418, 547, 670.  
オーガスチン (Augustin) 1184.  
オースチン (Austin) 112.

#### B

ベーコン (Bacon) 25, 1420.  
ベアード (チャールズ) (Baird, Charles) 395, 400, 1027, 1030.  
バクーニン (Bakunin) 824.  
バルフォーア (Balfour) 204,

206, 207, 547.

バーボン (ニコラス) (Barbon, Nicholas) 1869.  
バルバイラック (Barbeyrac) 124.  
バーデン公 (Herzog von Baden) 192.  
バットラー (ニコラス) (Butler, Nicholas) 395.  
ベーベル (Bebel) 899, 1340.  
ベロー (Below) 2201.  
ベントム (Bentham) 26, 97, 110, 111, 115, 1225.——功利説の根柢 128.——の功利哲學 1234.  
ベルグソン (Bergson), Durée et Simultanéité a propos de la theorie d'Einstein. 1463.  
バークレー (Berkeley) 115, 146.  
ベルリナー (Berliner) 1711, 1797, 1806, 1807, 1809, 1810, 1813, 1819, 1862.——の復興經濟論 1360.  
ベルンシュタイン (Bernstein) 832.  
ビンデワルド (Bindewald) 2173.  
ビスマルク (Bismarck) 7, 160, 161, 223, 523, 896, 898, 935, 941, 991, 993, 1306, 1929, 2239.——の社會黨鎮壓 951.——の社會黨鎮壓策 936.  
ブルンチュリー (Bluntschli) 114.——の『國家學』 1169.  
ブーダン (Boudin) 1211, 1287.



經濟學全集  
第六集  
經濟政策及時事問題  
人名索引

昭和二年九月五日 印刷  
昭和二年九月十日 發行

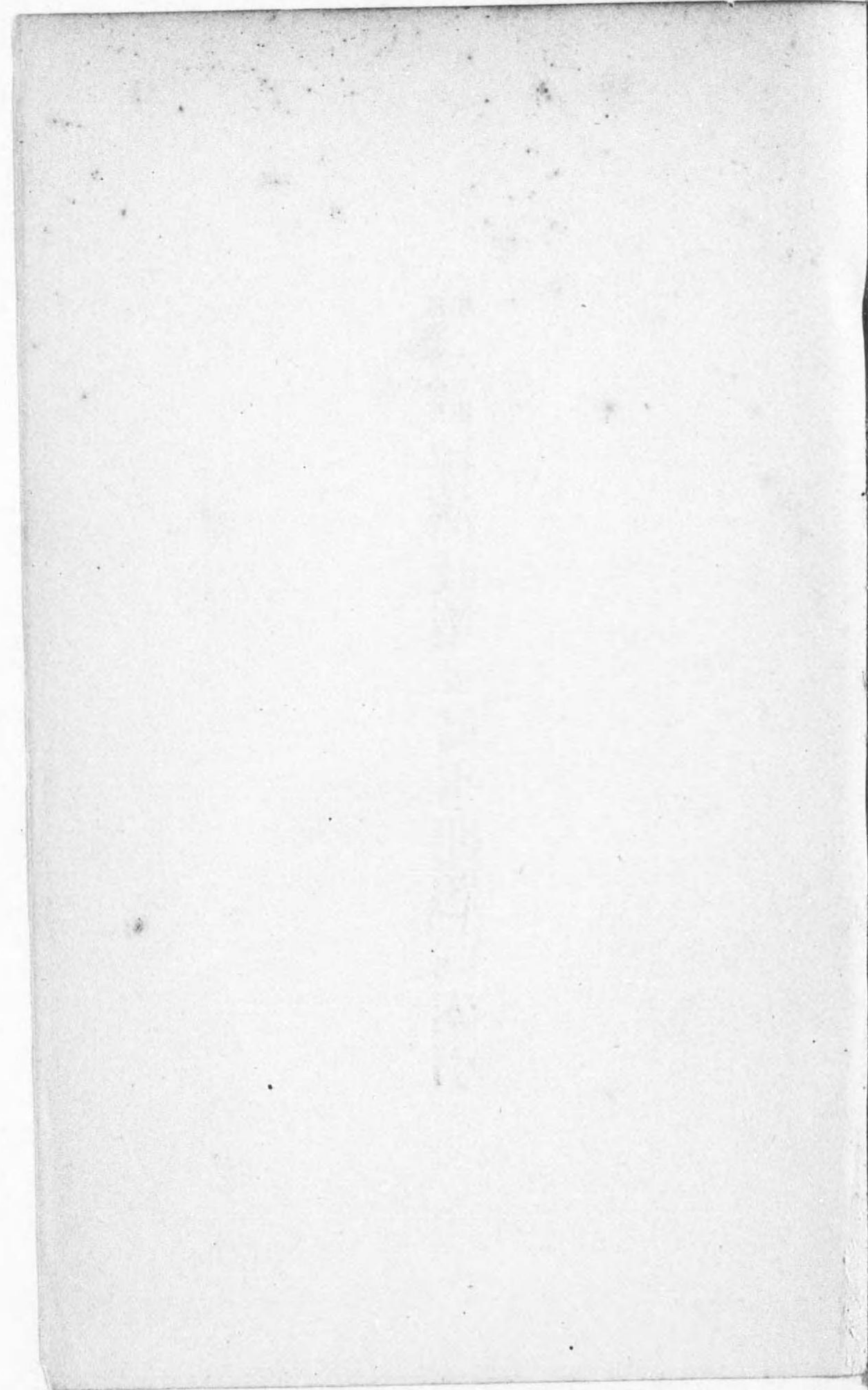


廉刷版經濟學全集  
第六集經濟政策及時事問題  
第五分册

著者 福田 德三  
 發行者 株式會社 同文館  
 右代表者 東京市神田區表神保町二番地  
 印刷者 田中 六藏  
 印刷所 鷺見 九市  
 製本者 株式會社 秀英舍  
 山縣 純次  
 東京市神田區今川小路一ノ一

發兌  
 東京市神田區表神保町二番地  
 電話神田九三三・三〇八〇番  
 振替貯金口座東京一三五番  
 株式會社 同文館





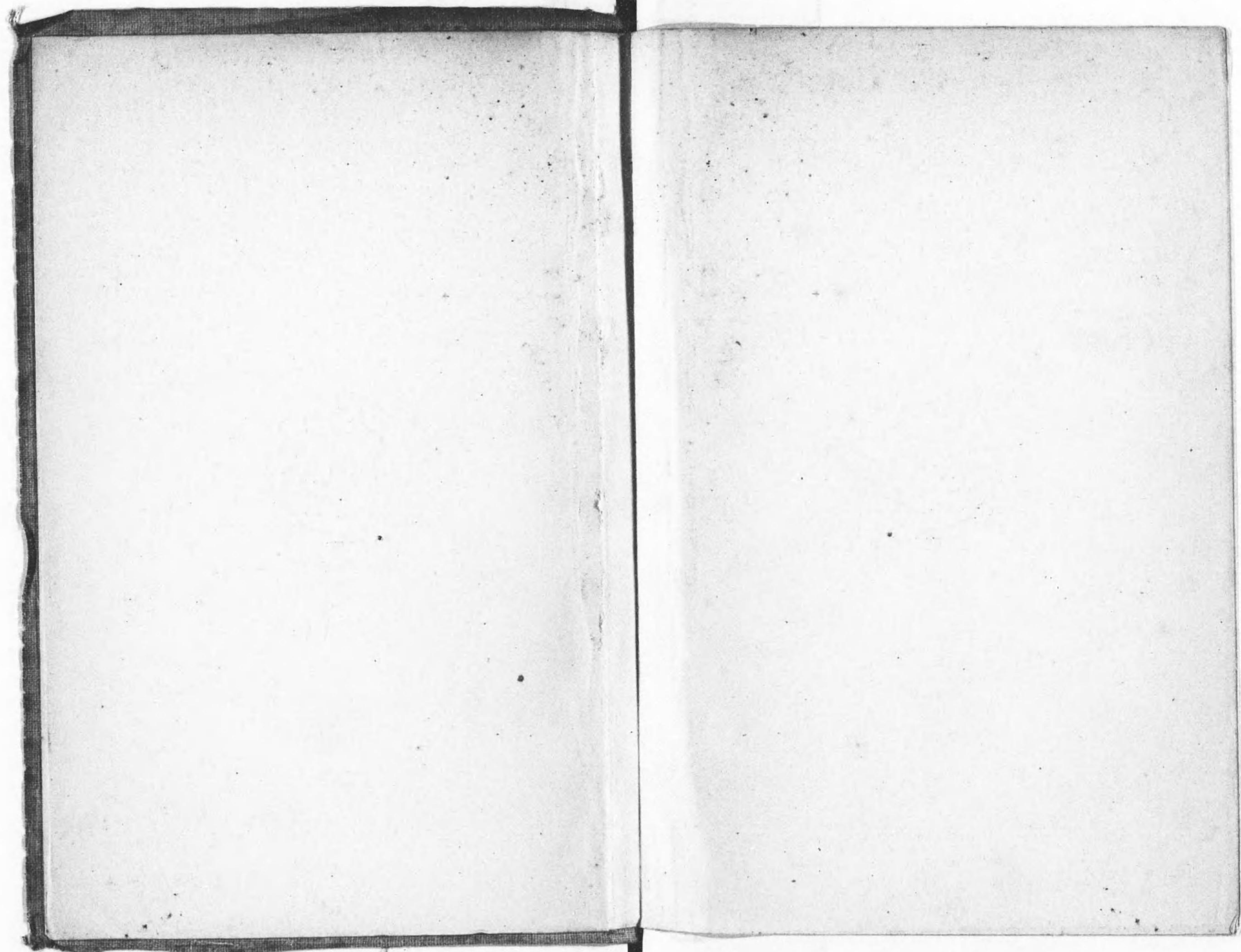
Vertical text on the right side of the page, likely a title or chapter heading, written in traditional Chinese characters. The text is arranged in a column and appears to be a list or index of items.

Vertical text on the left side of the page, likely a title or chapter heading, written in traditional Chinese characters. The text is arranged in a column and appears to be a list or index of items.

A small rectangular stamp or seal is located in the upper right quadrant of the page, containing illegible characters.

A faint grid or table structure is visible in the center of the page, with several columns and rows of text, possibly representing a list or index of items.







終